

ガンニー・バツグも亦印度の世界的輸出品として重要産物なるが、其輸出額は二億四千九百二十七萬七千留比(四十七萬七千噸に)達する處、其最大輸出先は塊地利にして同國向凡そ二割一分を占む。其他瓜哇、玖馬、英國、支那、南阿等は主なる輸出地なり。我國への輸出額は四百三十六萬五千留比に過ぎざる現状なり。尙其輸出地は之亦大部分製産地たるカルカッタなり。既往二年間の國別及港別輸出状況左の如し。

輸出先	ガンニー袋輸出高 (單位箇、千留比)		
	數	量	金
英國	一九二七—二八年 四六、一二一	一九二八—二九年 四四、六〇四	一九二七—二八年 二〇、〇六九
海峽殖民地	一五、六三九	一一、七六六	八、〇三九
瓜哇	一一五、七七〇	四二、〇八一	一四、六三一
暹羅	一四、四二五	一一、四一〇	七、四〇〇
印度支那	一三、八八八	一五、四二四	六、五〇四
支那	二五、二八〇	二四、九八五	一一、八〇八
日本	一八、六九四	八、七五三	九、五二〇
埃及	一四、二一一	一五、六九七	七、七一
南阿弗利加	一八、五九八	二〇、二六三	一〇、八三七
葡領東阿	九、六七〇	一一、四一五	四、七三四
米國	二〇、七四四	一九、九〇七	五、六六九
玖馬	二八、一八九	三三、四四七	一八、四九一
智利	三九、一一一	三七、八五四	一四、八九一
塊國	七六、五二九	九一、三〇七	四四、二一八
ニュジランド	一〇、一五三	一一、〇一八	五、六六一
其他	八六、二〇八	九四、七五四	四一、五六一
計	四六三、一四〇	四九七、六八五	二二二、七四四
	四四五(千噸)	四七七(千噸)	
	ガンニー袋港別輸出高 (單位箇、千留比)		
輸出港	數	量	金
カルカッタ	一九二七—二八年 四六二、一一七	一九二八—二九年 四九六、六一三	一九二七—二八年 二二二、一六〇
孟買	九五一	八八四	五五六
カラチ	六七	一三八	二六
マドラス	二	八	一
蘭貢	三	四二	一

第十四 黄麻			
輸出港	數	量	金
カルカッタ	一九二七—二八年 四六二、一一七	一九二八—二九年 四九六、六一三	一九二七—二八年 二二二、一六〇
孟買	九五一	八八四	五五六
カラチ	六七	一三八	二六
マドラス	二	八	一
蘭貢	三	四二	一

黄麻も亦棉花と相並ぶ重要輸出品にして、其輸出範圍極めて廣く其輸出額より見るときは、大凡棉花輸出額の半分位な

り。最大輸出先は獨逸の二十六萬噸、八千九百六十二萬六千留比、即ち二割七分七厘を占め、其他英國は二割、佛蘭西一割二分五厘、米國一割〇分六厘、伊太利七分見當なり。我國への輸出货量は漸く一萬二千噸、三百六十七萬三千留比見當なるを以て他國に比すれば僅少なるも、我對印度輸入品としては重要な商品たり。既往二年間の各國別輸出高及港別輸出状況は左表の如し。

輸出先	ジュート輸出高 (單位千噸、千留比)		
	一九二七—二八年	一九二八—二九年	一九二七—二八年
英國	二二二	二〇二	七六、八〇七
獨逸	二五〇	二六〇	八五、三八四
和蘭	二一	一七	六、九五三
白耳義	四九	五五	一六、二〇三
佛蘭西	一〇九	一一〇	三六、七〇〇
西班牙	四五	四三	一五、二〇三
伊太利	四九	六一	一七、〇八〇
支那	五	六	一、六三八
日本	一二	一二	三、四七五
其他	三	三	四、四五九
計	一九二七—二八年	一九二八—二九年	一九二七—二八年
	二二二	二〇二	七五、七〇三
	二五〇	二六〇	八九、六二六
	二一	一七	六、一〇五
	四九	五五	一六、〇四九
	一〇九	一一〇	四〇、四六七
	四五	四三	一五、五二五
	四九	六一	二二、八三五
	五	六	一、八八六
	一二	一二	三、六七三
	三	三	四、四九四

輸出港	ジュート港別輸出額 (單位千噸、千留比)		
	一九二七—二八年	一九二八—二九年	一九二七—二八年
米國	八四	九四	三〇、五九九
亞爾然丁	六	六	二、二二三
ブラジル	一九	一一	七、四〇一
其他	七	六	二、二二九
計	八九二	八九八	三〇六、六二六
輸出港	ジュート港別輸出額 (單位千噸、千留比)		
	一九二七—二八年	一九二八—二九年	一九二七—二八年
カルカッタ	八九〇	八九五	三〇六、一〇七
孟買	一	一	三
マドラス	二	三	五一六
蘭貢	一	一	一
第十五 米			
	一九二七—二八年	一九二八—二九年	一九二七—二八年
	八九〇	八九五	三〇六、一〇七
	一	一	三
	二	三	五一六
	一	一	一
	八九八	八九八	三三三、四九二

米の生産は印度の到る處に行はれ、其栽培面積に於ては印度農産物中第一なり。年輸出货量は一定せざるも、一九二八—二九年中に於ける總輸出額二億五千九百九十萬留比(百七十六萬五千噸)に達し、錫蘭向最も多く約二割六分にして、其他獨逸、海峽殖民地方面、スマトラ等多し。我國へは當年度は外米輸入制限に依り印度米輸入の減退を見たるも、其前年の

輸入額は十五萬噸、二千二百五十六萬二千留比に及べり。尙輸出港は蘭貢港を主とす。既往二年間に於ける國別輸出額及港別輸出状況は左の如し。

米輸出高 (單位千噸、千留比)

輸出先	一九二七—二八年 數	一九二八—二九年 量	一九二七—二八年 金	一九二八—二九年 額
英國	五〇	六九	七、二五八	九、三七一
獨逸	三四六	一八八	五一、一六二	二六、三五三
和蘭	九六	五五	一四、〇六四	八、〇一四
アラビア	五四	五〇	一一、二八五	九、六六八
錫蘭	四六一	四一七	七四、七七八	六六、六一三
海峽殖民地	一九一	一七七	二七、三二六	二三、〇〇五
スマトラ	一一二	一一二	一六、九一二	一四、〇七一
日本	一五〇	六	一一、五六二	八五〇
モウーリシヤス	六五	五八	一一、五二五	一〇、二八八
其他	六一七	六三三	九九、五五三	九一、六六七
計	二、一五二	一、七六五	三三六、四二五	二五九、九〇〇

米港別輸出高 (單位千噸、千留比)

輸出港	一九二七—二八年 數	一九二八—二九年 量	一九二七—二八年 金	一九二八—二九年 額
カルカッタ	一二七	一〇七	二七、七一	二二、七二一
孟買	二〇	一七	五、〇八四	四、三五八
カラチ	四七	五〇	九、四九一	九、九六〇
マドラス	一〇四	一〇五	二〇、一五五	二〇、四五六
蘭貢	一、八八九	一、五三八	二七七、六三一	二〇七、一六二
其他	—	—	—	二八

(備考) 本表中には穀及粉をも含み居る爲、前表の計には符合せず。

第十六 羊 鞣 皮

印度に於ける皮革業に關しては別に述ぶる通りなる處、其輸出額年二千萬留比に上り、其七割五分強を英國に輸出し、一割七分を我國へ輸出す。産地はマドラス方面なる關係上マドラス港よりの輸出品最も多し。既往二年間の輸出額左に示す通り。

羊鞣皮輸出高 (單位噸、千留比)

輸出先	一九二七—二八年 數	一九二八—二九年 量	一九二七—二八年 金	一九二八—二九年 額
英國	二、七〇二	二、三四四	一七、二三八	一五、三九五
海峽殖民地	一三六	一一〇	六八三	五四五

第一章 印度より外國向輸出品

第一章 印度より外國向輸出品		一七二
日本	五三二	六九三
米國	三六	六九
其他	九〇	八九
計	三、四九六	三、三〇五
		二、四七七
		二〇、三九五
		二、八八一
		二四一
		四三四
		三八二
		三、五八五
		四八八

第二章 日本より印度向輸出品

第一 木 材

一九二七—二八年中に於ける印度輸入木材(燐寸用材及鐵道用枕木を除き木加工品を含む)は八百十四萬七千留比に達し居る處、其中英國の百七十四萬五千留比、我國の百五十一萬七千留比及暹羅の百三十一萬七千留比を除けば他は比較的少く、支那、瑞典等よりの輸入等多き方なり。

既往五年間に於ける印度輸入木材及同加工品の輸入年別額を各輸入先について見れば左の如し。

木材及加工品輸入國別調 (單位千留比)

輸 入 先	一九二二—二四年	一九二四—二五年	一九二五—二六年	一九二六—二七年	一九二七—二八年
英國(諸領を含む)	一、九六四	一、七六〇	一、七七四	一、七〇一	一、七四五
瑞 典	二七九	八六二	六三四	五〇五	九二二
獨 逸	一八二	一八四	一八一	一七三	五四六
伊 太 利	一一	四五	四九	六四	一四三
致 須 利	一	八	九六	一四一	二〇六
暹 羅	一、八一〇	一、四九三	七八〇	一、〇五二	一、三一七
印 度 支 那	三三二	四五	七一一	五一六	三五二
第二章 日本より印度向輸出品			一七三		

第二章 日本より印度向輸出品

日 本	米 國	其 他	計
一、六九六	一一二	一五四	六、五三九
七四四	四八一	二五二	五、八七四
一、六二三	三七六	三四一	六、五六五
二、二九八	六六〇	二八九	七、三九九
一、五一七	八〇三	五九六	八、一四七

港別輸入額左の如し。

輸 入 港	一九二二—二四年	一九二四—二五年	一九二五—二六年	一九二六—二七年	一九二七—二八年
カルカッタ	一、〇〇一	一、四三二	一、七〇四	一、九九〇	二、二三五
孟 買	四、二六九	二、九二二	三、五〇五	四、〇二六	四、四六四
カ ラ チ	一五八	二一〇	一九三	二七四	三〇五
マ ド ラ ス	四四五	六〇四	四五一	五〇八	五四八
蘭 貢	六六六	七〇八	七二二	六〇一	五九五

次に印度産木材を見れば其主なるものは白檀、麻栗樹、檉楡、トネリコ、楓及ヒマラヤ杉等にて、是等は内地に於て諸器具に加工せられ又は建築材料に充てられ居り、年々外國へ輸出するもの亦尠からず。

一九二七—二八年中に於ける印度産木材及加工品の輸出額は千六百五十七萬三千留比の巨額を示し、其輸出割合は英國（諸領を含む）へ千〇七十四萬留比（六割二分四厘）、和蘭へ百十四萬六千留比（六分九厘）、獨逸へ百四十八萬一千留比（八分六厘）、東阿へ八十四萬二千留比（五分一厘）、米國へ百三十七萬九千留比（八分三厘）其他我國へも一萬五千留比の輸出をなし居れり。

次に當地市場の取引に關し一有力木材商の云ふ處を聞くに、當市に參集する木材の種類は種々に岐れ居る處、主なるものは松、樅、チーク材、ブラック・ウツヅ、カイヤル材等にしてチークは緬甸の蘭貢、ムルメル及印度西海岸に沿ふ一帶（孟買省マラバ）の各地より産出し、主として建築材竝家具材として使用せらる。而してグヂラツト地方のワルサード附近に産するカイヤル樹は頗る質堅く、膠質強く、容易に蟲害に侵さるゝ憂なき爲、屋根裏や天井板に用ひられ、チーク材には劣れど相當價值ある木材と認められ居れり。尙ブラック・ウツヅは前記印度西海岸一帶の森林竝パンジャブ地方より産せられ主として家具用に充てらる。

輸入材の主なるものは松、樅材にして之は本邦、瑞典、米國産多く而して印度西海岸及カリカット地方にも産し梁、燐寸用材、板材として廣く使用さる。

各種木材の値段の比率は大體左の如し。建値は常に松を標準とす。現在相場は船側渡蘭貢松一噸（四十才）二百三十五留比見當なり。

松、樅	100%
カイヤル材	100
ムルメーンのチーク	150
ブラック・ウツヅ	300

輸入木材は一箇年大凡七萬五千噸位にして、前記松、樅等を主とす。其割合を孟買市について見るに左の如し。

米 國	10%
日 本	30%

第二章 日本より印度向輸出品

最後に参考の爲附言したきは

イ、ベニヤ板は未だ印度にては其特徴が深く認められざるも、日本の上等品は宣傳の方法宜敷を得ば相當の賣行あるべし。
 ロ、杉板、プライト・ウッドは額裏、鏡裏、扉、机其他用途廣きに拘らず、本邦品は値段の點と積出期日の不正確とより著しく需要を減殺され居るやうなるが、是等は本邦輸出業者等の考慮を煩はし度きものなり。
 ハ、ダーヂリン地方にては製茶業極めて盛んなるが故に、縦の茶箱板は輸出の可能性存すべく、之を本邦より輸出可能なるに於ては相當需要あるべし。
 ニ、燐寸用材は浦鹽より來るもの有望視され居る處、積取汽船の都合上運賃割高の爲充分の結果を得られざるに付、未だ印度内地の燐寸材を恣に得られざる今日將來共輸入材の需要は仲々多かるべし。尙シベリヤ材は將來相當注目に値するを以て運賃と値段との問題は相當研究の價値あらん。

第二 紙 類

一九二七—二八年中印度輸入紙類は總輸入額二千六百九十五萬二千留比に達し、其中三割九分は英國より、一割一分を獨逸より、一割三分を諾威より輸入し、本邦品の輸入は四十七萬七千留比即ち總高の一分八厘に過ぎず。次に本邦よりの輸入紙類はボール紙、包紙を主とし其他書翰用紙、封筒、コッビー・ペーパー、印刷用紙等なり。就中ボール紙は相當好評を博し居る模様なれば、此際成るべく内地に於ける生産費を切詰め精々値段の點に於て競争出來得れば我製品の販路擴張強ち難事にも非ざるべし。元來本邦品は曾て大戰當時は相當の賣行ありしも、戦後歐洲品の輸入旺んとなるに及び、遂に市場より驅逐さるゝの形となりたり。之歐洲品が品質に於て優る外比較的値段廉價なるが爲にして、本邦品が現在昔日の如

き勢力なきは品質よりも寧ろ値段の點なるを以て、此際本邦品の地位を築かんとせば矢張り一、二割方の値下を斷行する外なかるべし。

當地市場に好評なるは諾威、瑞典及其他の歐洲品にして印度内地製品も相當廣く消費せられ居れり。

前述本邦紙の好評なるものはボール紙なるが、之は手工用及包装用として用途廣き處、近來和蘭及獨逸品との競争激しくなり、和蘭品は品質卓越し然かも比較的廉價の由にて輸入數も可成り多量を占むるに至れるものゝ如し。

本邦ボール紙中主なるマークは「N」「S」「F」「K」「H」「B」「Y」「E」印等にして、就中「N」印最も好評を博し需要多く、其他も相當の需要を見つゝあり。

本邦ボール紙の相場は第一種(八「オンス」—十六「オンス」)一Cwtに付四留比十二安、第二種(二十「オンス」—四十八「オンス」)五留比十二安位なる由なるも、和蘭品は第一種七志(四留比十安八杯見當)第二種九志(約六留比見當)にして建値はC.i.F.C.iなり。

一九二七—二八年中に於ける印度輸入紙類の各國別輸入額は左の如し。

紙類各國別輸入額(單位千留比)

輸入先	一九二三—二四年	一九二四—二五年	一九二五—二六年	一九二六—二七年	一九二七—二八年
英國	一一、六九三	一一、四〇三	一一、二三六	一〇、三六九	一〇、四二七
諾威	一一、五〇五	一一、七〇六	一一、五二八	三、一〇四	三、四一六
獨逸	四、四八九	六、〇三三	三、二二〇	四、五三六	三、〇四二
填地利	七五四	一、二一〇	一、七〇二	一一、二五五	一、八二三

米	三九一	九三四	一、二九〇	一、四五九	一、三〇四
日本	二五三	二一一	二五五	二七九	二五八
其他	三、〇六〇	四、一一一	四、九六六	五、七五二	六、六八二
計	二四、一四五	二七、六〇八	二五、一八七	二七、七五四	二六、九五二

第三 花 薙

孟買に輸入せらるゝ敷物殊に花薙類は支那製品及本邦製品なるが、一般に支那品は無地物多く品質は比較的耐久力に富み、然かも我製品より見て割安なるを以て市場に於ける氣受けよく需要も多しと云ふ。然るに本邦品は相當數量の輸入あるも、模様竝サイズが限定せられ居るのみならず、品質劣り、耐久力に乏しとの非難ありて、出來榮えも一見美麗なるに拘らず餘り好評を博し居らざるが如し。

當市場に於ける當業者の云ふ處を聞くに、本邦品は三種に區別せられ、第一種及第二種は上物なるも値段高く、印度向としては第三種即ち三等品が最も多き爲、品質粗悪なるを免れず。故に一等品及二等品を今少しく値下げするに於ては需要は充分潜在し居るべしと云ふ。尙依然見本と現送品の相違等の爲苦情多きを以て註文品積出に際しては充分品質の統一に重きを置き且値段の亂高下なきを期せざるべからず。

現在當地市場に輸入されつゝある一般向花薙のサイズは左の如し。

巾	三十六吋	長さ	七十二吋
巾	三十六吋	長さ	六十八吋
巾	三十四吋半	長さ	六十八吋

右は何れも五十枚一巻とし、見當相場 C.I.F.C.I 九安乃至十安位なりと。

尙回教徒の祈禱の際に使用する薙としてマツサラ一と稱する(大さ巾二呎長さ四呎) C.I.F.C.I 値段六、七安のもの相本邦より輸入せられ居る處、之は將來共相當需要の可能性ありと思考せらる。

床敷薙は多く支那より輸入せられ居る處、一巻四十碼物十三弗を上下し居れるが、是等支那品は殆ど甲板積として輸送さるゝ爲、運賃安く多少航海中の損害を來すことあるも、餘り苦情を聞かずと云ふ。要之當市場向としては極力安値なること及大さを印度需要者向に製作すること肝要にして、年來右賣込の爲當市場を調査したる某邦人の如きは餘りの安値に驚き斯くては到底取引の可能性なしとて急遽歸國したる事例さえある程なり。

(單位千留比)

輸入先及輸入港	一九二二—二四年	一九二四—二五年	一九二五—二六年	一九二六—二七年	一九二七—二八年
英國	一一八	一一二	一四六	一一九	一四三
支那	一三四	一五三	七九	一五五	九三
日本	一〇一	八〇	一六五	二二〇	一五六
其他	一五	一〇	三	一四	六
合計	三六八	三五五	三九三	四九八	三九八
カルカッタ	一二	一一	一六	三一	五一
孟買	二三八	二二三	二四七	三三七	一八五
カラチ	一四	一一	二〇	一七	一八

第二章 日本より印度向輸出品

マドラス	五七	五三	四七	一八〇
蘭 貢	四七	四六	六三	五〇
				六三
				八六
				五八

一九二八—二九年中印度への燐寸輸入高は百七十二萬二千留比(百五十三萬二千「グロス」)を示し居る處、量に於て其八割七分七厘、價格に於て八割七分二厘は瑞典燐寸なれば他國よりの輸入品は頗る少く、本邦品は僅に七萬九千「グロス」、八萬一千留比を止むるに過ぎざる現状なり。

最近印度燐寸の激減顯著なるものありて、量、價共數年前の五分の一に減じ其最大輸入先たる瑞典すら一九二五—二六年當時に比すれば四分の一に減じたり。然るに殊に減退の跡著しきは本邦製品にして、五年前四百七萬七千留比の輸入を見たるに對し、最近(一九二八—二九年)にては八萬一千留比即ち約二分に激減したり。

尙地方別に輸入減退の状況を見るに、其最も著しきはカルカッタ乃至孟買地方にして何れも五年前の七分の一或は八分の一に減じたるが、右は近來兩地に燐寸工業が著しく勃興したるに因る。比較的輸入減退率少きは蘭貢にして、同地方が僅に望みを繋ぎ居る位なり。

輸入燐寸の國別及港別輸入状況左表の如し。

燐寸各國別輸入高調 (單位千「グロス」、千留比)

輸入先	數	量	金	額
英國	一九四—二五	一九五—二六	一九六—二七	一九七—二八
	七九	四四	五八	四七
				(不詳)
				一一八
				六六
				一一三
				一一一
				(不詳)

瑞典	三、〇一五	四、八四七	四、五二一	二、九三六	一、三四四	三、九三三	六、〇六五	四、八〇二	三、二四八	一、五〇五
諾威	二二六	八六	一二六	六八	一	三三三	一一一	一七七	八二	一
致須	二五二	五〇三	三二〇	一一五	三四	二四〇	四八六	二八〇	一一五	三五
日本	三、四九七	二、二九一	九五六	三三〇	七九	四、〇七七	二、四六三	一、〇五八	三四七	八一
其他	一八六	一六七	一一一	二四	七五	一九八	一五四	一一〇	二四	一〇一
計	七、二六五	七、九三八	六、一〇二	三、五二〇	一、五三二	八、八八九	九、三四五	六、五六〇	三、九三七	一、七二二

燐寸港別輸入額 (單位千留比)

輸入港	一九二三—二四年	一九二四—二五年	一九二五—二六年	一九二六—二七年	一九二七—二八年
カルカッタ	四、八〇四	三、三二九	二、六〇八	一、二二五	六四七
孟 買	五、三二一	二、四一三	二、四二四	一、四三五	七八四
カラチ	一、七三六	一、一一八	一、四三〇	一、一三四	七二一
マドラス	一、二八八	一、二五四	一、二八八	一、二一八	五〇八
蘭 貢	一、四四三	八七五	一、五九五	一、五四八	一、二七七
計	一四、五九二	八、八八九	九、三四五	六、五六〇	三、九三七

右統計の示す通り燐寸輸入の激減は實に驚くべきものあり、殊に本邦燐寸が如斯急劇なる減退を來せる所以は、

- (一) 瑞典燐寸に壓倒されたること。
- (二) 輸入關稅法外に高きこと。

(三) 印度内地に於ける燐寸製造業の勃興を見たること。

等に因るものなり。先づ(一)について述べれば彼の世界的に全力を傾け居る瑞典燐寸は茲七、八年の間全印度に亘り益々發展を遂げ、數百萬留比に上る巨額の投資を意とせず所在工場を逐次買収し、全印度の燐寸支配權を獲得せんことに汲々たるものありしが、現在孟買、カルカッタ、マドラスに各大工場を置き、尙コロンボ及蘭貢にも各一工場を設け、一日平均八千「グロス」の生産能率の下に嶄新の器械を利用し安値供給をなし居る有様なり。(二)に就いては一九二四年中從來輸入燐寸關稅は一「グロス」十二安なりしものを一躍其倍額の一留比八安に改められたる爲、餘程原價を下げざる限り印度輸入採算不能の状態に陥れる矢先き、印度燐寸業者間にも猛烈なる競争起り、爲めに小賣値段の如き現今にては一「グロス」十二安見當の安値賣を餘儀なくせらるゝ結果、斯かる高率なる課稅を受くる外國燐寸が到底右國產安値燐寸と競争なし能はざる爲、勢ひ輸入品は驅逐せらるゝの運命に逢着し居る次第なり。尙(三)については既に總說編に於て述べたるに付茲には之を省略す。

尙序ながら附言し置くは燐寸用材其他の材料のことなるが、現在印度にて製造さるゝ燐寸軸木、箱用材、包裝又はレツテル紙等は主として本邦、瑞典、獨逸等より輸入を仰ぎ居る處、茲に最近の輸入狀況を述べんに

イ、軸木 近年迄は主として日本の白楊を神戸より取寄せ居たるも、神戸に於ける相場法外に高き爲、最近は獨逸及奧國等より輸入するもの多き模様なり。瑞典系統の會社は是等の材木をサイト附D/A タイムの註文にて買付けて使用し居る處、現在相場はC.I.F.C.I 噸當り七磅十志位なりと云ふ。尤も下級材木は本邦よりの輸入を仰ぐもの多く、之は比較的船積の便宜ろしく殆ど定期的に入港するの便あるが爲にして、白楊は原價高に加へて運賃も相當張る模様なり。
ロ、藥品 藥品原料は本邦及獨逸品、相中半し居れり。

ハ、レツテル紙並包裝紙 機械張用紙は多く瑞典製を用ひ、小張の紙は本邦より仕向けらるゝものあり。又當地製のものにして間に合はず向もある由なり。

ニ、箱用材 何れも雨季以外は殆ど全部サウリを使用し、現在孟買界限にては品切を告ぐるに至れる爲、パンジャブ及コラバ方面より供給を仰ぎ居れりと。相場噸當り約四十留比見當。

第五 額 椽

當地に於ける額椽の輸入量は統計上據るべきものなきと、且之が取引に従事する商人は何れも規模大ならず各所に散在し居るを以て、之を窺知すること困難にして茲に數字を擧げ難きも、大戰以來本邦品の輸入は獨逸、致須、伊太利の各國品との競争に堪え得ず著しく減退を來せるは事實なり。

獨逸品は、何れも品質出來榮共克く、原料用材等が廉價に得らるゝ點に於て最も優越地位を保持し、値段も相當安價なれば一般の氣受けも良く相當根強き地盤を有し居れり。然るに我國は用材原價の高き爲、彼との競争は事實困難の立場に置かれ居る處、最近或種間には歐洲のデザインに多少飽き來れる傾向なきに非ず。故に此歐洲式デザインの外何等か獨得のものを考案し、極く切詰めたる値段を以て輸出するに於ては強ち我製品の前途望みなきに非ざるべし。故に何等か妙味あるデザインの下の作られたる額椽見本を當地方面の當該商に紹介することも一策ならん乎。

第六 馬 具

印度に於ける最近の馬具輸入年額は十九萬七千留比見當に過ぎず。其輸入先は英本國及濠洲にして大凡全體の九割九分迄英國品なるが故に、他は顧る餘地なし。印度政府發刊の貿易統計によれば、其輸入高は逐年幾分宛の増加を示し居るも、實際は將來自動車等文明利器の需要益々増加するに伴ひ、馬の飼養は經費の點より見るも自然是等乗物に需要を奪はるゝ

の傾向あり。随つて一部愛好家を除き將來の需要餘り好望なりとは云ひ難かるべし。尙印度輸入馬具の需給状況を地方別に見れば、全輸入額の五割は孟買港揚にして、其他カルカッタ港三割、カラチ港九分、蘭貢港七分、マドラス港四分の割合なれば、當地方の需要最も多き譯なり。

既往四年間各國より印度輸入馬具類の國別輸入額左表の如し。

輸入先	馬具輸入額調		金額(千留比)	
	數	Cwt	金	額
英 本 國	一五四一五	一五五二六	一九四一五	一九五二六
濠 洲	三四八	五四八	一八	一四三
計(其他英領地を含む)	一九	二〇	一七	一一
獨 逸	四一〇	五七二	一三七	一五七
埃 及	六	二二	二	三
其 他	二	三	一	一
計	八	二五	三	四
合 計	四一八	五九七	一四〇	一六一

次に當市に於ける各國製輸入馬具の状況を觀るに、英國品は高級品として賣捌かれ居る關係上價格も高きに拘らず、多年の聲價と習慣に基き相當賣行良く、又獨逸品は廉價なる割合に品質良好なる點に於て好評なるが如く、本邦品は未だ多

からざるも値段の點に於て獨逸品に對抗し得るに於ては多少の望を囑し得べきも、元來總輸入量が僅二十萬留比足らずのものなれば、差當り大なる期待は望み難かるべし。

鞍の輸入は一部特殊愛好家用にして値段構はず販賣さるべき一流品を除き、多くは一揃として輸入せず部分的に輸入し、或は印度製のものにて其嗜好や馬脊の形狀等に適合仕立つるもの多きが爲、概して一式物よりも部分品の輸入多し。印度製品としては北印度に多くカウンポールは其主なる中心市場たり。

抑も馬具の製作要件としては製品の仕上げの巧妙なることの外、外觀の良きこと、目方の輕きこと、耐久力に富むこと等にして、一般に機械縫よりも手縫のものが寧ろ賞讃せられ居れり。

馬具用皮革は印度製の物の外、輸入品としては獨逸品並英國品に多く色合は黒、樺、鼠等最も多し。皮革は其性質印度の氣候の影響を受け永く貯藏を許さざる爲、輸入は少量宛頻繁なるを要す。防水カンヴァスは主として三〇乃至三六「オンス」もの英國より輸入せらる。

當地市場に於ける馬具用模造皮革の色合は黒、樺、灰色を主とし、目方三〇乃至四〇「オンス」もの幅五四乃至六〇吋又は七〇吋もの需要多し。パッド・クロス、模造オイル・クロス等亦相當の需要あり。殊に獨逸製のパッド・クロスは好評なるが如し。本邦品も曾て輸入ありし由なるも、高値なりし爲結果芳しからざりしやう聞及び居れり。

部分品中馬具用金具の如きは鞍の使用が頻繁且亂暴なる丈けに外見良く且堅牢ならざるべからず。又口金具等も堅牢且外見よく鍍を生ぜざることを要す。金具類の輸入は矢張り英國を主とし獨逸よりも仕向けられ、印度製のものとは奥地邊陲地の需要を充し居るに過ぎず都市にては餘り歓迎せられずと云ふ。

要するに馬具の要需状況は上述の通り現在並將來に於ても餘り大なる期待を望み得ざる状況にて、其仕向は殆ど英本國

及濠洲に獨占せられ居る實情より見て、我國品の割込は相當困難視せらるゝも、本邦品の仕向には小物の部分品に目掛く
ること寧ろ得策に非ざるやに思考せらる。

第七 セメント

印度に於けるセメントの需要順位は緬甸地方最も多く、マドラス、カルカッタ、孟買之に次ぐ、即ち蘭貢港の輸入四割、
マドラス二割五分、カルカッタ二割一分、孟買八分見當なり。之に依り各地方に於ける上下水道工事、灌漑事業、埋立工
事其他一般建築事業の一斑の消息を窺ふに足るべし。過去五年間に於ける各港別輸入高を掲ぐれば左表の如し。

セメント港別輸入額調 (單位噸)

港別	一九二二—二四年	一九二四—二五年	一九二五—二六年	一九二六—二七年	一九二七—二八年
カルカッタ	四三、七九八	三五、一五一	二五、四三二	二二、二二八	二七、〇五七
孟買	一一、七四九	五、八六一	五、九六九	八、一四八	四、一五五
カラチ	九、四五七	八、七一三	六、〇九九	四、五五一	五、四三三
マドラス	二一、三三七	二六、七六三	三三、〇五〇	二六、一三九	二五、二四二
蘭貢	二六、七九六	三七、八五三	三九、八二八	四〇、九七〇	五〇、三九四

一九二七—二八年中に於ける總輸入額は十一萬二千二百八十一噸、六百四十四萬三千留比に達し、各國別輸入割合は英
國八割餘、我國八分四厘、獨逸四分八厘の順位を示せり、既往五年間の輸入高左の如し。

セメント各國別輸入量調 (單位噸)

輸入先	一九二二—二四年	一九二四—二五年	一九二五—二六年	一九二六—二七年	一九二七—二八年
-----	----------	----------	----------	----------	----------

英國	九六、九六三	九九、八三五	九五、五八二	七四、五一四	九一、六三九
獨逸	七、七八一	五、四五二	三、三九八	九、一九九	五、三五〇
白耳義	一、九七七	八九五	一、七六六	二、一〇〇	一、五七六
伊太利	一、九一七	一、五九六	二、〇二八	四、五三五	一、九八三
日本	八七	三、五五六	五、七二〇	九、三〇九	九、四四九
米國	一〇四	一九〇	七〇六	四二七	六二四
其他	四、三〇八	二、八一七	一、一七八	一、〇〇二	一、六六〇
計	一一三、一三七	一一四、三四一	一一〇、三七八	一〇一、〇三六	一一二、二八一

セメントは建築、土木工用材料として又タイル、石、煉瓦等の代用品として益々需要増加の兆あり。殊に最近建築工事の
發達に従ひ、コンクリート工業用途益々多きを加へ來り、甞に床、壁又は屋根のみならず、萬般に使用せらる。尙本品の
需要は當地の氣候及經濟的關係より見るも益々増加を見るの傾向あり。

現在當地市場に於て最も賣行よきは英國品にして、就中ハンド・エレファント・ブランドは之が最優等品として迎えられ
居れり。品質上より之を見れば伊太利品、英國品に次ぎ獨逸品は伊太利品より劣るも値段安き爲却て需要多く、白耳義品
は獨逸品に比し稍劣り、本邦品は會て非常なる安値を以て仕向けられし爲、一般に白耳義品よりも劣るとの印象を與へた
るも、事實問題としては白耳義品に譲らざるのみならず殊に最近は英國品に比し何等遜色なきに至れり。

會て大戰中本邦ポートランド・セメントの輸入大量なりしも、戦後英國品の復活と共に本邦品は驅逐さるゝに至り、又一
時伊太利品が本邦品を凌駕するの勢力ありたるも、偶々獨逸品の仕向け旺盛となれる爲、同國品の輸入痛く減退を來せり。

最近印度製セメント漸く勃興し來り、現在にては英國其他歐洲品と大差なきに至り、孟買省内に於ける製造工場も漸次多きを加へ來れる狀況なるが、生産量區々として一様ならず、加之鐵道運賃の高き爲輸送上に多大の悩みあるものゝ如し。英國品が斯く需要多き所以は、諸工事に携はれる技術者が英國人なる爲に外ならず。我國製品も之に混用せられ居れり。孟買に於けるセメントのストックは常時餘り多からず。之當地方の氣候或は溫度の關係上、其成分を毀損さるゝ虞あるが故なり。従つて外國品の印度内地供給には或點の制限を受くるの不利あり。次に本邦セメントの賣込策としては先づ左の諸點に注意すること肝要なり。

- イ、確實なる相手商人を選ぶこと。
- ロ、成分並價格表を英文にて刷り、之に見本を添付し其維持性や一般的効力を確保し、且取引に關しては些の手續をも厭はず敏速簡便を旨とすること。
- ハ、一市に多數の取引先を作らざること。
- ニ、投資や値段の亂高下を戒むること。

次に最近各國製並印度製セメントの値段の比較左の如し。

英國品	一樽(約三一/四所入)	十一留比
日本品	一袋(二所入)	二留比半
伊太利品	一袋(二所入)	二留比十二安
獨逸品		
白耳義品		
印度品	一袋(二所入)	二留比十二安

右外國品は何れも輸入税込現物倉庫卸値段なり。

第八 ペイント及同材料

印度に於けるペイントの輸入に關して最近の趨勢を観るに、一九二七—二八年中に於ける總輸入額は千五百四十七萬九千留比にして、其七割四分は英國之を占め、他の諸國は極めて少く獨逸七分、米國四分六厘、我國二分強の割合なり。

各國別輸入狀況を既往五年について見るに左の如し。

ペイント國別輸入狀況 (單位千留比)

輸入先	一九二三—二四年	一九二四—二五年	一九二五—二六年	一九二六—二七年	一九二七—二八年
英國	一一、〇六一	九、九八七	一〇、三二四	一〇、七三八	一一、四八〇
獨逸	七八二	八七五	八四八	一、〇三六	一、〇九〇
和蘭	一四二	二九一	二二六	二四六	四七六
白耳義	一九三	二六五	二八四	五三八	五八八
伊太利	四九	六七	一三六	四四五	四五二
日本	三〇〇	三七四	三九〇	三八二	三四〇
米國	四六八	五九五	五六三	六六一	七二〇
計(其他を含む)	一三、〇八九	一二、六五三	一二、九七七	一四、四二三	一五、四七九

港別輸入狀況左の如し。

輸入港	一九二三—二四年	一九二四—二五年	一九二五—二六年	一九二六—二七年	一九二七—二八年
第二章 日本より印度向輸出品					
					一八九

カルカッタ	四、六四三	四、六五五	四、六〇〇	五、五〇八	六、〇二九
孟買	四、六五四	四、四〇一	四、七七一	五、一八三	五、二〇八
カラチ	一、一八二	一、一二一	一、一七六	一、一四三	一、三〇七
マドラス	一、一九五	八九〇	一、〇〇九	一、一五六	一、四二九
蘭貢	一、四一五	一、五八六	一、四二一	一、四三三	一、五〇六

次にペイントの輸入状況を見るに、我製品としては所謂光明丹は相當数の輸入あるも他は極めて少し。然るに曾て大正六、七年頃は相當多量の輸入ありたるも、大戦終熄後英國、獨逸其他の歐洲品の仕向潤澤となれる爲、我製品は直に打撃を被り、輓近市場の勢力を失へるは將に競争品より受けたる影響なるは言ふ迄もなきことなるが、其他左の二點をも想像し得べし。

一、其従業、技術者は主として英人なる關係上、作業上の責任觀其他より英國品殊にフーベック・ペイントを使用し、已むを得ざる場合に限り他國品を補充的に使ふ傾向あり。故に英國品が常に先順位に使用せらるゝこと。

二、本邦ペイントは其品位より觀て値段が約一割五分高過ぎること。

今試に英國の最良品として聲價高きフーベック・ペイントに就て見るに C.I.F.C.I. One に付四十九志、爲替 1/5 と見て三十二留比十四安、其他の英國品は四十五志見當にて三十留比四安なり。

然るに本邦品は日本ペイント會社の A・フラーワー印二十六圓六十錢なるが故に爲替 1/5 と見て三十四留比十四安なり。右の如く現在の處値段の點に於て既に問題とならざる状態にて、日本品の賣値頃は全體三十留比見當ならんと當業者は云ひ居れり。

本邦品の品質は一般に好評なるが如く、又包装其他取引上に就ても何等遺憾の點なき模様なり。

第九 ラヂオ器械、器具

印度に於けるラヂオ放送事業は過去數年來種々の曲折を経て最近に至りカルカッタ、孟買、マドラス、カラチ及蘭貢の各都市に放送を開始するに至り、ラホール、プサル等にも小規模ながら放送を行ふに至れり。

孟買に於けるラヂオ放送は開始後三年に及べるも今尙之を享樂する者少く、随つて其知識の普及も甚だ不活潑にして、其器械、器具の如き老狡商人の氣任せの値段を附し法外なる高値を保ち居れり。隨て販賣數量は少しと雖器械知識に無頓着なる顧客を相手にすることなれば何れも暴利を貪り居る模様なり。

ラヂオ器械、器具類は一切輸入品にして、印度貿易統計に現はれ居る無電用電氣器具の輸入額は逐年増加の歩調を示し居り、特に英國よりの輸入は過去三年間に約二倍以上の増加を來せり。乍併此中ラヂオ器械、器具幾何を含めるやは知り難きも、斯く急増を見たるは無線電話用器具の需要を呼びたることに基因するものと推斷して大過なかるべし。既往三箇年間に無線用電氣器具の輸入額を各國別に示せば左の如し。

無電用電氣器具國別輸入額調 (單位千留比)

輸入先	一九二五—二六年	一九二六—二七年	一九二七—二八年
英國	四六四	四三三	一、〇六〇
米國	九二	三五	八九
其他	五四	三一	四一八
計	六一〇	四九九	一、五六七

次に各商品の市況につき一瞥するに部分品としては主として米國、獨逸、英國及佛國製品多く、殊に米國品は本國値段の弗仙を約五倍半の小賣留比相場にて賣られ、セットの如きも相手次第に値段を定め居る有様なり。本邦品は目下多からざるも其普及と共に漸次輸入さるゝに連れ追々需要を呼ぶに至らん。

波長は短波長もあれど大體長波長のセットが當分賣行くものゝ如く、尙乾電池はエバー・レディー最も賣口よろしく、濕電池には本邦品の輸入の餘地あるべし。又ダイヤル等の部分品は形體及デザインの面白きものが適するならん。

現在ラヂオ器械、器具の輸入關稅は普通從價二分五厘、其他の器具類、電池類は從價一割五分の規定となり居れり。因に印度ラヂオに關する參考雜誌としては左のものを適當とす。

The Indian Radio Times (一年分一留比十四安)

發行所 The Indian Broad Casting Co., Apollo Bunder, Bombay.

第十 電 氣 器 具

印度に於ける電燈の使用は殆ど都會地に限られ、田舎にては専ら舊來の洋燈を使用し居り、隨つて電球其他電氣器具の需要も自ら印度主要都市に局限せられ居れり。而して是等電球は總て輸入品にして一箇年の總輸入額大凡四百萬留比を上輸下し居り、輸入先は英國より約六割、米國より二割強其他獨逸及我國よりも相當の輸入あり。既往五年間に於ける各國別入高を示せば左の如し。

電氣器具輸入額別調 (單位千留比)

輸 入 先	一九二二—二三年	一九二三—二四年	一九二四—二五年	一九二五—二六年	一九二六—二七年	一九二七—二八年
英 國	一一,九四七	一一,二五七	一一,八二二	一一,二七六	一一,二八一	一一,一〇六
獨 逸	四七五	五九九	四八九	五五一	六一〇	一一〇
日 本	一〇七	一〇一	一六三	一〇八	一一〇	九六五
米 國	三九八	二八六	三七六	五八四	一七三	一七三
其 他	一一〇	七六	一一六	一〇六	一七三	一七三
計	四,〇三七	三,二一九	二,九六六	三,六二五	四,六七四	四,六七四

尙輸入港別輸入狀況左の如し。

港別電氣器具輸入額調 (單位千留比)

輸入港	一九二二—二三年	一九二三—二四年	一九二四—二五年	一九二五—二六年	一九二六—二七年	一九二七—二八年
カルカッタ	二,〇一九	二,一五四	一,七〇二	一,三四七	一,七一一	二,五〇六
孟 買	二,二三〇	一,四八七	八九〇	九一四	九七三	九〇七
カラチ	一七七	六二	一四四	二四四	三〇二	三五五
マドラス	二〇七	二一九	一七八	三〇〇	一八五	三五九
蘭 貢	一一三	一一五	三〇五	一六一	四五二	五四七

印度に於ける電壓及サイクルは概ね一樣に二百三十「ヴォルト」五十「サイクル」なるが、左の如き特有のものあり。

パロダ地方	百十「ヴォルト」四十「サイクル」
カルカッタ	二百二十「ヴォルト」
カシミール	二百二十「ヴォルト」二十五「サイクル」

バンガロウ

二百三十「ヴォルト」六十「サイクル」

印度にて使用の電球口金の底は「Tintess Bulb」なり。現在最も廣く賣捌かれ居るはスワンベシス（横に二本の角の突出せるもの）に限らる。

電燈の値段は土地により一様ならざるも、「一キロ」の値段左の如し。

都	市	名	燈	火	用	シヨウウキンド用	動	力	用
孟	買					四安		二安	一安
カ	ラ	チ				七安		七安	三安

當地市場にて賣行よき電球は左の如し。

イ、メタル・フキラメント五十燭のもの。

此種のもの殆ど過半数を占め居れり。

ロ、日光電球の四十「ワット」乃至百「ワット」のもの。

ハ、半「ワット」球即ち四十「ワット」乃至百「ワット」見當のものにて電流の消費少きもの。

色電球は印度教徒の正月たるデワリ（毎年十一月頃）前に賣行良き「季節のもの」にして相當の需要あり。此種のもの季節的に使用するものなるが故に、持ちよりも値段安きを必要とし、又豆電球の白又は色物等も相當の需要あり。尙日本製懐中電燈用の白豆電球も將來有望視され居るが如し。

第十一 蓄電池

孟買に輸入の蓄電池は概ね自動車附屬品として輸入せられ居る所、元來其耐久力四、五年以上に亙るもの少き爲、補充

として毎年三、四萬留比見當の輸入を見るに過ぎずと云ふ。其輸入状況に關しては確たる統計を得ざる爲詳細を知り難きも、二三營業者に就き取調べたる處に依れば、米國品最も多く、英國品之に次ぎ最近獨逸品の輸入亦加はれりと云ふ。

米國品は最近自國製自動車の印度輸入に極力努力し居る關係上、附屬品たる蓄電池の輸入量も比較的多き譯にて、然かも米國製品は自國自動車以外英、獨佛、伊國等何れの國の自動車にも容易に取付け得る特徴を有し、部分品等も輸入豊富なる爲、隨つて需要の範圍廣く、其取扱方法の如きも仔細に賣捌店をして了解せしめ居れりと云ふ。

米國品の輸入原價は本國の小賣弗値段の約半額見當の安値を以てせる爲、英國品の如きは値段に於て對抗し難き模様なり。又英國及獨逸品は何れも自國自動車にのみ取付け得るも、他國自動車への取付は容易ならざる爲、勢ひ需要の範圍限定せらるゝの嫌あり。尙日本品輸入の能否につき營業者の云ふ處を聞くに、能率に於て米國品同等のものにて然かも値段は約二割方廉價なるを要すべしと。而して茲に注意すべきは本邦に於て英米國品を餘り巧妙に模倣し輸出するは考物にて、過般乾電池に於てエバー・レディーと酷似の模倣品が輸入せられ、又懐中電燈に付ても外國品其儘のもの輸入され、當該國商社より抗議を受けたる實例もあれば、是等についても相當考慮を要す。

當地市場に於ける好評なる各國蓄電池は左の如し。

ヴェラード	米國製
レストウライ	同
デルコ	同
ルーカス	英國製
シーエーヴィー	同

ヴァルタ

獨逸製

エキサイド

印度製

右の外コロムビアと稱する蓄電池も曾て相當の賣行ありたるも最近餘り目を惹かざるものゝ如し。

蓄電池の卸小賣値段はアムペヤ並ヴォルテーヂの如何により自ら値段の相違ありて、大體二十五留比位より二百五十留比見當迄種々あり。一般に外國製品は本國に於ける賣捌値段より寧ろ廉價なる由。

蓄電池に關聯する問題として孟買市の自動車數及無線電話聽取者を警察側につき取調べ見るに、自動車約一萬臺、ローリー七百八十臺なり。無線電話聽取者(登録せる者)全印度千九百六十二の内孟買千百十三人(昭和三年六月現在)を數ふ。

第十二 黄銅及銅

印度人は古來銅器や眞鍮器具を愛好し、家事用具としても湯沸し、水差、鍋、釜、盆、バケツ、杓子、辨當入其他菓子や、砂糖入の罐等に廣く之を使用するを以て、銅や眞鍮板の需要は極めて多し。是等は原板の儘輸入し、印度の都市又は附近工場に於て若くは家内工業的に必要用具に加工せらるゝもの多く、加工品の輸入亦少からず。

黄銅又は眞鍮は Sheathing もの最も多く、其他棒狀、板狀、管、線等なるが、一九二七—二八年中に於ける眞鍮(Sheathing)の輸入額は千九百四十五萬二千留比に達し、其約三割八分六厘を英國より、四割五分を獨逸より輸入し、本邦品亦約一割四分を占む。

當地市場に於ける輸入品中眞鍮板及管は共に英、獨品、眞鍮線には佛國及英國品多く、而して銅線及黄銅線は主として電線又は電氣器具用に使用せらる。

眞鍮若は黄銅板、線、條其他加工品は、前掲の通り英國品を始め本邦品、佛國品及米國品等を主とする處、最高級品は米國品とせられ、本邦品と佛國品とは略々同格なるも邦品の賣行は遙かに佛國品を凌駕し居れりと云ふ。

本邦品の値段は大體二百八十封度入一箱約四十留比見當なるが、是等は主として三井物産等の手により仕向けられ、印度人取引商社としては Metal Merchants Co., 等あり。

誠に黄銅(Sheathing)其他各種別並製品の國別輸入額を示せば左記諸表の如し。

黄銅(Sheathing)輸入額 (單位千留比)

輸入先	一九二二—二四年	一九二四—二五年	一九二五—二六年	一九二六—二七年	一九二七—二八年
英國	一三、〇一一	一一、二四七	一〇、三四一	六、一五三	七、五一五
獨逸	六、一一八	九、九六一	七、〇二四	一一、三八七	八、七七八
白耳義	六三	九二	一一五	九二	八四
佛國	一	一	一三	五四	三四二
日本	一〇	二八	一一〇	一一、五九一	二、六九八
其他	一八九	三〇	一四	二〇八	三五
計	一九、三九一	二二、三五八	一七、六〇七	二〇、四八五	一九、四五二

一九二七—二八年中種別的輸入額 (製品を除く) (單位千留比)

輸入先	原銅	眞鍮	棒(Rods)	板(Sheet)	管(Tubes)	線(Wire)	其他
英國	二三一	七、五一五	一六二	一四九	五二	七一	一、〇八七
獨逸	一	八、七七八	一九四	一〇三	三九	二八	四五二

白耳義	七	八四	二六	一六	六	三一	二一
佛國	一	三四二	五八	一〇	三	二八〇	二五
伊太利	一	七	一	二	一	一	九
日本	三	二、六九八	六二	一五	一	三〇	二五〇
支那	五三	一	一	一	一	一	一八
米國	一四九	一四	一	一	一	一	一一一

黃銅製品(青銅其他合金製品を含む)輸入額 (單位千留比)

輸入先	一九二三—二四年	一九二四—二五年	一九二五—二六年	一九二六—二七年	一九二七—二八年
英國	一六、〇九二	一六、一二六	一三、三五九	八、一五〇	九、二六九
獨逸	七、二七八	一一、九五二	七、八八九	一一、七二四	九、五九三
白耳義	一四八	三三一	三六七	一一七	一九〇
佛國	九	六八	二三四	三七二	七一九
伊太利	三八四	一一二	四五	一一六	二〇
日本	六五一	一、一五六	三、六九一	三、三三六	三、〇五六
米國	四三九	七八五	六一五	五三〇	二八四
其他	一六二	一二七	九五	一九一	二四四
計	二五、一六三	三一、六六七	二六、二九五	二五、六四六	二二、三七五

第十三 アルミニウム

アルミニウムは銅、真鍮等の金屬類と共に印度人の食卓用器具、臺所用器具製作用として毎年諸國より一千萬留比内外の輸入を見つゝある處、其需要は逐年漸増の狀況に在り。乍併アルミニウムは外見美しく、値段安く且使用も輕便なる點に於て特色あるも、酸に遇へば容易に錆び又は腐蝕し易き點に於て瑛瑛鐵器に比し劣るの怨あり。

元來アルミニウム製用具の需要は、概して中産以下の諸階級に多き爲、勢ひ値段も安きを必要とし且前述の通り耐久力に乏しき嫌あれば此點に改良の餘地あるべし。

輸入アルミニウムは未製の金屬塊を其儘輸入するものと、既製のものを圓形(Circles)、平圓形(Disks)又は薄板(Sheet)として輸入さるゝものゝ外、製品例へば玩具、櫛、小細工物として輸入さるゝものありと雖、圓形のもの大部分を占む。而して未製品の原料は米國より、圓状のものは英國及米國より、薄板も亦米國より主として仕向けられ、製品としては白耳義及獨逸製のもの多し。

一九二七—二八年中に於ける種別的輸入額左の如し。

アルミニウム種類別輸入額調 (單位千留比)

種別	英國	白耳義	瑞	主なる輸入先	佛國	獨逸	米國	其他	總輸入計
未製品 (金屬塊)	三九	一	二二	一	六四	一四〇	二六四		
圓形のもの	四、四五三	三四二	八八一	四三二	二二一	三、四一三	四〇四	一〇、一四六	
薄板	一三八	一三	一〇	一八	五一	二四六	一一	四八七	
既製品									一九九

製 品	一三四	三九〇	五〇	一一	二四四	一	一二三	九五三
計	四、七六四	七四五	九六二	四六二	五一六	三、七二三	六七八	一、八五〇

次に一九二七―二八年中に於ける各國よりの輸入状況を見るに、未製金屬塊 (Ingot) の輸入はマドラス、ベンゴール地方にして主として瑞西、英國及伊太利より輸入せられ、既製品として圓形、平圓板、薄板等のものは米國を首位とし、英國よりも亦相當の輸入あり。尙獨逸品は曾て相當量の輸入を保持し居たるも、同國品は品質は他國品に優越するも價格遙かに高き爲、他國の廉價品との競争に壓せられたる傾ありて、現在は頗る輸入減退を見るに至れり。

アルミニウム製品としては玩具、櫛、包装其他小細工物の外臺所用具、食卓用具等を主とし、之は白耳義、獨逸及英國等より仕向けられ、本邦よりも年約一萬留比程の輸入を見つゝあり。主なる消費市場はベンゴール、緬甸、マドラス、孟買とす、獨逸品の如きは上述の通り専ら品質主義に重きを置きて他國品との競争に臨みつゝある有様なり。

右各種アルミニウムの輸入に關し一九二七―二八年中の輸入状況を各國に就き見るに、總輸入額千八百八十五萬一千留比中、英國其四割の四百七十六萬三千留比、米國三割六分の三百七十八萬二千留比、瑞西八分の九十六萬二千留比にして、我國は漸く一萬留比足らずの少額殊に最近は減退の歩調を示し居れり。試に之を五年前に比較せば英國は約三倍、米國は二倍、伊太利は四倍餘に夫々増加し居るに反し、獨逸は五分の一に、瑞西及我國亦何れも減退著し。

次に既往五箇年間に於ける各國別輸入額を示せば左の如し。

アルミニウム國別輸入額調 (單位千留比)

輸 入 先	一九二三―二四年	一九二四―二五年	一九二五―二六年	一九二六―二七年	一九二七―二八年
英 國	一、六〇九	一、八五七	二、二一九	二、三二六	四、七六三

獨 逸	二、六九二	二、九三三	二、一七五	一、八〇二	五、一五
白 耳 義	六〇八	八六二	七〇七	七四五	七四五
佛 國	三一六	五〇	六二五	一〇九	四六二
瑞 西	一、三一六	五九一	五二五	三二一	九六二
伊 太 利	一四四	二四一	三三一	六八〇	五九五
日 本	一六	三八	四九	一七	一〇
米 國	一、八六〇	三、一〇二	二、五三三	三、五一三	三、七八二
其 他	六	八七	四五	六	一七
計	八、五六七	九、七六一	九、二八一	九、五〇九	一一、八五一

アルミニウムの需要は孟買地方に多く、且地理的的關係上歐洲方面よりの輸入品は同港に陸揚せらるゝもの多きとにより、全輸入額の五割を、又カルカッタ港約三割二分、マドラス一割の割合を示し居れり。即ち詳細は左表の如し。

港 別 輸 入 額 調 (單位千留比)

港 別	一九二三―二四年	一九二四―二五年	一九二五―二六年	一九二六―二七年	一九二七―二八年
カルカッタ	二、二二一	三、二五五	二、八五五	三、三〇七	三、七七七
孟 買	四、九七五	五、〇四六	四、九六三	四、六七七	五、九七七
カ ラ チ	一九	八	七八	二九	四七
マ ド ラ ス	一、二六一	一、二四六	一、〇八九	一、〇一〇	一、一九三
計	八、五六一	九、七六一	九、二八一	九、五〇九	一一、八五一

蘭 貢

一九一 二〇六 二九六 四八六 八五七

計 八、五六七

九、七六一

九、二八一

九、五〇九

一一、八五一

本邦製アルミニウムに關しては前述の通り甚だ不振の現況にして、大戰當時は相當量の輸入を見たるも、戦後歐米品の輸入盛んとなるや忽ちにして地盤を失へるが如し。現在は製品たる玩具、茶道具其他の小細工物に少量の取引あるに過ぎず、然かも逐年其數を減じ居るは之素より本邦品に對し品質上に遜色ありとの偏見を有する消費者が、信賴深き英、米或は獨逸品に之を求むるに因るべし。乍併一部商人中には漸く本邦品に注目する者現はれたる傾向もあれば、此際或程度の品質上の保證をなし、可及的競争値段を勉強し、適當なる取引策を講ずるに於ては強ち割込困難にも非ざるべし。

當地市場に於て一般に好評なるはポビュラー印、エレフアント印及スタンダード印等にして右の内ポビュラー印はスタンダード印と共に米國の原産に屬し又エレフアント印は英國製品なり。

尙市場に於ける標準サイズ(直徑)左の如し。

5" 5 1/2" 6" 6 1/2" 7" 7 1/2" 8" 8 1/2" 9" 9 1/2" 10" 20" 22"

右は大凡需要の七割五分を占むるものなり。

10 1/2" 11" 11 1/2" 12" 12 1/2" 13" 13 1/2" 14" 14 1/2" 15" 15 1/2" 16" 16 1/2" 17" 17 1/2" 18"

右は全需要の約二割五分を占む。

當市場に於けるアルミニウムの一箇月の消費量は凡八百箱(各箱約五百封度入)其價格約三百四十萬留比位なりと稱へらる。

輸入税は従價一割五分但し製品は従價三割なり。尙アルミニウムの純分は九八「パーセント」乃至九九「パーセント」に

して市場相場一封度十一安見當を唱え居れり。

第十四 琺 瑯 鐵 器

元來琺瑯鐵器は比較的値段安く、アルミニウムの如く容易に腐蝕せず、耐久力にも富み又陶磁器や硝子器の如く破損の虞なき爲、家事用器具としては極めて重寶なるが故に漸次其需要を増し、現在にては各階級に於て廣く之を使用するに至れり。

一九二七—二八年中印度輸入琺瑯鐵器類は總額三百六十七萬九千留比に達し、此中我製品の輸入額は百七十六萬七千留比即ち四割八分を占め、之を以て首位とす。又獨逸は七十五萬八千留比即ち二割、致須は四十一萬六千留比即ち一割二分の割合を以てす。其他は多量ならず。

既往五年間に於ける各國よりの輸入年額左の如し。

琺瑯鐵器類各國別輸入額 (單位千留比)

輸 入 先	一九二三—二四年	一九二四—二五年	一九二五—二六年	一九二六—二七年	一九二七—二八年
英 國	二八六	三二二	三八二	二七六	二七三
獨 逸	九九六	九四五	七三五	九六〇	七五八
澳 國	七三	一二七	一六二	三〇二	三六五
致 須	二〇〇	二三四	二六六	四〇二	四一六
日 本	一、五〇四	一、三七四	二、四九三	一、九二六	一、七六七
米 國	九	九	一五	一一	九

第二章 日本より印度向輸出品

其	他	四一	二七	六七	九一	二〇四
計		三、一〇九	三、〇三八	四、二二〇	三、九六九	三、六七九

其需要は緬甸地方に最も多く、ベンゴール地方之に次ぎ、當地方の需要は右兩地方の過半数に過ぎず。港別輸入額左の如し。

珓瑯鐵器港別輸入額 (單位千留比)

輸 入 港	一九二二—二四年	一九二四—二五年	一九二五—二六年	一九二六—二七年	一九二七—二八年
カルカッタ	七六五	七九一	一、三五一	一、二七九	一、一二二
孟 買	八九〇	八五三	八〇二	八八八	六八九
カ ラ チ	一四八	一〇四	一三七	一八一	一六七
マ ド ラ ス	三六三	三六三	三二二	三三五	五一九
蘭 貢	九四三	九二七	一、五一八	一、二八六	一、一八二
計	三、一〇九	三、〇三八	四、一二〇	三、九六九	三、六七九

次に珓瑯鐵器に關する市場の評判を聞くに、品質上より見れば英、米品 他國品に比し遙かに優れ、本邦製品は獨逸及致須品よりも幾分劣ると云ふ。我製品の弱點としては鱗生じ易きこと、容易に珓瑯質の剝落すること、鐵質良ろしからざること、穴を生じ易きこと、艶を失ひ易きこと、磨き不足の觀あること等にて従つて耐久力に乏しと云ふ。

尙取引上の不滿の點は、更角く日本製造家は印度商人の希望を容れず、製造家自身の考の儘に品物を造る風あるのみならず常に安値一點張りにて品物を押付くるが如き遺口ありと。然かも安値を理由として粗惡品を混入しながら恬然恥ぢざ

る爲、勢ひ印度商側は日本品を取扱ふ以上之は隱忍せざるべからずとなし居る譯なるが、安値なるの故に一、三等品を混入する爲永き間の損失は尠少なからざるを以て極力之を防遏するの必要を感じ居れり。

右當業者の言ふ處果して何れ迄が眞なりやは勿論窺知し難きも、事實斯かる傾向ありとせば是等の點に注意する必要あり。尙實例として曾て一等品に非ざる粗惡品を他より一割乃至一割五分安を以て仕向けたる事實ありたるが、如斯は古くより誠實に従事せる老舗としては洵に堪え難き處にして、其結果老舗としても餘儀なく一等品を安きレベルに引下げて賣る等眞摯なる輸入商は甚大なる迷惑を蒙れる由にて、如斯自殺的競争は本邦貿易の立場より充分之を慎み、斯かる弊風は須く一掃すべきなり。

一般印度商又は印度人が安値を望むは彼等の生活程度より見て已むる得ざることながら、徐々に品質を低下しゆくことは全く禁物にして、最近日本品に懲りたる消費者は勢ひ堅牢なる歐米品を漁るの傾向あれば此際本邦品の品質改良は全く當面の急務なるべし。

其他印度にては安物を希望する爲、註文毎に値段を下げ又邦商中には同品質の品を従來の取引先より新取引先へ安値に賣る者もある處、之は徒らに舊來の取引關係ある商人を苦むるに過ぎず、其結果高く仕入れし店も損失を忍びて安値賣を餘儀なくせらるとの苦情を屢々聞くことあり。

現在當市場に散見せらるゝ我製品中、主なるものは日本エナメル會社の「旗印」にして、其他「東和印」「鷲印」等も相當知られ又伊藤エナメル會社の製品も市場に現はれ居れり。

外國品にては英國品のゴード、米國品のマツクレース、獨逸品のピン、致須品のハルテイツト等は代表的の物なるが、茲に特記すべきは英、米品は常に嶄新なる形體並柄合を選び製作せられ、値段は相當高きも特に耐久力に富む點に於て中

流以上の家庭には歓迎せられつゝあり。其他獨逸品又は埃國品は値段に於て他の歐洲品と日本品との中間に位するも、邦品の如く註文毎に品質を下ぐるが如き弊なく、値段も保持され居る爲中流階級に好評なるが如し。

第十五 自 轉 車

近年來印度各都市に於ける自轉車の増加率は實に目覺しく部分品を加えたる最近の輸入年額は千七百七十六萬二千留比に上り、五年前に比し倍加せり。自轉車は英國及獨逸等より既製品の輸入せらるゝものもあるも、多くは部分品を輸入して印度の都市にて組立つるを例とす。

一九二七—二八年中に於ける自轉車及同部分品の總輸入額一千七百七十六萬二千留比中八割四分は英國品、一割二分は獨逸品に占められ居れば、他國品は頗る少し。本邦品の如き五年前より見れば金額に於て約倍加せりと雖、年輸入額は辛じて九萬五千留比を出でず。永年堅固なる地盤を有する英國及獨逸の兩國品に及ぶべくもあらず。

我輸入自轉車部分品の大半は孟買に仕向けられ、他の約半はカルカッタ、蘭貢其他の各地へ輸送せらる。而して既製品の輸入は目下の處皆無にて何れも部分品のみなり。

既往五年間に於ける印度輸入自轉車及同部分品の輸入額を國別に示せば左の如し。

自轉車及同部分品國別輸入額 (單位千留比)

輸 入 先	一九二三—二四年	一九二四—二五年	一九二五—二六年	一九二六—二七年	一九二七—二八年
英 國	四、七八〇	六、五二二	八、七一五	九、一八七	一〇、〇七八
獨 逸	一、〇七五	一、〇七五	一、二七五	一、二九六	一、四五四
和 蘭	二五	一三	三五	三八	三〇

白 耳 義	二	一一	三	一〇	一〇
佛 國	四	七	一六	六八	四三
日 本	五四	六八	四五	六八	九五
米 國	一六	一七	二九	三九	二一
其 他	六	一一	七	一	三一
計	五、九六二	七、七二四	一〇、一二五	一〇、七〇七	一一、七六二

自轉車の需要は主として中央部、北部地方に多く、故に其約半分はカルカッタ港へ陸揚さるゝものにして、之に次ぐは孟買、カラチ、マドラスの順序なるが、緬甸地方は比較的少し。而して孟買への輸入品中にも矢張り英國品最も多く約八割を占め、其他は獨逸より少量ある外擧げて記すべきものなし。

全印度港別輸入状況左表の如し。

自轉車及同部分品港別輸入額 (單位千留比)

輸 入 港	一九二三—二四年	一九二四—二五年	一九二五—二六年	一九二六—二七年	一九二七—二八年
カルカッタ	二、四三三	三、〇〇八	四、二九七	四、一五八	五、一七三
孟 買	一、七二一	二、三五六	二、六三六	二、七二二	二、六一九
カ ラ チ	七七六	一、〇九一	一、四七八	一、七五六	一、八二一
マ ド ラ ス	六八〇	八八六	一、〇七七	一、三八七	一、五〇七
蘭 貢	三五二	三八三	六三七	六九四	六四二
				二〇七	

自轉車材料は主として鐵及護謨なるが、我國は何れも産出少く材料は自然輸入品に俟たざるべからざるのみならず鐵工については寧ろ不得手の方なれば、此點に於て英國及獨逸等に比し多大の不利あり。故に是等の先進國と競争せんとせば技工を入念にし、品質の堅牢を旨とする外、値段に於ても前記諸國品より約一割乃至一割五分方安價ならざるべからず。先づ品質について云へば鐵質脆弱、組立粗雑、ニッケル鍍金剥げ易く且錆を生じ易しとの非難は克く當業者より聞かざるゝ處にして、之を獨逸品又は英國品に比較し見るに一割乃至二割位安値なりと雖、品質上の差は夫れ以上見劣りあるを以て、結局需要者の購買心を唆るに至らざる實狀なるが如し。

故に最も需要多き普通品に運賃其他諸掛、輸入税(一割五分)等を加算したる邦品も獨逸品の普通品最低値段たる四十留比に賣るに非ざれば競争出來ざるの有様なるが、之は假令獨逸品と品質上其他全然同様の品に在りても、本邦品となれば夫れ丈け聲價が低きを以て商内仕嫌き結果なり。

次に自轉車部分品の値段につき略述せんに、

(一) ハ ン ド ル

概して本邦品はニッケル不良、剝落の虞ありと云ふ。値段はブレーキ附二留比八安見當。

(二) チェン・ウキル(大ギヤ)

大體本邦品十二安、獨、英國品は一志十片見當なり。

(三) ベ ル

一打七留比八安見當なりと。

(四) クランク・コッター・ピン(クランク楔栓)

一「グロス」二留比二安見當。

(五) ハ プ

一打十四安見當。

(六) 喇 叭

一打七留比八安見當のもの最低。

(七) スチール・ボール

一「グロス」一留比八安(一罐一四四八)

(八) グリッパ(セルロイド把手)

本邦品は好評なるも、中には粗悪品の混入せることあり。一「グロス」十七留比見當。

(九) リ ム

一箇一留比乃至一留比二安、本邦品は錆び易しと。

(十) サ ド ル

本邦品二留比八安、獨逸品二留比十二安なるも、皮質及金具の品質に大なる逕庭ありて、本邦品は痛く見劣りす。

(十一) ブラケット・カップ

一「グロス」七留比、英國品一箇一志六片見當。

(十二) リム・テープ

一打一留比半。

(十三) フレーム

獨逸製品一磅(十三留比)本邦品九留比八安。

(十四) チェーン

一箇十安見當、未だ本邦品の輸入なし。

(十五) ペダル

英國品十留比八安(對、打)本邦品十安(對)。

(十六) 護謨タイヤ

一箇一留比十二安見當なるが、本邦品は未だ輸入を見ず。

(十七) ランプ

本邦品は不評、英國品一打十二留比見當。

(十八) ボンブ

一打十四留比六安見當。

尙フレームのサイズは 20" 22" 24" 等各種あり、リムは 28" タイヤ、チューブ 28" x 1/2 チェーン 1/2 x 1/2 等にてハンドル・バーはブレイキ付を普通とす。尙市場向としては三輪附荷物自轉車は適せざる模様なり。

最後に特に附言し置き度きは最近本邦自轉車部分品の輸入漸く盛んとなるや、印度の奸商等が賣行上の利便より無標且原産地名を附せず輸入を望むものありて動もすれば之が爲税關にて陸揚拒絶を喰ふことあり。又原産國名の記入あるも一見人目に附かざる箇所に之を附せるが如きも規定違犯となり居れば充分注意を要す。故に Made in Japan. の表示は必ず

ハンドルを支持する棒の前面に判り易く之を附せざるべからず。斯かる些細のことが税關側の疑惑を招き、陸揚上意外の困難を來すを以て賢明なる本邦當業者に於ても此點特に注意ありたきものなり。

第十六 稻刈鎌

印度にて使用さるゝ稻及麥刈鎌の種類は長く曲れる柄の大鎌(バラコイタ)及約五吋位の眞直なる短き柄の手鎌(チヨタコイタ)にして、是等は何れも土地鍛冶屋の手により製造せられ、外國品の輸入は比較的少し。尤も最近に至り安價なる外國製品の出現を見るに至り漸次印度製鎌の販路を犯す傾向ある由なるも、今尙簡單にして堅牢なる舊來の鎌に執着を持ち居るもの多きが如し。

手鎌の外國品としては英國より少量の輸入あり。他の歐洲諸國又は米國品は市場に喰入り難き有様なり。

英國品は殆どバリーミングムのブレース會社の製品及シエフキールドのシー・テイ・スケルトンの物に限られ、形状は兩者略同様なるも前者は鐵製なるが後者は鋼鐵製なり。而して値段は前者一留比、後者二留比見當なるが、實需は安價品に傾きつゝあり。英國品の特徴は切味よき點なるが比較的高價なる爲使用者は裕福なる農民にして然かも多少新しき考を持つ者に片寄るの傾向あり。

印度に於ける鎌の需給狀況は以上の如くなるが、此際本邦品の輸入の能否につき考慮するに、値段品質を充分吟味し使用に適せしむる等何等かの特徴を具有せざる限り大なる望を囑し難く、茲に本邦當業者の苦惱あり。

第十七 硝子器

一九二八―二九年中に於ける印度輸入硝子器は總額二千三百七十四萬九千留比に達し、其主要輸入先としては我國の六百九十五萬八千留比を筆頭とし、致須の五百七十二萬留比、獨逸四百七萬三千留比、白耳義二百四十八萬二千留比、英國

二百七萬三千留比等とす。而して各國の輸入割合は我國二割九分三厘、致須二割四分、獨逸一割七分二厘等の順位にあり。一九二七—二八年迄既往五年間の各國別輸入額を示せば左の如し。

硝子器各國別輸入額 (單位千留比)

輸入先	一九二三—二四年	一九二四—二五年	一九二五—二六年	一九二六—二七年	一九二七—二八年
英國	三、二六五	三、〇五二	二、七三三	二、六五四	二、四五七
獨逸	四、三〇九	三、八九六	三、九八九	五、一八一	四、九一〇
白耳義	二、四五三	二、七一一	二、二七六	二、六六九	二、四四二
佛國	九九	七七	八七	一〇五	一九七
伊太利	六七七	九二一	八三七	六三七	五九五
埃國	六七八	四六〇	三一	三七二	四一一
致須	四、二一八	七、五六〇	八、二七四	六、三三三	六、〇九六
日本	八、〇八三	六、五七四	六、七四九	六、六四一	六、八七四
米國	三〇四	三四六	三八六	四七七	五三三
其他	四八八	四〇四	三〇四	二一九	三二六
計	二四、五七四	二六、〇〇一	二五、九四六	二五、二八八	二四、八四一

硝子器港別輸入額 (單位千留比)

次に之を港別に見れば孟買、カルカッタを最多とし、他は比較的少し。即ち左表の如し。

輸入港	一九二三—二四年	一九二四—二五年	一九二五—二六年	一九二六—二七年	一九二七—二八年
カルカッタ	八、〇〇四	七、七四三	八、三八六	八、六六八	八、〇八四
孟買	一一、六五七	一一、九四六	一二、三八三	一〇、一九六	一〇、三〇五
カラチ	一、四七六	一、三八九	一、四八八	一、七一一	一、五二二
マドラス	一一、二二五	一二、五五八	一一、三六九	三、二〇七	三、三三四
蘭貢	一、二二二	一、三六五	一、三二〇	一、五〇〇	一、五九六

硝子製品の主なるものは硝子腕環、光珠及模造真珠、蠟類、洋燈のホヤ及洋燈部分品、化學用器、板硝子、食卓器具及其他雜品なるが、以下夫等の輸入状況並市場に於ける本邦品の現況等につき少しく記述を試みる。

一、腕環

印度に於ける硝子製品中最も需要多きは腕環其他裝身具なるが、其模様、意匠等優雅且比較的廉價なる處より廣く之を愛用す。一九二八—二九年中の輸入額は七百六十七萬六千留比に達し、其最大供給國は致須にして全體の六割以上を占め、第二位に我國の約二割五分、其他獨逸品の輸入も相當多し。

從來本邦品の弱點は致須品に比し壞れ易く且變色の憂あることなるが、之は曾て大戰中一部商人の行爲が此不評を齎らせるに因るものにして、現在にては品質向上見るべきものあれども、此惡評を一掃するには將來とも品質に留意あることとして、致須品同格の高級品をも仕向くるに至れば中流階級以上の需要をも呼ぶに至るべし。

硝子腕環の主要輸入港は孟買にして印度に於ける輸入の大半を占む。尙カルカッタは三割見當、マドラスは一割四分見當を輸入す。

二、光珠及模造真珠

印度に於ける製造量は一寸判明し難きも、何れも腕環の製造所等にて片手間に造らるゝものと察せらる。何れにするも製産量は少く、大部分は致須或は我國よりの輸入品にして一九二八—二九年中の總輸入高は三百四萬二千留比に達し主要輸入先は矢張り致須を筆頭とし、我國、伊太利、獨逸の順序なり。

我製品は兎角く曹達が表面に滲出すること、各粒の大きが次第に小さくなること等の缺點あるやに聞き及べる處、それかあらぬか歐洲品の壓迫を相當受け居る状態に在り。

三、蠟 類

腕環に次ぎ重要なるは蠟類にして、最近印度にても相當大規模の製造行はるゝに至れる處、其輸入量に比するときは其製産能力は未だ極めて微々たるものなり。

一九二八—二九年中の輸入額は三百六十一萬九千留比にして、其最大輸入先は獨逸とす。主として曹達蠟なるが、我國よりの輸入は同國に次ぎ主として藥品容器其他小型蠟類多し。尙英國よりも相當量の輸入あり。

次に我國より主として仕向くる各種蠟類につき市場の傾向を一瞥するに、

イ、青 色 蠟

之は獨、澳品の占むる處にして、本邦品は競争頗る困難の状態にあり。

ロ、大型白蠟及小型蠟

品質上歐洲品と競争不可能なるも、小型蠟は本邦品が販路獨占の傾向にして獨、澳品は極力之に割込まんと努力しつゝあり。但し本邦品は値段安きも下級品なる爲幾分需要家の不満を買ひ居ると云はるゝも從來より相當根強き地盤を

有すれば未だ彼等の侵略する迄には到らざるやうなり。

ハ、蠟 燭 蠟

之には容量二「オンス」、一「オンス」、半「オンス」、四分二「オンス」、八分の二「オンス」、十六分の二「オンス」、三十二分の二「オンス」、六十四分の二「オンス」入等あり。是等は主として醫師又は藥劑師方面の需要を充し居れり。

ニ、拗蓋附薄荷蠟

之は殆ど本邦品にして、容量は一「オンス」、二分の一「オンス」、四分の一「オンス」入等あり。

ホ、共口硝子蠟

孟買市に於ては至て好評なる蠟にて本邦品も相當多量取扱はれ居れり。最近獨逸品が蓋の密閉完全なりとて需要を呼び來れる處、本邦にても今少しく完全に密閉し得るものを供給し得れば需要は更に増加すべしと思考せらる。

次に本邦蠟に對する批評を聞くに、

(一) 商品が不統一なること。

(二) 蓋の如き附屬品に不具合のものあること。

(三) 形體統一せず、容量一定を缺くこと。

(四) 見本と現送品との相違あり。當初は兎も角取引度數の重なるに隨ひ品質低下して行くこと

一般蠟類の輸入額はカルカッタ及孟買夫々三割見當、蘭貢港一割三分位の割合なり。

四、洋燈のホヤ及洋燈部分品

一九二八—二九年中の輸入額百九十五萬八千留比なるが、主要輸入先としては獨逸の五割二分を最高とし、米國及我國

よりも夫々二、三十萬留比の輸入あり。

印度にては都市を除く外電燈の設備なく、何れも舊來の洋燈を用ひ居れば之が需要は相當多し。輸入は主として孟買及カルカッタ兩港にて行はれ、漸次奥地へと輸送さる。輸入割合は前者三割四分、後者約三割にてマドラス港よりは二割三分を輸入す。

五、化學用器

同年中の輸入十六萬六千留比、其中約五割は獨逸品にして主として孟買港に輸入せられ、其數は凡そ全體の半分を占む。六、板硝子

板硝子の製造は印度にては尙好結果を得ず、總て輸入品を使用し居る處、最近の輸入額二百九十六萬八千留比に及び、内七割は白耳義よりの輸入品なり。本邦品の輸入は製産費及運賃關係等により未だ見るべきものなく、事實本邦品の割込は相當困難視せらる。輸入港は孟買三割三分を最多とし、其他カルカッタ、マドラス、蘭貢、カラチの順序なり。

七、食卓器具

一九二八—二九年中の輸入百九萬三千留比なるが、本邦品は其五割五分位を占め其他獨逸品にも相當の輸入あり、輸入港は孟買及蘭貢港何れも金額の二割七分見當を輸入し居れり。

八、其他雜器具

總輸入額三百二十二萬六千留比、主として本邦及獨逸品なり。

第十八 硝子コップ

一九二六—二七年中の食卓器具總輸入額は九十一萬一千留比なるが、此中大部分はコップ類と見て可なり。其中邦品の輸入額は五十萬五千留比にして、過半數を占め、獨逸品十八萬七千留比を占むる外、何れも十萬留比未滿のもののみなり。以下主として硝子コップに就き近況を述べんとす。

當地市場に好評なるカット・グラス・コップ類としては福永工場製の四分の三「ポイント」入三星印にして、其サイズは四分の二「ポイント」、二分の一「ポイント」物の需要最も多し。

次に最近の傾向は商品の値動き甚だしきことにして、一日の間に一割前後の急高下を見ることさえあり、爲に眞摯なる商人は深刻なる打撃を蒙り居るもの、如く、其結果高値に仕入れし商品も多少の損失を忍びても手放さざるべからざる破目となり、勢ひ投資を餘儀なくさるゝと云ふ。是日本内地商人間の競争より製造家乃至輸出商が極端に賣値を低下させる結果にして、印度商側は之に乗じて爲替手形の支拂期日に苦情を付け、日取を延ばし、或は受渡を拒絶する有様なり。而して時には戻口錢をも犠牲にして手形を最後の買人に提示し、無口錢にても商内の連鎖を保持する爲、無意義なる商賣を餘儀なくさるゝ場合少からずと云ふ。斯かる状態なるが故に之に懲りたる印度商人は勢ひ歐洲品にと走る傾向あり。一面歐米商は之に乗じ充分なる戻口錢を附し、手形の満期日を延ばし、其他書類の作成に至る迄凡ゆる取引上の便宜を圖り、印度商の利益を閑却せず、常に彼等の歡心を買はんことに焦り居れり。

此傾向は獨りタンブラスのみならず電球、腕環其他護護製品、諸雜貨にも及び居る實狀なるは我貿易上遺憾なり。コップ類の包装は半打宛葉包となし、一箱二十五打入とし値段はC・I・F・C・I一打に付一留比三安乃至一留比五安見當なり。尙カラチ向は約一留比七安見當なりと。

第十九 陶磁器

印度に於ける陶磁器の輸入年額は凡八百萬留比前後を普通とするも、一九二八—二九年中に於ては七百三十一萬留比

に減退したり。本邦製陶磁器の輸入に對し常に競争的地位に立つは英國品にして、同年中の輸入額は二百八十二萬七千留比を示し、本邦品の輸入額亦二百五十四萬五千留比に達せるを以て、輸入率は前者三割九分、後者三割五分なり。然るに之を前年に比較せば英國三割七分、我國は四割を示し居れば、此間我製品の輸入額の減退顯著なるを見る。獨逸品の如きも漸次市場切込に力め居る模様なるも、今尙我輸入額の漸く二割位のものなれば顧るに足らず。

次に陶磁器の地方別輸入割合を見るに、當地へ仕向けらるゝもの三割六分、緬甸地方向即ち蘭貢港輸入二割九分、カルカッタ向のもの二割一分見當なり。既往五年間の國別及港別輸入状況は左表の如し。

陶磁器國別輸入額 (單位千留比)

輸入先	一九二二—二四年	一九二四—二五年	一九二五—二六年	一九二六—二七年	一九二七—二八年
英國	三、三九三	三、一八一	三、〇七二	三、一八九	三、二四二
獨逸	五四三	六二四	五三八	六三一	六三六
和蘭	一四五	三三三	二二八	五七一	二六八
佛國	一五	二一	二九	一一〇	一一二
伊太利	六九	七九	三九	四〇	三五
埃地利	一一	一六	一〇	一八	八八
致須	三	一三	一一	三二	一一三
支那	二〇九	一三八	七一	七五	五三
白耳義	一八四	一八八	一四八	一六四	二〇九

日本	二、三九二	一、八七一	三、四八四	三、三二一	三、二五九
其他	一一五	一、〇二三	一四	一三〇	四六
計	七、〇九一	七、四八七	七、六四五	八、二八二	八、〇七一

陶磁器港別輸入額 (單位千留比)

輸入港	一九二二—二四年	一九二四—二五年	一九二五—二六年	一九二六—二七年	一九二七—二八年
カルカッタ	一、二五五	一、三二〇	一、三四三	一、六五〇	一、六九〇
孟買	二、九三三	二、九二一	二、三三八	三、二九三	二、八九四
カラチ	四九九	四四三	四七一	四六〇	五六〇
マドラス	六一二	五七五	六四九	六五八	五四三
蘭貢	一、七九二	二、二三八	二、八四四	二、二二一	二、三八四

概して印度に於ける陶磁器の需要は印度の雨季たるモンスーン中は少く、殆ど無商賣の状態を常とするも、農村の植付が済みモンスーン明けの頃ともなれば奥地よりの註文弗々湧起し、デワリ(ヒンヅ)正月、クリスマス季節を前にして賣行活潑なり。

次に最近の市場に於ける陶磁器の需給状況を見るに、本邦陶磁器の輸入數量が減退したる形跡なきは船會社並營業者の言ふ處に徴し明かなるも、輸入額に於ては却て二割二分の減少を來し居ること、印度政府貿易統計について見るも明なり。元來本邦陶磁器は多數印度人の日常生活上に於ける必需品たること云ふ迄もなく、假令英國或は他の歐洲品が品質に卓越し居ると雖、本邦品の如き安値を以て供給すること到底不可能の實狀に在れば、購買力に乏しき多數中流階級以下の需要

が本邦品に集るは當然のことにして、其需要は頗る廣き譯なり。現に當業者の談によれば、最も需要多き取手附湯呑「カッブ」の如き、英國品は卸値一打二圓五十錢又獨逸品其他歐洲品も一打二圓以下にては供給不可能の實狀なるに、我國にては現に七、八十錢乃至一圓見當の安値を以て供給し居れりと。右は全く本邦内地當業者の賣込競争激しき爲、自然安値賣を餘儀なくせられ殊に手許不如意の如き場合、損失を忍びても製品を手放し現金に有つきたがる結果にして、買人たる印度商は之を機會に叩ける丈け叩き、是々の値段にて提供せば現金前拂等本邦商の金融不圓滑に附入り克く安値買を爲す結果本邦品の印度輸入數量相當大なるも輸入額は案外之に伴はざる奇現象を呈し、然かも本邦製造家、輸出商共儲少く時には原價を割りて商内を餘儀なくせらるゝ場合ありと云ふ。

如斯は本邦當業者は素より本邦貿易上より見て甚だ遺憾なるが故に、之が對策としては先づ金融策に關する便法及輸出標準値段の協定等につき、團體の力により之を取纏むるに如かずと思考せらる。

英國品は高級品が主なれば價格も本邦品の三十割高なるが、品質形狀デザイン等總て精練せられ、取引上についても頗る圓滑に行はれ、クレームの如き全然なしと云ふ。英國陶磁器の輸入に際しては税關に於ては之を開きて内容の検査を行ふことなくインヴォイス面記載の儘にて容易に陸揚せられ居るも、本邦品に至りては頗る煩鎖に取扱はれ、内容検査は勿論、税額の査定についてインヴォイス記載面の額に頼らずバザール相場により課税せられ居る有様なり。

本邦品は品質粗悪、仕上げ不完全且模様等も不満足なりとの評は、克く耳にする處なるが、之は値段の點を考慮に容れざる暴評たるを免れず。本邦品も英國其他歐洲品並の値段を以てせば、同等品以上の優良品を製出し得べきは容易ならんも、悲しい哉歐洲品の如き聲價を有せざる爲、同價格、同質のものとなし、信用上に於て頗る弱味あるは遺憾なり。尙最後に本邦陶磁器の印度輸入に伴ふ難物は、クレームにして、上述の通り本邦品は極端なる安値賣を強ひらるゝ結果

は當然茲に無理を生じ、見本と著しく異なるベケ物の仕向や或は南洋向の形狀に造られ、印度人の嗜好に全然副はざる品物を仕向くる等の弊續出し、殊に製造家と輸出商との中間商人たる問屋又はブローカー等が、一時を糊塗する爲不正姑息の手段を以て有合せのストックより商品を整え荷造する等の輩あるは珍しからず。彼等は多くは金融の運轉不如意の苦境より出でしものと見らるべきも、此手の不良商人の續出は遠き將來の我對外貿易上に一大暗影を投ずるものにして、彼等の取締を嚴行し斯かる弊風を一掃することは本邦當業者として焦眉の問題なりと思考せらる。

第二十 玩 具

一九二七—二八年中に於ける外國製玩具(運動具、ゲーム・カードを除く以下同)の輸入額は三百八十萬五千留比に上り、茲數年間少量ながら増加を見つゝあり。而して其主なる積出先は獨逸、本邦及英國にして、輸入の割合は獨逸及本邦は夫々全輸入額の三割六分、英國は其半分見當なり。右の外米國製も相當の輸入を見つゝあるも未だ大ならず。

既往五年間に於ける玩具輸入額を國別に示せば左の如し。

印度輸入玩具國別輸入額 (單位千留比)

輸 入 先	一九二三—二四年	一九二四—二五年	一九二五—二六年	一九二六—二七年	一九二七—二八年
英 國	五二〇	五二五	五五五	六三三	六六七
獨 逸	一一、三四三	一、七九〇	一、四〇八	一、五九〇	一、三九二
白 耳 義	二八	三六	三六	二五	一七
佛 國	二七	三五	四一	五四	四二
日 本	八八八	一、三七〇	一、二六〇	一、〇九五	一、三三三
第二章 日本より印度向輸出品				二二一	

第二章 日本より印度向輸出品

米	一三九	一六六	二五一	二三七	二七四
其	三七	四〇	二五	一二五	八一
計	三、九二八	三、九六二	三、四七六	三、七五九	三、八〇五

印度に於ける玩具の需要最も多きは孟買地方にして、其年輸入は二百一萬九千留比即ち五割三分に當る。而して孟買輸入玩具中最も多きは本邦品にて八十一萬五千留比を占め、又獨逸品も八十一萬一千留比に上り、英國は二十一萬二千留比、米國亦十四萬八千留比の輸入あり。各港別輸入状況左の如し。

港別	輸入額 (單位千留比)	一九二二—二三年	一九二四—二五年	一九二五—二六年	一九二六—二七年	一九二七—二八年
カルカッタ	一、三九五	一、二二五	一、二五〇	一、二〇〇	一、一〇一	一、一〇一
孟買	一、九七九	二、〇八〇	一、五五八	一、八三九	二、〇一九	二、〇一九
カラチ	二五二	一三〇	一三三	一二八	一八七	一八七
マドラス	一一五	一一二	一七二	二一〇	二一五	二一五
蘭貢	二三一	三一五	二六三	二八二	二八三	二八三

輓近當地市場に於ける玩具は全く面目を一新し、其構造、創意、嗜好等目覺しき發達の跡あり。殊に注目すべきは會て千篇一律の物のみ仕向けられし本邦製品が、最近其製造に創意を凝らし、續々新品を仕向くるに至りたることに於て、之全く我玩具界の一大進歩と云ふべく、將に現時の要求に適合する喜ばしき現象と見ざるべからず。云ふ迄もなく玩具は形體、嗜好が常に改良進化されざる限り販路は見出し難き性質のものなれば、新規發明品は敏速にカタログ其他により廣告

宣傳をなし常時當業者の注意を反らしめざることに努めざるべからず。

玩具を材料より分て(一)鐵葉製のもの(二)木製のもの(三)セルロイド製のもの(四)護謨製のもの(五)土製のもの(六)其他各種混製のもの等となし得るも其中(一)は獨逸、英國製品若くは米國製品に優良且高級品多し。又(三)は本邦品の獨り舞臺にて他國品は追隨を許さず。(二)(四)(五)(六)に至りては各國製雜多にて殊に最近木製玩具中には印度製の物漸く多くなりたるが、印度は木材豊富且廉價なるも何分技工未だ著しく拙なるものありて勿論輸入品とは比較にならざる有様なり。鐵葉玩具としては乗物即ち汽車、自動車、三輪自轉車、人形車、荷車、船等多く又小供用小型自轉車等にも多種あり。汽車の如き堅牢なる鐵を用ひ、細工細やかなる模型には百留比以上のもの珍らしからず。其他の乗物も何れもゼンマイ仕掛又は簡易なる機械を裝置して自動式に廻轉するもの多し。電車、自動車には小型のスイッチを設け點燈自在のものあり、之は三留比の小賣値にて販賣されつゝあり。人形は近時獨逸より仕入れられ居る堅牢不拔土製着附人形最も好評なるが如く、値段は八吋大一打十二留比位より又二十二吋大のものは一箇三留比乃至五留比にて賣行可良なりと云ふ。我製品としてはセルロイド製裸人形十吋乃至十五吋大のもの相當多く店頭を賑し居る處、之は内部に簡單なる笛を仕組み啼き人形となしあり相當の賣行ある由、小賣値一留比八安見當。尙セルロイド製にて達磨式に種々色彩を凝らし、把手附人形に小鈴を數多附せるものは最新の着荷として盛んに賣られ、一箇小賣値一留比八安見當なり。護謨人形にも多種あれど從來のものとは變らざる爲賣行香しからずと。

動物類即ち猛獸、鳥、犬、猫、兎の如きは概ねセルロイド製若くは布製多くセルロイド製は一箇五、六安に賣られ居る處、色合は淺黄、白、青、赤等向くも黒は絶対に不向なりと云ふ。

幼児が用ふる「ガラ〜」にも種々面白きものあり、又色合は鮮かなるを要するも、容易に色剥ける物又は毒素を含める

もの等は絶対に禁物なり。一箇賣は凡そ八安乃至十安なり。

右の外セルロイド製品は腕環、櫛、鏡の裏、石鹼入、刷子の臺、粉入其他各種の容器ありて用途頗る廣きを以て、珍奇にして巧みなる諸器具を製作するに於ては販路増張すべきは疑の餘地なし。

機械玩具は前述の通り歐米品多く、本邦品は繊弱にして破壊し易く他國品に及ばざる怨あり。電話の如き又獨逸製小型蓄音器の如き何れも面白き玩具にて、小型蓄音器は機械の値段三留比、之に小型レコード一枚六安と云ふ安値に販賣せられ居るなり。其他玩具樂器として笛、ハモニカ其他珍妙なるものは多く獨逸品にて何れも好評を博し居るが如し。

右の外陶器製又はアルミニウム製茶道具、臺所具の玩具は箱入となし女兒の玩物となり、所謂智慧木にも頗る進化したるものあり。又花瓶、香水吹、白粉入等にして置物兼用のもの等何れも賣行良しき模様なり。

要之當地方に於ける玩具は何れも珍品を創造し各國より競争的に仕向けられ、當市場に於て顧客の奪合をなし居るの觀あり。之を全般的に見るに我玩具の勢力は歐洲品殊に獨逸品に壓迫せられ居るの觀瞭然たるは遺憾なりと雖、常に妙味ある新規品の仕向を怠らざるに於ては販路の前途は益々速大なるも、此點には殊に長ぜる獨逸品とは常に競争的立場に立たざるべからざれば此上共彼等に乘ぜられざらんことを期し、又從來の例として本邦品は最初の註文に對しては優良なる品を仕向くるも、一回より二回、二回より三回と品質を落すの通弊ありとの惡評もあることなれば、此點は飽迄矯正の急務なるを痛感す。因に當地市場に於て玩具の賣行多きは七月以降十二月に至る間特にデワリ前及クリスマス前をシーズンとす。

第二十一 セルロイド製腕環

セルロイド製品中殊に印度人間に需要多きは腕環(バングル)にて、數年前迄は本邦品の輸入最も多く偉大なる勢力を有して居たるが、最近歐洲方面よりの輸入加はり、佛國の如きも此種商品の輸入に極力努力をなしつゝある模様なるが、値

段の點に於て本邦品とは競争不能の状態に在るものゝ如し。本邦品は技術の點に於て優り、克く民衆の嗜好に投合する様力め歐洲品が稍々紅色又は褐色を呈せるに拘らず、本邦品は純白のものを製出すること及取引數量比較的大なる點に強味あり。隨つて安値に供給せられ居るを以て數年前の如き勢力はなきも依然相當の需要あり。

元來セルロイド・バングルの使用は主として中流以下の下層民に多く、其内白色のものは着色せるものに比し需要頗る大なり。而して白色のものは純白なるを最も可とす。

輸入商はセルロイド製品を象牙の模造品として賣捌き而して生きてる象の牙は純白なるも、死象の牙は褐色を帯ぶとの觀念より紅色又は褐色を帯びたるものゝ取引は有利ならざるものゝ如し。併し取引不可能には非ず。兎角セルロイドは其性質上長日月の間には多少の變色を見るものなれば、取引當初より紅色を帯び居るものは全く歓迎せられざるやうなり。

故に其取引上、手持品を成るべく少からしむる傾向あるは勿論、輸出者側に於て包裝等にも入念變色を防遏するの要あり。次に印度商人の取引振を見るに、彼等の内には小商人且奸商多く、所謂柄の悪き連中多き爲、兎角苦情を惹起すること少からず。彼等の常套手段としては商品に對し些細なる缺點を捉え、然かもセルロイドが自然的に變色性を有することを充分承知し居ながら多少たりとも變色性を有するものに對しては其引取りを拒絶し、又は夥しき値引金を要求するを常とす。然かも他の商品のクレームに比し難き程多額を要求し來ることあり。故に本邦製造家は製造上の技術に依り此自然的變色を防ぐ何等かの方法發明せられざる限り、此種苦情の發生を阻止することは至難なるべし。

セルロイド腕環の使用者は中流以下に多く、然かも奥地方面への供給が大部分にて遠隔僻陬の地に居住せる彼等の手に亘る迄には相當の日時を要し、從て變色せるもの多きが故に、奥地消費者間には純白なるセルロイド・バングルは甚だ珍らしきものとして歡ばれ居れり。其等の使用者はグヂエラテイ、マルワリ、カツチ等各種族間に多し。然るに奥地に於ける文

化今尙遅れ、割烹の如きも薪炭或は石油ストーブを使用し、燈火は原始的なる裸火或は石油洋燈により居る關係上、可燃性強きセルロイド・ベンダルにより不慮の負傷其他の危険を蒙る者少からざるを以て、奥地土語新聞の如きは夙に此可燃性セルロイド・ベンダルの使用中止を宣傳し、印度の某州の如きは之が使用を公許せざる處すらある程にして、此セルロイド・ベンダルの取引は漸次衰微を告ぐるに至り、現在は往年全盛時代の頃に比すれば半減し、漸く五十萬打(對)見當に見受けらる。

尙最近の傾向としては日本製セルロイド・ベンダルの對し獨逸、致須國等より不燃性品の輸入を見るに至りたることにし、本邦にても既に此點に留意し弗々不燃質品の輸入あるやに聞き及べる處、其價格は從來のものに比し、一打に付八安高に商内はれ居れりと。

印度の商社は何れも奥地の下層民に多く、購買力も微弱なるが然も中間商人の利益相當多き爲、本邦よりの仕入値段は常に安値を望み居るなり。現在セルロイド・ベンダルの卸値は孟買倉庫渡一打に付一留比十二安乃至二留比見當にて、最も需要廣きは直徑一時八分の七のものなり。是等は外氣其他の影響による變色又は變質を防ぐ爲、遠隔地へ輸送するものには在りては殊に最も嚴重なる包装をなさざるべからず、普通一箱百打乃至百二十打入となり居れり。

要するに本邦セルロイド・ベンダルの需要は往年に比し著るしく減退の傾向あるも、今尙市場の勢力を存し居れば、此際純白にして然かも變色の憂なきや且最大缺點たる可燃性を不燃性のものに研究し宣傳をなさば相當の効果を收め得べし。尙印度商人中には概して素質劣悪なる輩多きに付、取引は慎重に且注意周到なるを要す。

一、輸入状況

第二十二 護謨製品

一九二六—二七年中の輸入高は大凡二千百萬留比に上り、其主なるものは自動車タイヤ、自轉車チューブ、自轉車タイヤ、丸護謨等にして、夫々一千八百八十萬留比、二百三十萬留比、百四十萬留比、百十萬留比の輸入額に上り、其他護謨製雜貨は三百萬留比に達せり。

自動車タイヤは全數の三割を英國より、二割を佛國より、一割を加奈陀より、殘四割を諸國より輸入し、又チューブは英國品五割を占め居れり。

尙一九二五—二六年の自動車タイヤ輸入量は二十六萬一千箇を算し、其翌年は三十一萬箇に増加せるも、輸入額より見れば一九二五—二六年千二百三十萬留比なるに拘らず、次年は千八百八十萬留比に減ぜり。故に數量に於て二割五分を増加せるに反し、金額に於ては却て四分の減少を來せり。蓋し製品の需要増加せるに反し原料品の値段が廉かりしに因る。

二、販賣徑路

護謨製品の販賣は輸出商に移り然る後所謂土人輸入問屋を経、更に卸問屋を通り茲に仲買人が介在し、小賣商に渡り後始めて消費者の手に入るものなれば、消費者の手に入る迄は數多の手を経る次第にて、勢ひ其間の利益少く競争甚だしき爲、製造家より市中卸商に直接向けらるゝ直取引が漸次盛んとなるの傾向あり。

三、取引状況販賣方法

印度に於て自動車タイヤ製造家として印度の主要都市に支店を置き孟買及カルカッタに總支店を有する Dunlop 會社の採れる賣込方法を見るに、所謂一年契約制及累進割戻制による。即ち卸商は毎年自己の販賣限度に應じて契約を爲し、其限度迄は製品の賣行に従ひ總支店より配給を受くる方法なり。計算は二週間毎或は毎月之を行ふを例とす。而して成績に隨ひ比例割戻制度を以て取扱商の利益を圖り居れるが、此方法は孟買商人に好感を與へ居るものゝ如し。普通是等

取引商は契約の最少限度を成るべく内輪に見積り、常に契約數以上を賣りて、會社規定の累進率に均霑せしむるの方法に出づ。然かも彼等は巨額のストックを持つ必要なく、需要ある毎に總支店より新規良品の配給を容易に得らるゝ組織となり居る處、是に因て得る利便は、

(一) 卸商は常に新品を容易に實需家に供給し常に満足を克ち得ること。

(二) 在荷少きを爲資金轉換迅速なる結果此間に起り易き損害を避け得ること。

等なり且累進割戻制なる爲、賣上成績の増進に好影響を與へ、小賣値段の競争を防ぎ、賣手、買手共値段上の不安なく然かも嶄新なる商品を獲得し得るの利益あり。

其他掛賣制度にてタイヤを賣込む會社もあれど、斯かる場合は豫め金額の限度を定め、其範圍内にて商品を隨意供給し精算は月二回位に行ふと云ふ。

右の外無制限に荷物を押着くる會社もあれど、之は前二種の方法より見るときは甚だ拙劣なる方法にして、爲めに動もすれば商人が熱心に賣捌を爲さざる結果に陥り實益至つて少しと云ふ。

四、護謨製雜貨の取引並販賣方法

之迄述べたるは主として自動車タイヤ等の販賣方法なるが、運動器具、玩具其他護謨製雜貨につき述べ見んに、元來玩具、文具、運動具其他雜貨は主として歐洲大陸及本邦より輸入せられ、英國よりの輸入は左迄多からず。其商品の種類は頗る多岐に亘り、従つて中間商人の數夥しく輸入商、代理店、ブローカー、卸問屋、仲買、小賣商の手を経て、消費者に亘るを常とす。而して小賣値段の如きも取扱商に依り一定せず、販賣方法は一名シンチケート・システムと云ふものにして製造家、輸出業者が一種の組合を作り、値段の協定、取引條件、苦情解決方法等に關する規定を設け、輸出入商共或る特

定の製品は其特殊會社よりのみ買付くる立前のものにて、他より容喙を許さざる態度に出づるものなり。此制度は護謨製品に特有なる値段の亂高下を阻止し得るの便益あれば、孟買に於ける商人は大なる不安なく注文を繼續買付を行ひ得るの利便あり。

五、本邦製品の市場に於ける現況並取引方法其他

本邦品の當地市場に於ける販賣方法は何等確たるものなく、全く混沌たるものあり。其實狀を觀るに印度に於ける護謨タイヤ及チューブは歐洲大陸製品の廉價なる結果競争に堪え難く、又護謨製雜貨は値段の外取引上の缺陷等にて満足なる結果を收め得ず、然かも取引方法は甚だ拙劣不堅實たるを免れず。

現在本邦よりの輸入護謨製品としては玩具、靴底、踵、ユタンボ、氷囊、護謨管等を主とする處、夫等の品質に就ては値段の割合より觀て別に非難を聞かざるも、販賣方法に關しては一大缺陷あるを認めざるを得ず。即ち値段の安定調節上何等の方法を設けざる爲、兎角値段の亂高下あり。取扱商は賣値段の設定をなすに何等の手段なく、常に値段の高低を慮れ相手選ばず成るべく速かに着荷を手放すことに焦慮し、徒らに買手のみを漁る爲、市場値段は常に低下し、偶々本邦値段が騰れば手を拱て下落を俟つの有様にて、本邦側より見れば高値の買人なく安値のみの買手があるが如き結果を來し其處に製造上の無理を生じ製品の不完全等の弊を胚胎するに至る。如斯印度商は賣急ぎ、本邦商は相手構はず無理賣をなす等の爲、印度商は大量注文を差控え値段の變動により受くる損害を最少限度に止めんことに努むるに至る。斯かる値段の不安定が因をなし土人商は懸念の餘り値段に保證安定のある歐洲品に走るに至るは自然の數なりと云はざるべからず。

故に本邦當業者としては差當り値段上の安定を先決問題とし、或は組合組織等により此種弊害の除去に努め、相手商人

に安心を與へしめたきものなり。本邦より當地方面への護謨輸出商は未だ比較的少きを以て、此際本邦品が品質其他に於て一般より相當優良視され居る點と相俟つて前述べの弊を矯め適當なる取引方法を講ずるに於ては相當の結果を齎らすに至らん。

第二十三 護謨靴、子供靴

護謨製雜貨中印度に對して比較的本邦品の輸入多きは護謨靴、子供靴、玩具類等にして、護謨製品中自動車又は自轉車類のタイヤー其他大物は歐洲品又は米國品の大量輸入ありて到底本邦品の賣込は困難の實狀にあり。仍て茲には護謨靴、子供靴(革製のものを除く)につき概況を述ぶることすべし。

元來印度は皮革の原産地なれば、靴其他履物類については國內に於て極めて安價に製造せられ、殊にヒンヅー教徒間に廣く使用せらるゝ國産スリツパの如き、僅二、三留比の安値にて容易に求められ居る實情なるが故に、本邦製スリツパの如きは需要餘り大ならず。又印度は雨季たる六月より十月に至る間を除き、全然降雨を見ず、然かも雨季中と雖、都市に於ける道路は頗る完備し、本邦都市郊外地に於けるが如く泥濘ならず、従つてオーバーシューズを用ふるもの少し。尙スブーツ用靴としては白ツツクの底護謨のもの廣く用ひられ居るやうなるも、需要者には自ら一定限ありて需要にも凡そ制限あり。

印度政府發行貿易統計によれば、一九二七—二八年中革製、護謨製其他各種靴類の總輸入高は二百七十七萬二千九百六十四足、六百六十九萬八千六百三十七留比に達し居り、其中革製のものを除けば二百二十三萬五千三百十二足、三百七十八萬六千五百七十七留比にして、其最大輸入先は米國の百五十七萬六千留比とし、之に次ぐ英國の百一萬七千留比にて、其他澳地利の五十一萬九千留比、獨逸の三十三萬千留比等は多き方なり。我國よりは十五萬八千留比を仕向け居るに過ぎず。

其輸入割合は米國四割一分六厘、英國二割六分八厘、獨逸九分三厘、我國四分二厘にして、是等の輸入は各國共逐年漸増の歩調を示し居れり。而して大部分はカルカッタ港に輸入せられ居たるが、近來緬甸方面の需要頗る増加し、其割合は蘭貢三割九分、カルカッタ三割二分、カラチ一割五分、孟買一割二分にして他はマドラス港の輸入とす。既往五年間に於ける國別及港別輸入狀況左の如し。

護謨靴其他(革製を除く)國別輸入額 (單位千留比)

輸入先	一九二三—二四年	一九二四—二五年	一九二五—二六年	一九二六—二七年	一九二七—二八年
英國	五〇二	五五四	八五七	七八三	一、〇一七
獨逸	六	一九	九	八〇	三三一
白耳義	—	—	二	—	四一
佛國	三四	一〇	三四	六一	四八
伊太利	二〇	二五	二四	三一	三三
澳地利	五三	一三五	一八五	三三〇	五一九
致須	—	七	一三	一二七	五六
日本	二二一	一五五	一二八	一〇二	一五八
米國	一六七	二六四	四八三	一、四〇九	一、五七六
其他	一六	二七	二二	一九	八
計	一、〇一九	一、一九七	一、七五六	二、九四三	三、七八七

同港別輸入額 (單位千留比)

輸入港	一九二二—二四年	一九二四—二五年	一九二五	二六年	一九二六—二七年	一九二七—二八年
カルカッタ	二四四	一九八	三九一	一、〇七二	一、二〇五	
孟買	一一九	一五四	二四八	四七七		
カラチ	八六	二〇四	二七〇	三五一	五七九	
マドラス	二二三	二二三	三一	四三	六四	
蘭貢	六三七	六一八	八一六	一、〇〇〇	一、四八一	

上述の通り本品の輸入は英、米品最も多く、其原産地たる加奈陀製のものは當地市場に於て頗る好評なり。これ其品質堅牢にして耐久力に富み、且比較的廉價なる爲なるを以て本邦品の賣込策としては品質の改善即ちエナメルの塗方を入念にし、剝を生ぜしめず且龜裂を生ずるの憂なからしめ、内側用の染布に注意し、尙形體についても充分研究を施し、需要者の嗜好に投合せしむる等を先決問題とす。又購買力貧弱なる印度人向としては安値に供給することの必要は申す迄もなし。曾て當市場に實地取引開始に奔走せる一邦商の如き印度商側の餘りの安値要求に啞然として、斯くては採算立たずとなし取引を斷念したる事例さえあり。兎角印度人は掛引強きが故に可及的安値に買値をつくる風あれば、初手の取引希望者は夫等の點に相當覺悟を要す。總て本品に限らず印度との取引は頗る煩雜にして且薄利なること及惡辣なる印度商人は何等か取引上の弱點を捉え苦情をつけ値引金や賠償金を要求するを常癖とするを以て、實際取引開始に方りては相手方の選定を充分行ふと共に多少のリスクを豫期せざるべからざるはやむなきことなり。乍去安値品と相並んで歐米品を凌ぐ高級品を彼等に常に紹介を怠らざること亦本邦品の權威上より見て必要なること勿論なり。

第二十四 刷 子

一、最近の輸入状況

印度は古來各種植物纖維又は獸毛等刷子製造原料豊富なる爲、刷子の製造等も隆盛なるべき筈なるに、現在工場工業として認むべきもの僅々六、七工場あるのみにて、此外家内工業的に多少の製産を見つゝあるも一般の需要を充すに足らず多くは外國品の供給を俟ち居る現状なり。而して印度に於ける刷子の需要は文化の進展と相俟て逐年漸増の歩調を示し居ること左表各種の輸入状況より見て明かなり。

各種刷子の既往五年間に於ける輸入状況左の如し。

塗用刷子輸入額(單位打、留比)

年別 輸入先	數量					金額				
	一九二二—二四	一九二四—二五	一九二五—二六	一九二六—二七	一九二七—二八	一九二二—二四	一九二四—二五	一九二五—二六	一九二六—二七	一九二七—二八
英國	二六、七六	三三、八七	三三、八八	三六、六〇	三七、五四	三三、三五	一八六、九九	二二二、一〇	二七五、二四	二七五、九三
獨逸	三〇、三四	二二、九六	一八、二〇	三三、五九	四〇、九六	五六、六二	二二、一六	三三、七〇	四、四〇	四七、九八
伊太利	三	三	—	八三〇	五、九八一	一四	一五	—	一、〇〇	八、九三
澳地利	一、三〇	一七〇	—	五、九三〇	五、〇五七	一、八〇〇	四四	—	一〇、五七	九、八〇〇
日本	二、四七	二七	一四	二四	一八二	一、〇七八	三四	八三	一、五七	一、二九
米國	五五	二五二	九	二九六	—	五、八三七	三、七三九	九六四	二、六五六	—
計(其他を含む)	二、三九	三六、三五	五〇、七二	七、八六〇	八九、六四	三七八、九七	二二四、六九	二五五、九〇	三三六、五六	三四四、一〇

化粧品用刷子輸入額 (單位打、留比)

輸入先	年別		金額	
	數量	留比	金額	留比
英 國	一九三二—四	一九四一—五	一九五一—六	一九六一—七
獨 逸	三、九五	二〇、三八三	三六、八八六	三、二八〇
佛 國	一〇、三三〇	二五、九三二	九三、七七七	三〇、〇三〇
伊 太 利	一、三三三	二、八七五	五、〇九六	三、〇五三
埃 地 利	—	—	—	—
日 本	九五	二	一〇〇	六四
致 須	三三	四九二	二九二	一四〇
計(其他を含む)	六、一九九	一、〇四九	四七、〇八四	二七、〇六六
其他の刷子輸入額 (單位打、留比)	七、〇三八	三三、一九九	一三六、九三三	二九九、四六七
英 國	一九三二—四	一九四一—五	一九五一—六	一九六一—七
獨 逸	三、五五六	三六、七三四	五〇、二九八	四、七九九
佛 國	一〇、三三〇	二五、九三二	九三、七七七	三〇、〇三〇
伊 太 利	一、三三三	二、八七五	五、〇九六	三、〇五三
埃 地 利	—	—	—	—
日 本	九五	二	一〇〇	六四
致 須	三三	四九二	二九二	一四〇
計(其他を含む)	六、一九九	一、〇四九	四七、〇八四	二七、〇六六
其他の刷子輸入額 (單位打、留比)	七、〇三八	三三、一九九	一三六、九三三	二九九、四六七

輸入先	年別		金額	
	數量	留比	金額	留比
埃 地 利	一九三二—四	一九四一—五	一九五一—六	一九六一—七
致 須	一、一五九	一、六三二	二、六九〇	四、三七五
日 本	二	一六〇	八八二	一、〇九〇
米 國	一七、六八二	四六、三三三	一三、四九七	六〇、〇三一
計其他を含む	四、一〇二	八、七七四	一五、六四六	五、七七八
港別刷子輸入額 (單位千打、千留比)	一五、五五五	一五、八八七	一七四、九六八	一九、〇三四

輸入港	年別		金額	
	數量	留比	金額	留比
カルカッタ	一九三二—四	一九四一—五	一九五一—六	一九六一—七
化粧品用	一三	六	一一	一八
其他	一八	二〇	五六	二九
孟 買	一九三二—四	一九四一—五	一九五一—六	一九六一—七
化粧品用	一〇	四五	四六	五二
其他	二五	一一	二一	三五
カラチ	一九三二—四	一九四一—五	一九五一—六	一九六一—七
化粧品用	一七	二一	六六	三九
其他	七二	八三	八〇	八七
其他	一一	六	九	一〇
化粧品用	七	一一	一五	一一
其他	四	七	四	三

爪掃除刷子は主として英國、米國、獨逸等より輸入せられ居る模様なるも、其需要は一部階級に限定せられ居る爲廣大ならず。

(三) 其他の刷子

掃除用、衣服用、帽子用を意味するものなるが、是等は本邦よりの仕向品として重要視する價值あるものなり。一九二七—二八年に於ける輸入總高十九萬七千打(約四十八萬留比)中我製品は數量に於て約四割六分を占め居るも、金高より見れば一割三分五厘に過ぎず。獨逸品は數量に於て約二割四分なるが、金額に於ては一割八分四厘なれば、此間の開き比較的少し。然るに英國品に至りては數量に於ては僅に一割七分なるも、金額に於ては五割三分七厘と云ふ高率を示し、全く我國の夫れと正反對の現象を呈せり。要之本邦品は數量的には第一位を占むるも、金額より見れば第三位なるが、之に反し英國品は金額に於て全體の過半數を占め第一位なるも、數量的には第三位なり。

各種刷子中衣服用刷子は英米品の輸入多く、何れも毛は完全に殺菌せられたるもの市場に見受けらる。尙是等はステイック、メデ・ステイック及エキストラ・ステイックの三種に分けられ居る處、前二者に好需ありと云ふ。帽子用刷子は、衣服用のものと同様の注意を以て作らるゝものなるが、概して色合白く柔毛のものに賣行よろしき様なり。

靴磨刷子も矢張り歐洲品の輸入多く、使用材はチーク材、毛は椰子纖維等を用ひ居るものあり、尙硬毛よりも軟毛の方一般向なりと。

三、各種刷子の卸値段概況

イ、齒 刷 子

上等品 一打 十一留比乃至十三留比

中等品 同 七留比乃至九留比

下等品 同 五留比乃至六留比

子供用 同 三留比乃至五留比

ロ、衣服用刷子

ステイック (7 $\frac{1}{4}$ 吋, 11 $\frac{1}{4}$ 吋) 一打 八十五、六留比

ミディアム () 同 六十五留比

同 (7吋, 13 $\frac{3}{8}$ 吋) 同 四十三留比

同 同 六十五留比

ハ、靴磨用刷子

獨逸及致須製品 一打 四留比十二安

英國製品 同 六留比

ニ、爪掃除用刷子

上等品 (5吋, 2吋, 8 Row) 一打 七十留比

同 (同 同 7 Row) 一打 五十四留比

同 (同 同 6 Row) 同 三十八留比

中等品

下等品

ホ、塗用刷子

同 二十七留比前後

同 二十留比前後

四、本邦品の取引並注意事項

一「グロス」五留比前後を普通とするも七留比より八留比のものもあり。

刷子の取引に關しては其個人たると團體たるとを問はず、商標が彼等印度商の信賴乃至視界に常に存在すれば足れり。前述の如く本邦製品は彼等の間に悪印象を貽し居る爲、輸入に際しても頗る煩雜且検査等も嚴重なる模様なれば、殺菌の嚴行は勿論品質其他値段の吟味等に關しては輸出組合等團體の力により統一改善に努め、取引先の如きも一市に多數を避け、確實なる一或は二を選び之に專賣せしむるを可とす。尙取引上並本邦品の品質其他に關する當地商人の希望乃至意見を綜合考察するに左の諸點に歸着す。

- (一) 刷子類の取引は雜貨商の手により殊に小口のものなるが故に煩雜且薄利たるを免れ難きこと。
- (二) 相手方の信用並取引振の明かならざる場合はD/P 三十日位を以て約定するは止むなきことながら、其信用等判明するに隨ひD/P 六十日位に緩和すること。
- (三) 仕上げ、包装及船積時期等相手方の註文明細書に相違なからしめ些細なる缺點等を捉えられ苦情等を惹起せしむるの因を與へざること。
- (四) 印度商向齒刷子としては舌搔を附せざる方可なること。
- (五) 各刷子共殺菌を嚴行し、消費者に安心を與ふるの方法を講ずること。

(六) 脱毛の憂なきやう特に毛の植付を入念にすること。

(七) 臺材は磨きを充分施し、塗りを完全ならしめ美麗且奥床しき品位を保たしめ、一見淺薄に見ゆるものは飽を覺えしむる虞あれば此點に留意すること。殊に使用數重なるに連れ塗りが剝げ又は褪色するが如きことなきやう充分注意すること。

(八) 商標及原産地名の記入は程よき箇所に體裁よく必ず之を附すること。

(九) 安値品のみに限らず、中流以上向として同時に上等品の輸出をも忘れざること。要するに我仕向品雜貨中刷子の如きは益々有望視せらるゝ商品の一なれば、上述の如く製造上諸點に留意し、一面取引の圓滑を期し機宜に従ひ巧妙なる宣傳廣告の方法を講じなば相當効果を收め得べしと思考せらる。因に刷子の輸入税は従價一割五分なり。

第二十五 藥品類

熱帯にして不健康地と稱せらるゝ印度は、北部カシミール、シムラ方面或はダーヂリン、オータカモンド等の高地を除きては十二月より二月に至るコール・シーズン及雨季を除く三月より五月まで及十月より十一月までは特に暑熱甚だしく、當孟買市に於ては一箇年の平均温度大凡八十度と云はれ居り、従つて住民の健康を害するもの少からず。然かも土人の多くは貧民階級に屬し、且つ文化の程度低く衛生思想に乏しく居常營養物の攝取も充分行ひ得ざる爲、一朝飢饉若くは傳染病の厄に遇へば斃るゝ者頻々として絶えず。故に土人の死亡率は相當高き狀況なり。試に一九二八年(昭和三年)末に於ける孟買市衛生局の發表する數字を見るに同年中の死亡者累計二萬七千三百十二人にて、當市人口を大凡百二十萬人とせば二分二厘七毛の率なり。而して就中呼吸器病、結核、疱瘡、胃腸病、マラリヤ熱等は最多く、就中幼児(一歳未満)の死亡率高

し。同年中幼児の死亡は七千四百二十九人(總死亡數の四割二分)なり。尙病氣別に死亡者の割合を示せば呼吸器病三割八分、結核六分三厘、胃腸病(赤痢を含む)四分二厘、瘡癤二分二厘其他マラリヤ、ペスト等の順序なり。

當地方は右に記述の通り健康上甚だ良しからず、随つて之等醫療用藥品の輸入量は頗る巨額に上り、然かも輸入は逐年一定の増加率を示し居れり。以下印度に於ける各種藥品の輸入狀況に關し略述せん。

印度政府發行貿易統計年報に依れば、一九二七—二八年中に於ける藥品の總輸入額は一千九百八十二萬八千留比を示し居る處、其最大輸入先は英國にして、全量の四割七分即ち九百二十六萬七千留比を占む。之に次ぐは獨逸にて二割三分の四百五十七萬一千留比、次に本邦の一割一分三厘即ち二百二十五萬留比、尙米國よりも一割強の二百一萬三千留比を仕向ける。試に之を五年前に比較せば獨逸は二倍半以上を、米國は約七割五分に何れも増加し、英國品は持合ひ、本邦品は著減の有様なり。

既往五年間の輸入額を各國別及港別に見れば左表の如し。

藥品類國別輸入額 (單位千留比)

輸入先	一九二二—二四年	一九二四—二五年	一九二五—二六年	一九二六—二七年	一九二七—二八年
英國	九,二二七	九,二五二	九,一六五	九,四五七	九,二六七
獨逸	一,六五七	一,七四三	二,〇五二	三,三四二	四,五七一
佛國	五〇九	四六八	七一四	六五三	六七〇
伊太利	九四	一五二	一九一	一九〇	一六八
日本	三,〇五三	二,五五二	二,五〇八	二,五六〇	二,二五〇

米國	一,三一〇	一,四三四	一,三三〇	一,七七二	二,〇一三
其他	一,三四〇	一,三六三	一,三五一	一,〇二八	八八九
計	一七,一九〇	一六,九六四	一七,三二一	一九,〇〇二	一九,八二八

藥品類港別輸入額 (單位千留比)

輸入港	一九二二—二四年	一九二四—二五年	一九二五—二六年	一九二六—二七年	一九二七—二八年
カルカッタ	五,六七一	五,四四五	六,二〇六	六,〇六三	七,一九五
孟買	七,六三〇	七,五九九	六,八三七	八,一八三	七,四八四
カラチ	六八九	八八〇	九七五	一,〇六五	一,二一〇
マドラス	二,二四六	一,九五九	二,二四一	二,五七八	二,七二二
蘭貢	九五四	一,〇八一	一,〇五二	一,一一三	一,二一七

印度に於ては都會地住民は漸く文化の風に浴し、疾病等に侵されたる場合は直に醫療を受くる者多きも、總人口の七割に當る奥地の住民中には古來傳統的の迷信又は因襲により醫療を好まざる者あり。又之を求むるも良醫なき状態なれば、勢ひ賣藥等に頼る者不少、故に賣藥の需要は都鄙を通じ廣く求めらるゝ譯なり。殊に熱病藥、胃腹病藥、性病藥其他強壯劑等に相當の賣行ある模様なり。

試みに是等賣藥類のみにつき輸入額を見れば左の如し。

賣藥類國別輸入額 (單位千留比)

輸入先	一九二二—二四年	一九二四—二五年	一九二五—二六年	一九二六—二七年	一九二七—二八年
-----	----------	----------	----------	----------	----------

第二章 日本より印度向輸出品

二四四

英 國	一、三〇八	一、四三七	一、二六〇	一、五一五	一、四二一
獨 逸	三一	三五〇	三二〇	五二五	七〇二
白 耳 義	三九	三八	四七	三七	九八
佛 國	一三三	一七〇	二一七	一七八	一七八
日 本	九	四六	六五	四一	二四
米 國	三三四	二九七	二九四	二七九	三六七
其 他	二四	一六八	二二二	一五四	一三七
計	二、一五八	二、五〇六	二、四一五	二、七二九	二、九二七

右表に依り明かなる通り、其年輸入額二百九十二萬七千留比中四割八分は英國品之を占め、又獨逸品二割四分、米國品は獨逸品の大凡半分に過ぎず。然るに我製品は至つて少く、僅二萬四千留比を占むるのみにて茲數年來痛く減退を來せり。尙地方的に之を見れば、當地方最も多く全體の四割九分即ち約半分を輸入し、他は蘭貢、カラチ、マドラスの順序にてカルカッタ方面は案外少し。

目下孟買市場に於て好評なる賣藥としては(一)獨逸製 Cataspina (解熱劑) (二)獨逸製 B & S 印 100×2 Grains Quinine Tablets (ペリリヤ藥) (三)獨逸製 Corylin Pastilles (咽喉咳止)其他多種ある處、(一)は錠狀白色のものにて二十箇入硝子管に詰め口を綿にて覆ひ密閉し更に之を紙箱にて包めり。小賣値一箇一留比八安見當、其他(二)(三)何れも硝子罎入粒狀のものにて口を密閉せるものなり。右の外英國製のものにも賣行良好のもの多し。當市場に於ける各國品にして一般需要多きものゝ名稱を擧ぐれば左の如し。

- | | |
|---|----------------------------|
| 1. Sanatogen. (英) | 11. Jambuk. (英) |
| 2. Esmopholes. (英) | 12. Flit. (英) |
| 3. Cafe-Aspirin. (米) | 13. Angier's Emulsion. (英) |
| 4. Feenamint. (米) | 14. Bayer Aspirin. (英) |
| 5. Peps. (英) | 15. Phosherine. (英) |
| 6. Verramon. (獨) | 16. Phillosan. (英) |
| 7. Chiretones. (印) | 17. Listerine. (英) |
| 8. Quinin; Hydro-Chloride Sugar Coated. (英) | |
| 9. Virol. (英) | 18. Katol. (日) |
| 10. Mercoben. (英) | |

上述の通り本邦品の賣行は逐年減少を來しつゝある處、之は一に宣傳の不足と取引方法の宜しきを得ざる等に因るものと見らる。「仁丹」の如きは夙に當市場に稍々大仕掛の宣傳を試み、市の街路に「仁丹」の立看板を見、或は廣告用團扇の如き巧妙なる印度式意匠を基とし印度美人或は印度風俗を描き之を各方向に頒布し印度向のものには英語及印度語を以て具さに効能書を作り、又包紙面の文字も悉く英、印語を使用し居れば常に土人間に知られ今尙相當の賣行を見つゝあり。

熱帶地に於ては兎角く胃腸を害し易く、體力衰え勝ちなる爲胃腸藥殊に下劑乃至緩和劑等に需要多かるべく、尙強壯劑としては宗教上の關係より寧ろ植物性のもの歓迎せらる。又熱病藥にも弗々本邦製藥に需要ある傾向あれば、方法如何に依つては將來有望なる輸出品たるを失はず。現在本邦の賣藥は當地邦人雜貨商の手により仕入れられ、印度人藥舖にて賣らるゝものは甚だ少し。本邦藥中ヘルプ、健胃固腸丸、ピオフェルミン、毒下し、タカジヤスターゼ(一箇小賣値二留比

六安)、通痢丸(同十二安)、アンチヘブリン(同十二安)、太田胃散(同小三安、中七安、大十四安)、肝油ドロップス(同四留比十二安)、等市場に散見せらる。「仁丹」は本邦商以外土人商の手にも賣られ居れり。乍併一部在留本邦人間に少量の需要ある位にて、未だ土人間に廣く知られざるもの多し。本邦仕入れのものにて數量的に需要多きは例の「頭痛膏」にて之は一、二安の小賣をなし居るも、賣行は仲々多き由なり。

要之本邦賣藥の販路擴張策としては熱帶地に於て或期間保存するも品質上に變化を來さざるものたるを要し、尙變化を防ぐ爲罐又は蠟入として口を眞綿にて密閉し包紙や効能書は英語及印度語を以て併記し、消費者の理解に便ならしめ、本邦文字は寧ろ之を避くるを可とす。而して必ず Made in Japan の文字を附するを要す。然かも購買力乏しき土人相手のことなれば成るべく安價を旨とせざるべからず。

當地には本邦人齒科醫は戸室、小林、邊春各醫院(何れも Gol Pitraj Bombay に在り)等あるも、本邦人醫師なく、又本邦人經營の藥種商もなし。されど賣藥は本邦商島本商店 (Shimamoto & Co., Club Back Roat Dyeulla Bombay.) にて賣捌かれ居るも、之を手廣く土人間に及ぼさんとせば當地に於ける著名印度人藥種商中二、三を選び之に專賣せしむるに如かず。

第二十六 除 蟲 菊

印度は雨季たるモンスーン中を除きては一年中降雨を見ず、常に乾燥勝ちなれば樹木雜草等も日本の如く繁茂せず。殊に都會地は下水設備完備し居るを以つて蚊の繁殖は案外少く、尙中流以下の土人に在りては蚊の襲來には一向無頓着且衛生思想に疎く、殺生を忌む國民性を有する處より其驅除は極めて冷淡なるが如く、まして生活程度低き土人が蚊除けの爲除蟲菊を用ふる者は一部分に止まり、隨つて除蟲菊の需要の如きも左迄大ならざるが如し。現在印度輸入の除蟲粉の種類は英國品、支那製品及本邦製品を以て主とし、殊に我輸入品最も多し。

英國品は數年來粉末にて輸入せられ、在留英國人並官署方面に相當の需要ありたる由なるが、最近の輸入量は左程大ならすと云ふ。

支那製品はカルカッタ、蘭貢方面の需要を充し、其種類は渦巻形及線狀のものを主とせり。

本邦品の輸入は十數年前より行はれ、輸入量最も多く全輸入高の三分の二見當に見られ居れり。就中カトール印は以前より一般民衆に廣く知られ、其原料が化學的製品に非ず天然植物性のものなる點に於て好評なり。

除蟲菊の輸入年額については頼るべき統計なき爲知るに由なきも、當市場にあるものは殆ど本邦品なるが故に、以下其市況につき少しく述ぶる處あらん。

現在輸入本邦製除蟲菊の數量は確知し難きも、大凡年三百箱乃至五百箱見當に觀られ、カルカッタ及蘭貢方面への輸入は當地より遙かに多き見込なり。

當地の輸入除蟲菊中最も多きはカトール印にして大阪安住商會の製品に係り、其輸入量は全體一箇年粉末のもの百箱、線狀のもの五十箱、渦巻狀のもの約三十箱位ならんと云へり。尙此外主なるものはピストル印、馬印、虎印、月印、鶏印、孔雀印、N・D・K印等とす。

除蟲菊の包装は「ニオンス」入一罐として一箱三十六打入を普通とし、線狀のもの及渦巻形は概ね紙箱包となり居り、一箱二百四十本入、渦巻形は一打入輸出箱十五打一箱入となり居れり。

現在の市場値段大體左の如し。

カトール印	十二罐	三留比十二安
同	線香十二箱	九留比

同	渦巻同	九留比
ビストル印	粉末十二罐	二留比
同	線香十二箱	五留比
同	渦巻十二箱	五留比八安

右値段は當市本邦品中の最高最低値段を示したるものにして、其他のものは其中間を上下し居れり。支那品は巧妙なる輸入方法を採る爲か、一層安値に販賣せられつゝあり。

本邦製品にして同一製造家の商品なるに拘らず種々のブランドを附せるもの多き處、之は寧ろ考物にて單一のブランドを以て極めて堅實の賣行を保たしむる方却て得策ならずや、カトールの如きは即ち之なり。今一つ附言し置きたきは最近米國製フリット又は之に對抗して、フライトックス等の輸入品増加せることにして、之は將に我除蟲菊に對する一大強敵とも見られ相當注意に値す。

第二十七 薄荷

薄荷の印度輸入に關しては印度政府貿易統計上明かならざるも、薄荷油のみについては同統計書に掲げられ居り、一九二六—二七年中總輸入十三萬七千留比中、其五割九分強即ち八萬一千留比を本邦より輸入し居り、我國は最大仕向國たり、其他英國の二萬八千留比、獨逸の一萬留比を除けば他は極めて少し。以下當地市場に於ける薄荷の市況其他につき略述すべし。

元來本邦製薄荷は獨逸の如き化學的混成品と異り、所謂天然薄荷なる爲品質純良殊に薬用品としては缺くべからざるものとなり居る爲、此點に強味あり。之各國品に優越せる所以なり。乍併天然薄荷は米國よりも少量の輸入あるも數量は本

邦品の一割にも及ばざる程なるが値段は本邦品よりも廉く輸入せられ、其生産力も大なるを以て將來輸入量増加するに至らば、將に我が強敵たるべきを失はざるべし。

現在當地市場に於ける本邦品は主として横濱小林商店の仕向品 K・K 印最も多く、尙 S. Tase 商店の S・T 印鈴木商店の S・C 印其他宮月、長岡各商店の仕向品もあり。

本邦より輸入の薄荷は一封度入、 $\frac{1}{2}$ 封度入、 $\frac{1}{4}$ 封度入等にして、現在の値段は倉庫渡平均一封度に付先物十一留比十三安、現物十六留比乃至十七留比半見當なり。

品質は T 印、K・K 印に優り値段亦十九留比を稱へ、S・C 印之に次ぎ、實需方面にては寧ろ S・C 印の方 S・T 印に優り、然かも安値なりとて需要多きが如し。

是等はテイ、張輸出箱により、内容は鐵葉箱百乃至百十二箇入にして、輸出箱の目方は正味五十封度入なり。尙薄荷油は目方に依り罐入なるも、罐の數は一定せず。建値は倉庫渡現物五十「オンス」入七留比乃至七留比半見當なり。普通支拂條件は一覽後三十日拂手形 D/P 建値 C・I・F・C・I とす。

本邦品の包装は概ね完全なるが、輸入商側より見れば船會社の取扱や船艙内に於ける破損等ある場合、其損害は保險會社にては往々負擔を肯ぜざるものある爲、(損害程度は通常一割五分乃至二割位と云ふ)輸入者の負擔となるを以て、儲薄なりとの不満あるが如し。故に成るべく念入りに包装するの必要あり。

第二十八 樟 腦

樟腦の用途は云ふ迄もなくセルロイドの材料、香料、防腐、防蟲劑其他諸種の工業原料、無煙火藥等頗る廣く、殊に印度に於ては燒薰用として消費さるゝもの多し。即ちヒンヅー教徒の寺院にては毎日檀前に於て之を薰する宗教上の習慣ある爲

其消費量は仲々夥しく、就中マドラス省一帯はヒンヅー教徒多き爲、マドラス港より輸入の樟腦は全印度諸港中最も多し。一九二七—二八年同港よりの輸入額は二百五十九萬三千留比（一、三七四千封度）に達せり。
 元來樟腦の大部分はセルロイド原料に用ひられ、假に世界の生産額を一千萬斤と見れば其七割五分はセルロイド原料となり、香料、防腐、防蟲劑、醫學藥品等に使用するもの一割五分、印度に於て燒薰用に充てらるゝもの一割の割合ならんと稱せらる。

印度輸入樟腦は本邦、獨逸及支那製品を主とし、就中我國製品は純粹なる天然樟腦の結晶體若くは精製粉末及樟腦油なれば、一般に歓迎せられ、醫藥用としては缺くべからざるものとなり居れり。尤も樟腦油は當市場にては需要少く従つて輸入量も僅少なり。

本邦品に對する唯一の競争品は獨逸品なるが、彼は化學的に混成物を以て人工物に製造されしものなれば、本邦天然樟腦の比に非ずと雖、小賣値段の如き本邦品より一割乃至二割方の安値なれば需要は漸次之に吸収さるゝ傾向あり。
 前記ヒンヅー教徒の燒薰用樟腦は純粹のものが歓迎せられ居る處、近來は粉末に製出せる樟腦中に種々の物質を混入し之に充つるに至れりと云ふ。

包装は純成粉末樟腦は一封度入袋を百箇詰一箱とし、箱は鐵葉張に作られ、一箱の値段約百五十六留比なり。（建値 C. I. F. O. I.）

最近支那製粉末樟腦の輸入相當に多く、市場に地歩を築ける處、該品は品質劣等なれど値段安く、極力販路の擴張に力めつゝある模様なるが、目下の處左迄勢力あるには非ず。
 獨逸品の値段は大體粉末一封度二志二片、結晶體二志三片見當なり。（建値 C. I. F. O. I. 六十且「サイト」）

本邦樟腦の市價は大凡左の如し。

一「オンス」入、1.2「オンス」入、1.4「オンス」入のもの一箱	一八五留比
1.8「オンス」入のもの	一九二留比
1.80「オンス」入のもの	一二八留比
1.160「オンス」入のもの	一五四留比
一封度半のもの	一五四留比

既往五年間に於ける樟腦輸入額は左表の如し。

輸入樟腦國別及港別輸入額（單位千留比）

輸入先	一九二三—二四年	一九二四—二五年	一九二五—二六年	一九二六—二七年	一九二七—二八年
英國	二〇六	九六	五三	五五	三〇
獨逸	二七二	一九七	二五四	八三〇	八三二
支那	二二八	一二二	一七八	九二	一
日本	二、七二七	一、八八八	一、六六二	一、八一九	一、七二七
其他	—	—	—	—	—
計	三、四二三	二、三〇三	二、一四七	二、七九七	二、五九三
カルカタ	八〇三	五八三	三二九	三五二	三七五
孟買	一、三六六	七九四	七二一	一、一八四	一、一一六

カ	ラ	チ	五	四	三	九	九
マ	ド	ラ	ス	一、一九七	八七六	一、〇七四	一、二一三
蘭	貢		五二	四六	二〇	三九	一、〇六七

右表に依れば本邦樟腦は全輸入額の六割六分を占め、獨逸も年々輸入を増加し居ると雖、今尙我品に比すれば大なる距離あり。

第二十九 イ ン キ

一、印度に於けるインキ製造状況

印度に於ける各種インキ製造業は夙に開け居るも、資本の關係より先づ家内工業的に出現し、漸次工場組織のものに向ひ來れり。而して現在工場組織のものはベンゴールに三、合併州に一、パンジャブに一、中央州に二、孟買省に三工場あり。是等の工場製品は多く地方の需要を充し居るに過ぎずして、都市に使用のものは多く輸入品なり。

印度製インキの大部分は木炭より製作せらるゝ處、品質劣惡、字の持ち悪しきも製法簡易且安價なる爲、都市以外邊陲の地に於ては相當の需要あり。

印度製インキの種類は頗る多様にして筆寫用インキの色は黒色を主とし、緑及儀式用に用ふる赤インキ等も相當需要あり。又形状より云へば粉狀のもの、錠狀のもの及液狀のもの等あり。

二、外國製インキの輸入状況

外國品としては英國品は色の種類、品質、數量等何れの方面に於ても優越し、之に次ぐものは獨逸品にして獨逸は戦争終熄後致々として販路の開拓に努力し、殊に値段の點に重きを置き極力安價を以て供給し居る結果、新聞印刷用インキ

の如き最近需要頗る増加を來せり。其他米國、和蘭、白耳義及本邦品等を擧げ得るも、英獨兩者とは比較すべくもなく到底競争困難の立場に在り。

輸入インキの種類は之を用途の上より(一)ライティング・インキ(二)コッピィ・インキ(三)スタンプ・インキ(四)印刷用インキ等とし、形状より區別せば(一)液狀のもの(二)練狀のもの(三)粉狀のもの(四)錠狀のもの等とす。又色別にするときは(一)ブルー・ブラック(二)ブルー(三)赤(四)黒(五)緑(六)紫等となす。各種別に從ひ少しく之を説かんに、

(一) ライティング・インキ

之には液狀のもの最も多く、粉狀、錠狀のものもあるも割合に少し。而して最も使用範圍廣きは液狀のものにして、之は全般的のものなるが、錠狀のものは主として學校用又は奥地僻陬地に使用せられ、粉狀のものは主としてグデエラツト・マルワリ種族の間に好まる。粉末インキは隨時必要に應じ溶解して造らるゝの便並貯藏及取扱に便なる點に於て奥地向としては最も便利なるが、液狀のものは是等の便を缺くのみならず、氣温等の關係の影響を受け永らく使用せざるときは變質するの弊あるを以て、消費量の多き都會地向に適す。

(二) 萬年筆用及スタンプ用並コッピィ・インキ

萬年筆インキは印度製のもの殆どなく其他のインキと同様總て輸入品なり。尙萬年筆インキは萬年筆其ものゝ製造家に依て賣捌かるゝもの多く、萬年筆の販賣と共に同名のインキを賣付くるの商略を採り居るが如し。

萬年筆インキにして好評なるはスワン印、ステツフエン、プリエルス、ウオーターマン、クローン、コンマーシヤル等なり。

(三) 印刷用インキ

諸インキ中需要の大部分を占むるものは印刷用インキにして、是等の中には國産品あるも、大方の需要は英國品に傾き、土産の需要は一部都市若くは奥地の印刷業者の間に少量あるに過ぎず。

印刷用インキ其他材料の輸入状況左表の如し。

印刷用インキ其他の材料を含む國別輸入額 (單位千留比)

輸入先	一九二二—二三年	一九二三—二四年	一九二四—二五年	一九二五—二六年	一九二六—二七年	一九二七—二八年
英國	一、五九三	二、〇三五	二、二七三	二、〇五四	二、〇七九	二、四五四
獨逸	三三八	三九三	五五六	五一九	五六二	七八二
和蘭	—	—	二五	一九	三三	三八
白耳義	—	—	—	—	一九	—
佛國	二	—	—	—	—	—
伊太利	—	三	二	四	—	—
支那	—	—	—	—	—	—
日本	—	—	—	—	—	—
米國	五二〇	七二八	四三三	四〇〇	二六六	四六二
其他	二二	二二	一三	四	三	—
計	二、五一九	三、二二〇	三、三〇七	三、〇二二	二、九八八	三、八七九

印刷用インキ及材料港別輸入額 (單位千留比)

輸入港	一九二二—二三年	一九二三—二四年	一九二四—二五年	一九二五—二六年	一九二六—二七年	一九二七—二八年
カルカッタ	九三九	一、一一六	一、四五五	一、三三六	一、一七九	一、二〇七
孟買	八二四	一、二五四	一、二二〇	九三四	九三四	一、六〇二
カラチ	二七〇	三五〇	一三一	二七八	二五九	三〇四
マドラス	二八三	二五三	三二三	二九七	四二七	六二〇
蘭貢	二〇三	二四七	七八	一六七	一八九	一四六

三、各國製インキの取引状況及賣込策

一般需要者側の評判に依れば英國品は印刷用として比類なしと稱せられ居る處、其特長は延びがよく且不純物の混入少く、然かも經濟的に使用し得る點なりと云ふ。其使用範圍は官署、學校其他教育事業方面を始め、一般公共團體商店等頗る廣汎に亘り、殊に記録の抹消を防ぐ爲著名なる英國品を指定せしめ居る狀況なり。

次に獨逸品は大戦後極力販路擴張に腐心し英國品に對抗し來れるが、獨逸品は一般印刷用インキが概ね粉状のもの多きに對し液状のものを以てし、色合は黒色に集中し、値段は故ら安價を旨とし、此三點を狙ひ英國品と競争し居るが如し。然れども未だ機械印刷方面にては餘り歓迎せられず、依然英國品に勢力を占められ居るも、將來新聞雜誌界の發展より一般に廉價品を要望するに至るの傾向あるを以て、相當有望なるべし。

本邦品の當地市場に於ける勢力は極めて薄弱にして、印刷用インキすら年漸く六千留比見當の輸入あるに過ぎず。差當り當市場に喰ひ入らんとせば値段の安きことが第一條件なるが、他面印度内各地にて家内工業的に製出せる安價品あるを以て品質の點に於て他國品に大なる遜色なきに拘らず、一般に歓迎せられざるやうなり。要するにインキはライテイ

ング・インキに在りては色鮮かにして而もつきのよきことを尊び、且不純物なく沈澱等の憂なきことを要し、印刷用インキ亦不純物なく延びのよきことを上乘とす。又粉末及錠状のものは容易に水に溶解するものなること必要なり。故に値段、品質等を充分考慮に容れ且適當なる取引策、宣傳廣告等をなし、殊に何等かの特色を擧ぐるに於ては相當の効果を收め得らるべし。

四、賣 込 策

イ、廣 告 宣 傳

インキの販路擴張は一に廣告宣傳に依らざるべからず。英國品の如きは夙に其製造家の商標により種々の方法を以て専ら此點に力瘡を入れ居る結果、商標名は常に民衆に印象付けられ需要も永久に持續せられ居れり。獨逸及米國品亦此點に着目し來れり。佛蘭西製インキ「アントロアン」は一時英國品を壓倒せるも、開戦以來全く其跡を絶てるは一に廣告宣傳を閉却したるの結果なりと云はれ居れり。

ロ、割 戻 制

取扱者に對し賣高に對する割戻制の手段を以て相手商人の利益を圖ること亦必要なり。現在獨逸及米國は右の方法に依り賣込を爲しつゝあり。

ハ、代 理 店 主 義

所謂專賣特約店設定の方法を探るを良策とす。英、獨、米各國亦然り、前記佛國の「アントロアン」印の失脚は廣告宣傳を怠り且數多の取引先を作り此專賣特約方法に出でざりしことに基因すべしと云ふ。

右三項は當地市場への賣込策として最も偉效あるべきものと思はるゝにつき、我當業者に於ても一段の研究を重ねられ

たる上、適當の方策の下に大量輸出に努められんことを望む。

第三十 鉛 筆

英領印度には鉛筆の製造業殆どなく、需要は全く輸入品に俟つの外なき現狀なり。其主なる仕入先は獨逸、本邦、英本國及米國等にして然かも獨逸品は中半を占め、逐年漸増の趨勢に在り。

當地市場につき取調べたる處によれば、一般に上等品は英、米、獨の各國品に多く、中等品には獨逸品の一部及本邦品の幾分が割込み、下等品としては本邦品最も多く、獨逸品も幾分か加はれり。

色鉛筆は各等級共獨逸製品を以て占められ、英國製上等色鉛筆は歐洲人の店舖にて賣られ居るのみ。

印度人の鉛筆に對する嗜好は、

- (一) 一般に兩切品を好む。
- (二) 軸は丸きもの六角のもの何れも可。
- (三) 塗の色は華麗なるものが寧ろ好まる。
- (四) 蕊の硬軟は用途により一概に云ひ難きも、概して稍々硬きものゝ方歡ばる。
- (五) 軸木が堅過ぎて削る際蕊の折易きものは不可。

抑も獨逸品の需要多きは品質良好且比較的安値なるは勿論、印度人の嗜好に投合せしめ且巧みなる賣廣めをなす爲なり。現在本邦品中安値品は地盤堅固なるも、戰爭當時餘りの安値にて粗製濫造したる爲、今日に至るも尙本邦品即粗製品と考へらるゝを以て、獨逸品と同質のものにても餘程安價ならざる限り賣行不良なり。

次に本邦品に對する一般の批評を聞くに、

- (一) 蕊の堅きものは紙質を傷け柔かなるものは折易し。
- (二) 軸質粗にして乾燥不充分のものあり。
- (三) 軸の色付け粗且滑かならず。
- (四) 使用材料相當のものにても製造急速なるが爲か、蕊が軸の中心に在らざるもの或は兩端に一時程ありて中に空虚のもの往々あり。
- (五) 仕上げの外見拙にして他國品に見劣りす。

右非難は少しく極端に失する嫌あるも、値段を切詰むる結果として勢ひ總てが粗雑に流れ易きは自然の理なるも、當業者としては注意の價値あり。

尙本邦品の仕向に關し氣附し點を述べれば、

- (一) 極度の安値註文に對し品質を下落して之に應ずるは考物なり。
- (二) 時々印度市場を實地に視察し、取扱商とも協議し嗜好其他を具さに研究改善すること。
- (三) 餘り安物のみの仕向は不可。
- (四) 外觀に新味を加へる爲商標、色台、模様等には印度人の平常見聞の範圍のものに因むこと。
- (五) 消費者本位に念入りに製造すること。
- (六) 適當なる宣傳及賣込方法を講ずること。

最後に既往五年間に於ける各國よりの鉛筆の輸入状況を國別に示せば左表の如し。尙港別輸入の多寡はカルカッタ最も多く、孟買之に次ぎ、蘭貢及マドラスは稍少く、カラチは最も少し。

鉛筆國別輸入額 (單位千留比)

輸入先	一九二二—二四年	一九二四—二五年	一九二五—二六年	一九二六—二七年	一九二七—二八年
英國	一六八	二一七	一四二	一三一	一四九
獨逸	四四一	四五二	四一〇	三一六	四三一
伊太利	一四	二	一一	三	三
奧地利	一四八	三七	二四	七	八
致須	四	一	一四	四	一六
日本	一一五	一一六	一六九	一〇七	一六〇
米國	四一	八五	九一	二四	二〇
其他	二	一一	一	五	五
計	九三三	九二二	八六二	五九七	七九二

第三十一 石 鹼

印度は土地柄衣服類の汚損甚だしき爲洗濯用石鹼の需要多く、又浴室用其他化粧用として各種石鹼の需要も相當數に達し、未だ内地石鹼工業の發達を見ざる現在に於ては年々莫大の輸入を仰ぎ居れり。

一九二七—二八年中に於ける輸入額約四十萬六千〇〇〇キログラム、洗濯用三十四萬二千〇〇〇キログラム、化粧用四萬八千〇〇〇キログラム、其他一萬六千〇〇〇キログラム、千五百八十一萬留比(洗濯用千二十萬五千留比、化粧用四百九十八萬三千留比、其他六十二萬二千留比)に上り、其主要輸入先は英國にして、全量の八割四分強に及べり。我國よりの輸入は一九一七年の頃は二十七萬留比に及び居たるも、戦後

歐洲品の輸入盛んとなるに至り、漸次其數を減じ最近に至りては漸く五、六千留比の輸入あるのみなり。各種石鹼中最も需要多きは洗濯用のものにして、全量の八割六分五厘を占め、化粧石鹼は之に次ぐも漸く一割強に過ぎず。其他は三分三厘の割合なり。而して各種石鹼共英國品が輸入額に於て八割以上を占む。

當地市場に於て現在好評なる洗濯用石鹼としてはフラワー印、サン・ライト印等にして、之は廣く上中流階級の間に見當る處、印度製のものに至りては一本(「ポンド」)三安乃至五安と云ふ破格の安値を以て販賣せられ居れり。

化粧石鹼は洗濯用品に比し著しく少く、一九二七—二八年の輸入額約四萬四千〇〇〇、四百六十七萬九千留比を算する處、英國は別とし其他米國、佛國、獨逸等の製品亦少からず。本邦品も少量の輸入あるも、同年の輸入八十五〇、約六千留比を出でず。一般に外國品は品質可良なる爲、肌を損せず且高尚なる香料を有するを以て使ひ心地よく、値段は概して高きも無名品には安價のもの亦少からず。本邦品としてはミツワ印、カテイ印等の輸入あるも、在留邦人間又は一部外人間のみに限られ、需要範圍狭く、ミツワ印は小賣値一箱(三箇入)一留比十四安見當、カテイ印は右より幾分高値なり。

次にバスタップ其他エナメル容器或は食器(殊に脂の附着せる)等の掃除用としては英國製のモンキー印好評なり。之は本邦等にて磨砂に代用せらるゝものにて、日常必需のものなれ需要頗る廣く一箱の(六箇入)小賣値段は二留比見當なり。要之印度市場に於ては英國品及印度製品が需要の大部分を充し居り、他國品の割込は相當困難視さる。殊に我製品の如きは辛じて化粧用のものに少量の需要あるに過ぎず。其販路の獲得は現在に於ては至難なるも、値段と相俟て品質上の特徴を担ひ、且一面適當なる宣傳廣告をなすに於ては相當効果を收め得べしと思はる。既往五年間に於ける石鹼輸入状況左表の如し。

石鹼國別輸入額 (單位千留比)

輸入先	一九二二—二四年	一九二四—二五年	一九二五—二六年	一九二六—二七年	一九二七—二八年
英國	一一、二五七	一一、六〇四	一三、六九八	一三、八三六	一四、八二六
獨逸	九九	七九	一一七	一四六	一三四
佛國	二四	三七	五九	一二五	二五六
致須	六六	八七	九〇	八八	七七
日本	一四	八	七	一〇	六
米國	四〇五	三六二	五八〇	八八四	七五七
其他	六二	七一	六〇	一五二	八一
計	一一、九二七	一三、二四八	一四、六一一	一五、二四一	一六、一三七

第三十二 麥 酒

一九二七—二八年中に於ける印度のビール、麥酒の輸入總額は九百五十三萬五千留比なるが、其輸入は逐年増加の傾向を示し、其積出國は殆ど英國及獨逸にして他は極めて少し。而して英國よりは總輸入額の五割七分強を、又獨逸よりは三割三分を輸入し居る處、我國品の輸入は僅に三分五厘を示すのみなり。試みに既往五年間の各國別輸入額を見れば次表の如し。

ビール、ビール國別輸入額 (單位千留比)

輸入先	一九二二—二四年	一九二四—二五年	一九二五—二六年	一九二六—二七年	一九二七—二八年
英國	四、四六八	四、四九七	四、四〇一	四、六九一	五、四七四
第二章 日本より印度向輸出品				二六一	

第二章 日本より印度向輸出品

品名	一九二二—二三年	一九二三—二四年	一九二四—二五年	一九二五—二六年	一九二六—二七年	一九二七—二八年
丁 抹	一五	一〇	五二	一一	一一	一一
獨 逸	二,二四九	二,七七〇	二,七三一	三,〇一五	三,一一三	三,一一三
和 蘭	二三四	一九一	三七一	三七二	五二八	五二八
白 耳 義	一	一	一七	一五	一五	八
佛 國	一	二	一	三	三	二
伊 太 利	五	八	二	一	一〇	一一
埃 地 利	一	四	一	一	三	三
致 須	一	一	六	一	一	一
支 那	一	一	五	六	一	一
日 本	一九四	二三八	一七四	二六三	三三七	三三七
其 他	一	一	一	一	一	一
計	七,一六八	七,七二一	七,七五八	八,三九四	九,五三五	九,五三五
港別輸入額 (單位千留比)						
輸 入 港	一九二三—二四年	一九二四—二五年	一九二五—二六年	一九二六—二七年	一九二七—二八年	
カ ル カ ッ タ	二,一八三	二,〇五二	一,九八五	二,一六一	二,二五二	
孟 買	一,八七五	一,八三三	一,八二七	二,〇二五	二,二六八	
カ ラ チ	一,二二八	一,七二八	一,八四七	一,六五九	一,九四二	
マ ド ラ ス	三三九	四五一	五一〇	五九八	七一三	
蘭 貢	一,五四三	一,六五七	一,五八九	一,九五一	二,三六〇	

當地方に於て好評ある麥酒のブランドは獨逸の Beck & Co. 製鍵印にして、此「Key Brand」は永年の地盤と巧妙なる賣込方法により廣く一般民衆に知られ洵に堅固不拔の地盤を有し、印度各都市は勿論、奥地市邑、鐵道列車内等到處其影を見ざるはなし。其値段一箱(四打入)三十二、三留比見當の高値なるに拘らず、其風味、淡白輕快克く印度の氣候に適合し、一般各階級に需要廣く、實に驚くべき勢力あり。右の外塔印、娘印、T印等あるも之に比すべくもなし。

次に本邦品は曾て大戰當時より終熄直後即ち一九一八—一九一九年の頃を以て其全盛時代とし、同年中の輸入三百七十萬五千留比の巨額に達せるが、其後歐洲各國よりの輸入旺盛を極むるに至るや俄然打撃を蒙り、現在は僅に全盛時代の餘喘を止め居るの觀あり。其内最も廣く賣込まれ居るは三井物産會社取扱に係るアサヒ・ビアにして、他に之に並ぶものなし。尤も近來ユニオン、サッポロ、サクラ印の輸入弗々あるも未だ不振の域を脱せず。

如斯本邦麥酒の需要激減の原因は勿論英國及獨逸其他歐洲諸國よりの優良輸入品に壓迫せられたる結果なるは云ふ迄もなき處なるが、此外本邦品は氣候の關係により兎角品質を損じ易く、腐敗乃至濁りを生ずる虞あり。之を巧に冷蔵保存をなすも、百日以上を越ゆるときは變化する惧ありと云ふ。斯く品質容易に不良化する爲、價格に於て強みを有するに拘らず動もすれば獨逸等他國優良品に壓倒さるゝ傾向あるは遺憾なり、今參考の爲既往十年間に於ける本邦より印度向の麥酒輸入額を掲ぐれば次の如し。(單位千留比)

一九一六—一七年	一,一四〇
一九一七—一八年	二,一七五
第二章 日本より印度向輸出品	二六三

一九一八—一九一九年	三、七〇五
一九一九—一九二〇年	三、四一〇
一九二〇—一九二一年	七四〇
一九二一—一九二二年	八四三
一九二二—一九二三年	二九二
一九二三—一九二四年	一九四
一九二四—一九二五年	二三八
一九二五—一九二六年	一七四
一九二六—一九二七年	二六三
一九二七—一九二八年	三三七
一九二八—一九二九年	三八四

現在本邦麥酒の當地市場に於ける地位は大體右に述べたる通りなるが、其販路の擴張には先づ釀造方法を熱帶向に改善し、濁り其他品質上の悪化を來す虞なきやう製法を改め、且適當の宣傳廣告を怠らず不斷の努力に依り一般に周知せしむるを要すべし。因に現在市場小賣値段アサヒ・ビア一箱(四打入)二十三留比見當、其他の本邦ビアは右より幾分安値に賣捌かれ居れり。

第三十三 釦

普通釦の材料としては角、象牙、セルロイド、骨、貝類、皮革、金屬等ある處、各其用途に従ひ區別あり。用途は云ふ迄もな

く婦人、子女及男子用上衣、下衣、襦衣、靴、小間物類其他使用範圍極めて廣く、隨つて需要も頗る大なるが、使途により特殊のものは國內製品を使用するも、世界的に共通のものは貿易品として取引せらる。

元來釦の起源は歐洲に在りと云はれ、之が次第に東漸したるものなるが、概して綿産國及皮革業に古き歴史を有する國に在りては、釦よりも寧ろ紐、帶又は帶皮を以て之に代用せられ、釦の使用は割合に少かりしと云はれ居れり。併し輓近に至り亞細亞諸國殊に印度の如きも泰西文明の浸潤により釦の使用益々増加を來すに至れり。

印度に於ける釦工業は今尙幼稚にして工場と稱すべきもの四あるも、大體印度製のものは工費其他の關係上、外國品との競争不可能の現狀なるが故に、多くは外國品を使用し居るも、一面國內工業の發達並國産品獎勵の機運漸次旺盛となるに従ひ、國産釦は精神的に之が獎勵を受くるに至るべき情勢に向ふやも知れずと雖、其前途は尙遠きものあり。

一九二七—二八年中印度輸入各種釦の總高は三百十五萬三千留比に上り、其中我國最も多く八十九萬七千留比即ち二割八分、獨逸七十二萬八千留比即ち二割三分、其他伊太利及致須國よりも相當の輸入あり。試みに既往四年間の各國別印度輸入釦の輸入高を示せば左表の通り。

釦國別輸入額 (單位千留比)

輸 入 先	一九二四—二五年	一九二五—二六年	一九二六—二七年	一九二七—二八年
英 國	二〇四	一八八	一八七	一八二
獨 逸	六三六	五〇六	六四九	七二八
伊 太 利	五四四	六九一	一、二二二	五四四
致 須	—	二五四	二六〇	四七七

日本	九一三	九六八	一、一六二	八九七
米	二七	四七	五八	一九一
其	三七八	一二四	一七八	一三九
計	二、七〇二	二、七七八	三、七〇六	三、一五八

次に港別輸入状況を見るに孟買四割八分、カルカッタ二割四分、カラチ一割三分、其他は比較的少し。マドラス方面に少きは南印度の文化遅れ居るを知るに足るべし。港別輸入額左の如し。

卸港別輸入額 (單位千留比)

輸入港	一九二四—二五年	一九二五—二六年	一九二六—二七年	一九二七—二八年
カルカッタ	八二二	八七七	九六五	七五九
孟買	一、二四一	一、二二〇	一、四八三	一、五〇一
カラチ	三四八	三四四	六四二	四二六
マドラス	七七	一一三	一四〇	一七四
蘭貢	二一四	三一四	四七六	二九八

右各種卸中金屬性卸は一九二八年三月末迄の五箇年間に六十萬留比より百十萬留比即ち殆ど倍額に近き迄に増加し居れるが、之は主として獨逸、致須、英國、米國及伊太利等の増加に因るものにして、我國よりは金屬製卸に關しては漸く一箇年二千留比見當を輸入するに過ぎず。之は原料の關係に於て既に他國よりも不利の地位に在るが爲なり。曾て歐洲大戰當時は本邦ニツケル卸の大量輸入ありたるも、現在は其片影をも認めず。以下各種卸につき述べん。

金屬製卸は獨逸、致須國等の製品は品質比較的良好且價格の低廉なる點に於て當地市場に確實なる地歩を占め、英國品は品質優良なるも價格高過ぎる爲需要餘り大ならず。卸は其用途上生命必ずしも堅牢無比なるを要せず、爲に一般の需要は寧ろ廉價なる獨逸及致須品等に傾きつゝあり。尙金屬卸中眞鍮並錫を使用せるものにも輸入品多く、然かも後者は殆ど致須品なり。又伊太利製金屬卸も意匠に於て卓越せる處より相當の需要あり。

次に貝卸、眞珠貝、骨卸等の需要状況を見るに本邦製の所謂眞珠貝卸(M.O.P)は全く他國品に超越し、其品質可良殊に光澤に富み、色合純白なる點に於て賞用せられ居るに反し、他國品は兎角黄色を帯び仕上げ良好ならざる處より餘り歡迎されず、茲に本邦品の強味あり。併し多數輸入品中には安値品にして本邦品の聲價を傷くるが如き劣悪品もありて、動もすれば是等の不良品により、良品を駆逐せらるゝ事あるは遺憾なり。

本邦製M.O.P卸の取引は在本邦印度商の手を経て買付けらるゝもの相當多く、爲に往々見本と異なるものを仕向けらるゝことある結果、再註文を躊躇せられたる事例あり。彼等不用意或は不注意なる印度商の介在は相當弊害あるものゝ如し。右に述べたる通り本邦品は數量餘り大ならずとするも、仕上げ及値段の點に於て各國品に卓越し居るを以て將來益々有望視せらる。

M.O.P卸の取引は各製造人に依り其形状を異にし、一定の基準なく單に見本により行はるゝ次第なるが、他の金屬其他の卸は大きさ或は番號又は時により區別せらる。即ち貝卸は22、24、28、30、連を又錫卸は13、14、16、18、22、號の品に需要多し。而して普通印度にて使用せらるゝ卸は四つ穴なるが、往々二つ穴、三つ穴のものあり、又賣捌上の便宜より臺紙に縫著けたるもの、珠數狀に繋げるもの或はバラのもの等種々あり。

本邦製M.O.P卸にてはQ印最も好評且需要多く、此外太陽、ダイヤ印等に至りては品質稍劣り居るも、之亦需要相當あり。

次に貝卸(スモーク・カラー物)は其輸入品の品質、形状等或程度迄一定せるを理由とし、日本品よりも獨逸、致須品が歓迎せられ、我製品は優良品の輸入能力あるに拘らず、劣悪品を安値に仕向くる者ある爲好評を買ひ得ざるは遺憾なり。現在の輸入卸に付各國品の情勢を見るに、

日本品は M・O・P 卸

英國品は 襪衣用卸

伊太利品は 洋袴用卸

致須品は 錫製卸

獨逸品は 骨、眞鍮其他金屬製卸

と云ふが如く夫々一定の範圍を存し居るかの如くに見受けらる。

以上當地市場に於ける卸の需給狀況に付略述したる次第なるが、將來カフス卸の需要漸次増加すべく、又華麗なる模造寶石入卸は土人の好奇心を咬り需要少からざる傾向もあれば、此際本邦に於ても品質の統一、劣悪品の積出防止其他新規品の案出等諸點に留意し、永遠且堅實なる商策を樹つること極めて緊切なりと思料せらる。

第三十四 齒 磨 粉

一、印度人と齒磨粉の使用

印度人は古來藥品を始め化粧品其他日常諸用品等に至る迄力めて天然植物性のものを好み、故ら人工を施したる鑛物又は動物其他の生物を材料とするものゝ使用を好まざる風習あり。故に毎朝齒を磨く習慣はあるも、特に磨粉の如きものを用ひず、單に手近かなる木の小枝を使用する者多く、恰も古來本邦人の使用せる柳の楊子を起想せしむるものあり。

此傾向は今尙市中に於ける古風の家にては依然存し、齒磨粉や齒刷子を用ひざる者もありと云ふ。

現在齒磨粉を使用する者は殆ど文化の進める中流以上に限られ、地方に於ては齒磨粉の需要は多少あるも練齒磨は殆ど賣行なく、然かも下層民は粉すら買ひ得ざる状態にて、彼等の多くは齒磨粉の代用として小麦粉に鹽を混じ、又は白亞に薄荷其他の香料を混じたるものを使用し居るやうなり。如斯印度に於ける齒磨粉の需要には自ら制限あり。又之が使用者中にも都市居住者は練齒磨を使用する者あるも、地方民は粉を需要する者多し。

二、齒磨粉の輸入高

齒磨粉の輸入數量等に關しては確たる統計なき爲窺知し難きも、當地方面への輸入大凡一箇年五百箱乃至七百箱即ち二萬乃至三萬封度、價格七十萬留比乃至百萬留比見當ならんと稱せらる。

三、外國品及日本品の市場に於ける需給狀況

孟買市場に於ける主なる齒磨粉及練齒磨は英國及米國品にして、就中 Euthymol tooth Powder & Pastes, Calverts tooth powder, Colgates' tooth powder & pastes, Q三は當地市場に於て何れも歓迎せられ居れり。尙此外獨逸品の Leuko dant tooth Paste. は品質優り相當好評なるも、値段高き爲競争場裡に贏ち難き有様なり。

次に本邦品は現在の處其成分等不同且化學的製法上の不安ありとの評ある際、偶々之が爲口腔内に脹れを生じたる事例ありとて問題を起し、之を本邦品の罪となしたる惡前例もある爲か、未だ製品の眞價廣く知らるゝに至らず。之と同様本邦化粧品の使用についても多少恐怖を感じ居る模様なるが如し。會て當市某印度商は本邦製造家と聯絡し、包裝、商標其他總て或る外國品に模造し賣込に力めたるも、結局問題視せられず竟に市場より影を失へる事實ある處、之は餘り包裝、商標其他が巧妙に出來上り居れるも、齒磨粉自體の成分、效用等に不安あるのみならず、此取引により當該外國製造

家より抗議あるべしとの懸念の爲、之が取扱を快しとする者少かりし爲と云はれ居れり。右は本邦齒磨粉の賣込に關する一例なるが、結局本邦品不振の原因は製品其ものよりも寧ろ廣告方法の拙劣なること及廣告方法につき費用並努力を惜む爲に外ならず。一般に齒磨粉のみならず化粧品、小間物等の販路は主として廣告政策によるものなるを以て、隨つて宣傳廣告策に努力を惜む商品は海外市場の競争場裡に於ては到底贏を制し得ざるものと云ふも過言に非ざるべし。本邦品の内當地市場に著名の物は「ライオン」の粉製及練製のものなり。乍併値段は他國品に比し稍々安きも未だ消費者の信頼を得るに至らず、廣告不足の結果一般に知られざる爲、當然賣行くべきものが左迄賣れ居らざるやうなり。尙右の外神戸方面より種々無名のもの少量宛雜貨商の手により輸入され居るも、一般民衆に知られず、他の代用品として時々求めらるゝ位にて勢力甚だ微々たり。

四、包装

包装は大體木箱なるが、近來ナマコ紙包として少量宛輸入さるゝやうなり。

五、齒磨粉賣込策

賣込方法としては品質夫れ自體純良なるべきは勿論なるが、此外適當の宣傳廣告を必要とすること前述の通りなり。而して其廣告方法としては(1)新聞、雜誌廣告、(2)看板、ポスターを街路又は電車、バス、待合所等に掲ぐることに、(3)見本の無代頒布等なり。米國製コルゲートの如きは全印度到る處に廣告をなし居れり。尙廣告は輸入商の手に依り責任を以てなさしむるは製造家として採らざる處にて、此點に於て英、米、獨の製造家は堂々製造家の名目にて特約店の名を附し、費用の如きも製造家が大部分之を負擔し居るが如し。故に本邦品も將來廣く之を賣込まんとせば中流以上よりも寧ろ中流以下の需要を狙ひ、購買力に乏しき彼等が容易に入手し得るやう極く少量の小箱又はチューブを作り格安に捌

くことに力め、他面レッテル、模様等の裝飾費を可及的節約し之を安く頒布すること、及廣告は寧ろ土語新聞等に時々之を行ひ、廣く民衆に知らしむるに於ては相當効果あるべしと思考せらる。印度の如き廣大の地に大々的に賣廣めんとせば當初相當の犠牲乃至一定の經費を要することは覺悟せざるべからず。斯くして日本品が巧みに廣告せられ需要者の信頼を得るに至らば取引印度商は喜んで之に従ふべしと云ふ者あり。

第三十五 時計

印度に於ける時計及同部分品の輸入は逐年旺盛を極め、其需要は漸次中流階級以下にも及ぶに至れり。茲に既往六年間の輸入狀況をみるに一九二二—二三年と一九二六—二七年とを比較せば五割五分増加し、又一九二七—二八年に至りては九割一分増加を來せり。而して各國よりの輸入額を其主要輸入先たる英、獨、瑞西、米國及本邦の諸國につき一九二七—二八年の輸入額と前年の輸入額との比較を見るに、瑞西を除く外何れも増加を示し、殊に我國は十四萬二千留比より二十二萬八千留比即ち八萬六千留比の増加を來せり。獨逸、日本、米國及英國よりは主として掛時計又は置時計を、瑞西及英國よりは主として懐中時計を輸入し、部分品は英國及我國より輸入せらるゝもの多し。

既往六年間に於ける時計輸入狀況左の如し。

時計及同部分品國別輸入額 (單位千留比)

輸入先	一九二二—二三年	一九二三—二四年	一九二四—二五年	一九二五—二六年	一九二六—二七年	一九二七—二八年
英國	一一三〇	一四四	一九三	二三七	三〇一	三三四
獨逸	一八三	三七九	四六一	五一九	四九二	五〇八
佛國	一五	五五	八五	四三	一一〇	一一九
第二章 日本より印度向輸出品						二七一

輸入先	時計 (Clock)	懐中時計	部分	品	計	
瑞 西	三三五	三三三	五一一	七二三	二七二	
伊太利	一〇	四六	三八	一二九	七七九	
埃地利	一	一	一	四	四三	
日 本	一一五	一〇八	七七	一四三	一八	
葡領東阿	一	一	一	一四二	二二八	
米 國	五二七	五七七	七一九	七二三	一六	
其他	九	九	二二	四	七〇八	
計	一、四二五	一、六五一	二、〇九六	二、五一五	一八	
輸入港	一九二二—二三年	一九二三—二四年	一九二四—二五年	一九二五—二六年	一九二六—二七年	一九二七—二八年
カルカッタ	二〇〇	三三二	四三二	五二三	五九〇	五八〇
孟 買	八四四	九七一	一、一七六	一、二四三	一、三〇六	一、三五八
カラチ	四六	七二	一三三	一七九	一〇八	一七二
マドラス	一四六	一三二	一七八	二八三	二四九	三〇五
蘭 貢	一八九	一四四	一七七	二八七	三三三	三〇七
各國別種別輸入額 (一九二七—二八年) (單位留比)						
時計 (Clock)						
懐中時計						
部分						
品						
計						

英 國 一五八、六七三 一五一、八五八 二二一、一八五 三三三、七三一
 獨 逸 四七九、七七二 二四、五一五 三、七八六 五〇八、〇七三
 瑞 西 六三、四五三 六三五、三一七 九、九三一 七〇八、七〇一
 日 本 一九九、三〇八 五〇 二八、三四三 二二七、七〇一
 米 國 六九八、二四一 三、八八五 五、八五一 七〇七、九五七
 其 他 一三七、二二二 八三、九一四 一四、八二七 一三五、九五八
 計 一、七三六、六五九 八九九、五三九 八五、九二三 二、七二二、二二一

輓近の輸入傾向は寧ろ掛時計より置時計にして殊に小置時計の増加著しきを見る。而して置時計の高さは二吋半乃至三十二吋位迄種々あり。又グランド・ファザイ・クロックは八十吋乃至百五吋のものもあり。尙時計の表硝子は種々あるも需要多きは一時半より十六吋までのものなり。

次に各國品の特徵並市評を略述せん、

イ、獨逸品は頗る優勢にして最近各國よりの輸入競争激甚なるに鑑み、印度商の嗜好其他の要求を容れ其希望に副ふやう製造し、輸出條件等にも充分なる考慮を拂ひ、品質は堅牢を旨とし、値段も比較的廉價なれば中流向として最も需要多し。獨逸品にして著名のマークはキンヅルウーレン、タムタム、ヂー・ビー・オルマ等なり。

ロ、英國品は高級優良品たる點に重きを置き、獨逸品と異り需要者乃至時計商の意思を尊重せず、又値段の如きも各國が競争激甚の爲値下げをなすに拘らず、英國品は値段の競争をなさず、著名のマークはウエスト・エンド・プロートウエスト、デューヂー印等なり。

ハ、米國品は大量製産により買人の嗜好要求を問題とせず、堂々米國品として超然たる點に於て英國品と同様に於て、其品位は英國品に次ぎ獨逸品の上位即ち中の上を保てり。著名なるマークはアンソニア、セント・トーマス、ビー、ロック印等なり。

ニ、伊太利品は最近輸入稍々旺盛の機運を示し來れるが、今尙年九萬五千留比見當に過ぎずと雖、獨逸の採れるが如く印度時計商乃至需要者の嗜好に迎合し、且値段も勉強し居れば將來相當の輸入量を増加するものと見らる。

ホ、瑞西品は懷中時計に於て獨占的地位を有し、他は至つて少く値段の如きは上ぐるとも下ぐるることなし。著名なるマークはゼニス印等なり。

ヘ、佛國製品は最近相當量の輸入を見るに至れるが、懷中時計六萬五千留比、掛置時計四萬六千留比見當の輸入あり。其主なるマークはジョンパーレル印なり。

ト、本邦製品は懷中時計殆どなく、曾て一九二五—二六年の頃一箇八留比位の安値品百五十箇許り委託品として當地へ積送されたることある由なるも、當地に於ける他國品に比し高値なりし爲か、好結果を得ざりしと云ふ。又置時計は未だ獨・米品と競争不可能の狀態にして、獨逸品は種々の意匠を凝らし一般の好奇心を唆り、品質並品位に遺憾の點多き本邦品の及ばざる處なり。尤も本邦品にして或る特定の標準を作り値段を按配して賣出せば眼醒時計等には相當の將來あるが如くにも見らるゝ處、差當りの市評は餘り香しからず。

置時計は最近一箇二留比見當の安物が本邦より相當量仕向けられ賣行は相當ある模様なるも、概して本邦品は粗惡且耐久力に乏しとの一般土人の先入主に禍せられ賣難しとのことなり。本邦製時計の中比較的多きは掛時計なり。是等は主として中産階級以下の需要を充し居り、隨つて安値なるを要し又奥地方面への需要を相當呼び居るやうなれば、將來相

當有望視せられ居れり。

本邦製品中當市場に有名なるは S 印、M 印、アイチ印、D 印、H・A・R 印等なるが、殊に S 印は本邦品の標準品たり。一般に本邦品は主材料たる鐵鋼を外國よりの輸入品に俟つの不利あるのみならず、兎角く品質纖弱にて機械に故障を生じ易しとの不評あり。印度の本邦掛時計の需要者は前述の通り中産以下なるが故に、廉價にして且堅牢ならざるべからず。然るに時計商は故障等の場合は無料修繕を餘儀なくせられ、時計の普及未だ少く且修繕工の如きも多からざる爲、經費を要する事多く、茲に時計商の苦衷ありと云ふ。又需要者側より見るときは體裁よりも實用向を望む傾向あれば、徒に華美のものを欲する時代は過ぎ、耐久力ある實用主義に出づるの傾向あり。然るに現在の印度向本邦品は兎角華麗にのみ走り、淺薄に失し滋味を缺き獨逸其他の製品の如き優雅なる處なし。故に徒に金ピカ或は下層民向のデザインを避けて内容の健全を望み居るが如し。其他硝子嵌込み具合悪しく硝子、金具の質粗且部分品の不統一なるの怨あり。又色合、形狀等實に品位に乏しく、一見安物視せらるゝの遺憾ありと當業者は評せり。

次に時計の値段は競争激しき爲、廉價のものも相當あり。米國品は C I F C I 一箇約一志見當の破格品の賣物もありて奥地方面の購買慾を唆り居れり。其他伊太利品二留比半位より十二留比位迄、佛國品四留比四安乃至九留比十四安位迄、米國品四留比十安乃至六留比八安位迄、英國品十一留比八安乃至二十一留比見當迄あり。右値段は箇々のものに非ず概約の平均値段なり。概括的の傾向としては瑞西品昂騰し、他は英國品を除き何れも低下の傾向あり、隨つて品質の下落を必然的に伴ひ居るは己むを得ざるなり。

各國品を値段の上より概括的に比較せば、小置時計に在りては米及獨品安く、掛時計は米國よりも獨逸品低廉なり。大體に於て掛時計の標準値段は獨逸品二十留比乃至五十留比見當、米國品は四十留比以上、又日本品は十一留比乃至十四留

比見當のもの賣行良しと云ふ。

尙次に包装について述べれば、本邦時計の包装は大體不評を聞かざるも、米國品の包装はナマコ紙を巧みに利用し包装重量を軽減且取扱も頗る便利なるが如し。本邦品も内部の詰合せ等について多少改良の餘地あり。一箱内に餘りに多量詰むるは破壊の虞あり。積出書類の作成については日本輸出商のインヴォイスは英文にて詳細記載するを要す。單に見本何番通りとのみ記載ある場合は必要以上に現荷の開函を餘儀なくせられ、其荷扱上破損等を生じ安き旨を以て當業者より當館へ再三申出たる向あり。又送狀の記載は元來時計のみに限らず、記載事項と内容とが完全に合致せざるべからざるは勿論なり。然るに製造家と輸出商との聯絡を缺ける爲か往々箱マークとインヴォイス記載の事項と多少の相違せるものありて通關上意外の手數を見る事例少からず。

印度へ六月以降九月迄の雨季中に到着するものには特に塗油を充分施すを要す。之海濱倉庫に貯藏中錆を生じたる爲、多大の損害を被れる事例あれば此點特に注意を要す。

又 Made in Japan の記載漏のもの往々あり。從來斯かる場合は護謄版を押捺して便宜陸揚を完了せるも、近來は必ずエナメル其他にて明示するに非ざれば陸揚拒絶又は罰則に觸ることとなり、保税倉庫等にて之を附する場合は一箇十錢の費用を要す。是等の手落數回に及べば税關より相當多額の罰金を徴せらる。

以上を綜合考査するに、現在印度にては時計の製造行はれず、總て輸入品に俟つの實狀にして、曾て印度に店舗ある某時計商が同部分品を輸入組立に努力せるも成功を見ざりし模様にて、矢張り既製品の輸入が有望視される有様なれば、將來時計の輸入は益々有望なり。既に一箇年の輸入數掛置時計三十萬、懷中時計二十萬箇と見て之を印度の人口三億二千萬に對する割合を観るに、前者は百人につき一箇、後者は百六十五人に對し一箇の割合となれり。素より印度住民には農民多き

爲、時計の必要を感じるものは極めて小部分なるが、諸工業を始め鐵道事業等の發達に連れ、其需要は益々増加の兆あれは、本邦としても柱時計及置時計については充分割込の餘地あるにつき品質、値段及輸入方法に適當なる改善を加へなば相當有望なる輸出品たり得べきを失はず。

第三十六 懷中時計の表硝子

近來日本製懷中時計表硝子の需要増加の傾向あり。固より本邦品はバザル物として安物扱にされ居る傾向はあれど、歐洲品は値段高き爲と本邦品に改善を加へられ來れることにより、最近一流時計店にても本邦品を利用するに至れり。乍併從來歐洲品のみを取扱ひ來れる當地一流時計商は日本品については不馴れ、且往々サイズがエツデのものあれど、原價の安き點にて漸く需要あるに至れるは事實なり。然かも最近の品は光澤あり且透明なる點に非常なる改良を見居れば、左迄歐洲品に遜色を感じざるも、サイズの點に於ては尙遺憾の點ありと云ふ。

元來本邦品のサイズに付ては、日本の製造家が各自適宜に各相違せるサイズのものを作り、之に自家のサイズ票を附し居る處、時計其物の表サイズは世界的に一定せられ居れば、サイズ票は成るべく一定不變のものを一般製造家が貼付する様にならざる限り、折角品質の改良を完了したりとするも商品としての價値は著しく減殺さるゝ次第なれば、此點に製造家の留意を促したきものなり。其例として A.M.A. 印のエキストラ・シツクフラット・クリスタル・グラスを執れば、懷中時計のサイズは同型の物數多き爲大なる不便少しものも、腕時計のサイズは然らず。元來腕時計の如き小型の物は表硝子のサイズが極く僅少の相違にても嵌込がうまくゆかず、又最も大なる缺點は硝子の縁がシャープならざることなり。懷中時計の如き形の比較的大なるものは硝子の縁が左程シャープならずとも金屬との喰合せが比較的容易なるも、腕時計に在りては然らず。

要之本邦品は叙上の通りサイズの改善が急務にて之と相俟つて品質の改良が行はるゝに於ては相當有望視せられ、一流時計店に於ても漸次注意を向くるに至るべし。要は一時的の利に走らず是非共永遠の商策を講すべきなり。尤も近年東京市小西光澤堂より供給するものは好評を博し居れり。

第三十七 樂器

一九二六―二七年に於ける輸入樂器の總額は二百六十六萬三千留比に上り、其主なる輸入先は英國及獨逸とす。現に英國よりは全輸入額の四割六分を、又獨逸よりは三割五分を輸入す。其他佛國、瑞西及米國品の輸入あるも、何れも四分見當に過ぎず。而して我國よりの輸入額は漸く二萬千留比位なり。

印度へ輸入せらるゝ樂器の主なるものはピアノ及オルガン等なるが、既往四年間の輸入額は左表の如し。

樂器類國別輸入額 (單位千留比)

種別	年別				種別	年別			
	一九二六	一九二七	一九二八	一九二九		一九二六	一九二七	一九二八	一九二九
輸入先	一九四一五	一九五一六	一九六一七	一九七一八	一九四一五	一九五一六	一九六一七	一九七一八	
英國	一一二	一一三	一〇〇	九一	六六	六三	七一		
獨逸	四	二	二	八一	九六	二九	一三六		
佛國	一一	一〇	九	五	一	三	九		
白耳義	一	一	一	一	二	四	二		
伊太利	四	一	五	一	三	一	二		

種別	一九二六	一九二七	一九二八	一九二九
瑞西	一	一	一	一
奧地利	一	一	一	一
日本	三	一	一	一
支那	一	一	一	一
米國	九	六	一〇	二九
其他	一	二	二	一七
計	四四	四四	三四	三九

以下各樂器の種別に從ひ少しく説く所あらん。

一、オルガン及ハーモニウム

印度特有の樂器とも云はれ居るハーモニウムは音律克く同人種間の嗜好に適ひ、其構造輕便且如何なる手狭の住宅にも不便を感じず、總てが彼等の嗜好に投合し極めて古くより廣く普及され居る樂器なり。現在の輸入品の中佛國製エム・カスリエール印は耐久力及音調の優雅なる點に於て他國品に傑出し、一般に世界的製品として迎えられ居れり。輸入年額凡そ二三十萬留比を數え、獨逸、瑞西及英國等各國よりの輸入品亦少からず。

二、ピアノ

印度に於けるピアノの需要は主として在留英國人其他の歐米人間に限られしが、最近上流印度人間にも愛用せらるゝに至れり。輸入ピアノの好評なるは英國のジョン・ブロード・ウッド・コンパニー製及獨逸のジェーター・ウキンクラマン・コンパニーの製品にして兩者最も賣行よく、之に次ぎ米國のラディアン・ピアノ・マニユファクチュア製のものとなす。

三、玩具樂器

ミュージカル・トイ、ピアノ、ワグネル、手風琴、ローラー・ミュージカル・ボックス、トイ・ヴァイオリン等種々珍奇なるもの多様販賣せられ居る處、一般に音樂を愛好する印度人間には是等玩具樂器の需要は相當多きが如し。其主なる輸入先は獨逸を以て冠とし、絶えず新奇意匠を凝らせるもの輸入され、一般の目を惹き賣行良好なるが如し。此種のものには本邦製も相當輸入せられ居れども概して不評なりと云ふ。

次に獨逸品の賣込方法を觀るに、主として委託販賣の方法を採り、總て本國輸出商或は製造家の勘定にて賣捌かれ、現金を送り、現實の賣捌口錢を收得し、而して一般には現金賣よりも寧ろ月賦販賣の方多き由。又玩具樂器の如きは追次新規のものを考案變形し、創意を凝らし、常に目新しき商品の仕向けに努め、以て需要者の飽きを防ぎ賣行停止或は相場の下落の憂をなからしめんことに努力せるやうに見ゆ。而して販賣は總て特約店を通じ、他の競争者を全然許さざる方策をとり居るを以て口錢少しと雖、商内の堅實なる利益あり。次に本邦製ハーモニウムに付て見るに餘りに纖弱に過ぎ音律に無頓著なりとの非難あり。故に樂器の生命たる音律の整備に留意するは勿論音調の優雅、耐久力の點をも考慮に容れ、極力安値を旨とし Made in Japan の文字は必ず之を入れること、尙樂器部分品たる陶器製鈕の如きは本邦より相當數量の輸入あるも、品質亂雜不統一にて他國品より安値なるも使用に堪へ難く、所謂ローズものを含むを以て事實上高値につくと惡評あるは本邦品の爲に惜むべし。ピアノに付ても今尙同様の譏りあり、玩具樂器亦仕上げ粗雜の嫌ありと。

諸樂器の値段は頗る區々にてハーモニウムは最低四五十留比より最高五千留比迄種々あり。佛國製カスリエール印は普通九十留比乃至百留比なるが、最高七千留比見當のものもありと云ふ。ピアノは英國製一臺千五百留比、米國品千二百留

比、獨逸品八百留比以上種々あり。印度にては大體千五百留比見當の品物最も賣行よしと云ふ。尙玩具樂器は最低三留比より四十五留比見當(卸値)まで、ワグネル八留比以上、手風琴一留比半以上、ローラー・ミュージカル・ボックスは最低二十五留比より上等品には千留比のものもありと云ふ、是等樂器類の輸入關稅は何れも從價三割なり。

第三十八 服裝具

印度人特異の服裝としては男用のドーティー、黒若くは赤の帽子及ターバン、履物としては國産スリッパ等にて、婦人用としてはサリー、其他の裝飾品としては腕環、頸飾、耳環、鼻環、脚に纏へる脚環等にて其範圍頗る廣し。以下是等の需給狀況につき略述すべし。

一、肌着

肌着として最も廣く用ひらるゝは云ふ迄もなく莫大小襯衣にして、一箇年の輸入額は一千萬乃至一千百萬留比を超え居れり。莫大小に關しては「第四十三」に詳述すべし。

二、上衣

上衣は普通白地厚手綿布を用ひ、其形狀洋服の上衣に近く、折襟のもの多く、色物又は縞物を用ひず。尤も南部地方其他にては必ずしも然らず、輸入綿布又は國産綿布を適宜仕立て着用す。印度には四季の區別なきも、北部印度或は寒冷季に在りては厚手のもの若くは混毛縞物地、無地物を用ひ、普通約三碼を要す。

三、洋袴

一般常用着としては前記ドウテイーと稱する布を素肌に掲げ洋袴の代用とす。其サイズは長さ四十四、五吋、巾八、九碼

の物なり。主として男用の物にして一箇年の輸入高一億五、六千萬留比の巨額に達し、大部分はマンチエスター製品なり。

四、婦人用サリー

婦人衣服としては上下長幼を問はず悉くサリーと稱する布を頭上より身體の全面に捲つけ之を着用す。印度教徒のサリーは比較的短く、回教徒及パーシー族の用ゆるものは長し。其サイズ大凡六、七碼を要すとせば印度に於ける婦人の總人口一億五千五百萬が年二着宛之を用ふと假定して實に十七億七千萬碼の布を要することとなるべし。地質は各階級により一様ならざるも、パーシー族婦人は概ね絹布小柄花模様、色合も地と同色のものを用ひ又印度教徒及回教徒婦女は普通綿布、同フランオル、天鷲絨、絹布、交織絹布、人絹等身分に應じ着用す。概して印度教徒は色物、無地物、細き線のもの或は白地に模様のある縁取もの等を好み、回教徒には大柄花模様等のもの好評なるが如し。値段は普通綿布サリー二留比八安位より、又人絹物サリー八、九留比位より、カデー普通物サリー四留比位より、ベナレスものサリー十二留比位より、スラット物サリー七留比位よりありて値段一様ならず。パーシー族の用ふる高級品に至りては數百留比に上る高級品珍しからずと云ふ。

五、一般衣服

在留外國人用として或は一部印度人中に西洋風の服装を好む者ある爲、一般衣類の輸入亦少からず。輸入衣服中には是等の外、金銀スレッド、ラメッタ、古着類、防水衣等あり。之に帽子を含めたる一九二七―二八年の輸入額は千六百四十四萬五千留比を算し、一九二八―二九年に至りては千八百二十九萬九千留比に増加を來し居れり。其主要輸入先は英國の三割八分を始めとし、佛國及獨逸よりの輸入亦多し。

金銀スレッド(線)は一九二七―二八年中の輸入總額二百八十五萬四千留比の中、佛國二百十五萬八千留比、獨逸六十三

萬四千留比、ラメッタは九十七萬四千留比、古衣は百三十三萬九千留比中英國七十八萬九千留比、米國五十三萬九千留

比、防水衣は三十五萬留比中、英國三十四萬五千留比を占め殆ど英國品の獨占状態なり。(總説編、第一章、第二節參照)

六、帽子

印度人男子に在りては屋の内外を問はず帽子を被る習慣あり。形狀は日本の烏帽子の如く椽なしの黒を普通とす。(赤色のものは回教徒に多し)地質は天鷲絨若くは羅紗様のもの等にして需要頗る廣し。之は極めて安價に國內に於て製造せらるゝを以て輸入品は少し。價格最低二、三留比より十留比見當のものを普通とす。

土人用帽子の種類は Velvet Cap, Marina Cap, Anva Cap. 等なり。右の外 Hungarian Cap, Fez Cap. 等は伊太利品の輸入相當あるが如し。

尙トツピーは外出用として求めらるゝも未だ其量大ならず、又氣候の關係上麥藁帽子を用ふる者なく、中折帽子の如きも在留外國人又はゴアニースの一部若くは西洋風を好む一部印度人間に往々用ふる者あるに過ぎず。従つて需要大ならず次に帽子の輸入状況を見るに一九二七―二八年中の總輸入三百二萬三千留比にて一九二八―二九年は三百十八萬千留比に増加せり。尙一九二七―二八年中帽子の國別輸入状況を見るに、英國の百三十萬七千留比、伊太利の百萬二千留比の外、本邦より二十四萬五千留比を輸入す。其割合は英國四割三分、伊太利三割三分、本邦八分見當なり。各國別輸入額は左の如し。

帽子國別輸入額 (單位千留比)

輸入先	一九二三―二四年	一九二四―二五年	一九二五―二六年	一九二六―二七年	一九二七―二八年
英	九九八	一、二二七	一、三八六	一、三三六	一、三〇七

第二章 日本より印度向輸出品

獨逸	一七五	一〇四	二〇四	一一八	一五三
伊太利	六八九	一、二二四	九五六	一、三五九	一、〇〇二
塊地利	七二	一一一	八〇	二九	一三〇
致須	一二	一三九	一〇二	七八	一一七
日本	一八七	一六三	二二五	二九四	二四五
其他	三五	三五	七六	四八	六九
計	二、一六八	三、〇〇三	三、〇一九	三、二七二	三、〇二三
七、ターバン					

帽子を用ひざるときはターバンと稱する印度特異の大巾五、六十呎にも及ぶ布を頭上に捲つけて之に代用す。殊に印度人巡査、馭者、自動車運轉手、商人其他勞働者間に多し。色合は白を普通とするも茶、褐色、鼠、赤、其他縞物等種々あるが、稀には金色燦爛たる高價品を戴くものもあり。是等ターバンの材料は主としてマンチェスター或は我國よりの輸入品若くは土産品なり。

八、靴 下

下級勞働者階級の印度人の多くは跣足の儘百度以上の炎暑の中を平然歩行し居り、靴下は素より靴其他履物を用ひず。又靴を履くも素足の儘にして靴下を用ひざる者あり。乍併下級婦女又は男子が用ひざるは從來の風習にして、彼等の間に需要少きは當然なるも、一般中流階級には莫大小靴下の需要極めて多し。是等は主として英本國及香港並本邦等よりの輸入品なり。一九二八—二九年中に於ける輸入總額二百一萬八千留比之を前年の二百四十一萬九千留比に比し三十九

萬千留比の減額を來せり。其一九二七—二八年の輸入割合は本邦三割四分七厘、英國三割八分八厘（香港のみ三割四分七厘）米國一割〇分なり。尙絹製靴下に關しては「第三十九」に於て説明すべし。

九、靴 其他 履物

印度は皮革の原産地なれば靴の製造は容易に行はれ、十留比内外の安値を以て供給せられつゝあるを以て、獨、致須、米國等よりの輸入品は高級品のみに限られ大量ならず。又國産革製のスリツパを使用する者最も多し。蓋し之は素足の儘足に引掛くるものにて頗る便利且安價に供給せられ、然かも印度人の風俗に適ふものなればなり。

十、裝飾品及附屬品

以上述べたる諸品の外ネクタイ、カラー、カフス釦等あるも、是等は主として洋服着用者に限られ居る爲自ら需要にも制限あり。ネクタイは柄合千差萬別にて各人の嗜好により一様ならざるも、概して派出好みの傾向あり。又カラーは何れも氣候の關係上ソフトのダブルを用ふる者多きは洗濯容易なると感觸良るしきが爲なり。カフス釦にも種々ありて貴金屬又は寶石入の高價品珍しからざるも、多くは安價なる模造品にして、意匠形狀にも多様あり。其他婦人用としては前記指環、腕環、鼻環、耳環、脚環等何れも金銀或は眞珠、翡翠、碼腦、水晶、ルビー、象牙等の高價品を値段構はず纏ふものあれど貧民階級にては多く硝子、セルロイド、貝類、骨及鍍金等の模造品を使用する者多し。

元來印度人は洵に貧富の階級甚だしく、有産階級の印度人殊に婦女は凡ゆる美衣美食に馴れ、衣服に在りては高級絹物、金銀縁取の美衣を又高價なる頸飾、腕環、指環等の裝飾品に至る迄値段に無頓着に之を求めて着用する風あるを以て是等に對する眼識も相當高し。彼の孟買に於て十萬を數ふるパーシー族が男女共結婚難を感じ居るは一に種族結婚の風習あるが爲の外、是等婦女の衣食其他に莫大の費用を要するが爲なり。尙中産階級以下に在りても華美なる裝飾をなし、凡

ゆる贅澤を好む風あり。殊に結婚等に際しては是等に身分不相應の金を費し三、四月の結婚季に入らば銀塊の需要頗る加はり、夫等貴金屬の遠く奥地へ吸收さるゝもの夥しき有様なり。故に印度人の財力裕福となり購買力の増進と共に絹物其他裝飾品の需要は益々増加の兆あり。

第三十九 洋傘及同材料

洋傘は各階級を問はず熱帯地たる印度に在りては之により太陽の直射を防ぎ、又雨季中は雨を凌ぐ必需品として廣く用ひらる。尤も都市に住む印度人の多くは之を使用するも、地方住民には資力に乏しき細民多きを以て、奥地に於ける需要は自ら一定の限度あり、彼等は Ohhatias. 或は Tadpatris. 等を代用する者多き由なり。

曾て歐洲大戰直後即ち一九一八年頃迄は専ら英國よりの既製品を輸入して需要を充し居たるも、其後漸次部分品を輸入し之を印度にて組立て安値に供給するの途開けて以來、現在にては既製品の輸入額は部分品の輸入額の漸く一割五分五厘を存するのみに至れり。

一九二八―二九年中洋傘製品(日傘其他を含む)の輸入總額は二十六萬五千二百本、七十六萬五千二百二十八留比を示し、同材料の總輸入額は四百九十五萬四千留比なるが故に、兩者の合計五百七十一萬九千留比の巨額に達せり。而して材料の總輸入額中二百六十七萬六千留比即ち五割四分は獨逸品、百九萬八千留比即ち二割二分強を本邦より輸入し居れり。試みに一九二七―二八年迄既往五年間に於ける輸入状況(洋傘、日傘既製品及材料等一切)を見るに、獨逸は五年間に約三倍に増加したるに反し、英國及我國は何れも減退を來せり。即ち詳細左表の如し。

洋傘及同材料國別輸入額 (單位千留比)

輸入先 一九二二―二四年 一九二四―二五年 一九二五―二六年 一九二六―二七年 一九二七―二八年

英國	二、三九九	一、九二二	一、八八四	一、五二五	一、六七九
獨逸	九三九	一、二〇七	一、七六五	二、一四五	二、七三八
和蘭	五七	四四	一一	四	一八
白耳義	一六	一〇	一〇	三七	七三
佛國	二五	五九	七〇	五八	五五
伊太利	七三	六七	二六	一八	二二
日本	一、九一〇	一、四〇〇	一、三二四	一、四三八	一、六二七
其他	二三〇	一一八	二〇	三二	二六
計	五、五九九	四、八二七	五、一一〇	五、二五七	六、二三八

港別輸入額 (單位千留比)

輸入港	一九二二―二四年	一九二四―二五年	一九二五―二六年	一九二六―二七年	一九二七―二八年
カルカッタ	三、二八二	二、四八二	二、七三一	二、七六八	三、三三六
孟買	一、四一七	一、二二二	一、〇二三	一、二〇一	一、二四二
カラチ	六	八	八	七	七
マドラス	一〇三	一五八	二二八	二一三	三三〇
蘭貢	七九一	九六七	一、二二〇	一、〇六八	一、三二三

即ち右表によれば約五割四分はカルカッタ港への輸入にして、蘭貢二割一分、孟買約二割なり、カラチ港の如き殆ど皆

無に近きはシンド地方は雨量極めて少く、モンスーン季中すら降雨を見るは稀なる爲、従つて洋傘の需要少き譯なり。

洋傘材料には土産のものもある處元來印度人は此種の能力不器用且企業能力にも乏しき爲、外國品との競争に堪え難し。部分品の組立は都市或は地方に於て盛んに行はれ居る處、洋傘の取引漸次旺盛を加ふるに隨ひ、各國の輸入競争峻烈を加へ來り、形狀品質等に種々改善が試みられ、他方巧妙なる宣傳に力め居る狀況なり。洋傘は各階級に廣く用ひらるゝものなれば、勢ひ高級品及下級品の區別を生ず。前者は英國よりの既製品或は精選されたる材料により新品を印度にて製作したるものに多く、後者は古きステッキ、フレーム、金具等に色附、塗換又は艶出をなし新品の如く模造して頒布せらる。本邦品は洋傘材料たるステッキ、フレーム、洋傘用布は人絹又は純絹製のものをして仕向け相當市場の勢力を持し、頗る冒險的且競争的態度を採り、相當需要を呼び居れば、品質の堅牢を旨とし取引上の缺陷を改善するに於ては、將來益々有望ならん。

抑も洋傘の使用は三月より十一月に至る間、殊にモンスーン季(六月より九月まで)中に於て最も盛んなり。十二月より二月に至るコール・シーズン中は需要少きも此間に材料を仕入れ次期の需要を見越して製造盛んなるを常とす。故に材料の仕入は此季前に最も多く、引續きモンスーン前まで行はると。

從來洋傘の取引は雜貨商の手により行はれ居たる趣なるが、逐年其需要の増大に伴ひ之を專業とする問屋も出来るに至れるなり。代金の決済は通常 D/P 三十日又は六十日拂なる由。

次に各種材料に就き考察するに、

イ、ステッキ(棒)及ハンドル(把手)

種類は竹、櫻其他各種の木を用ふ。此ステッキは我國よりの輸入頗る多く、是等は印度に於ける氣候の影響を受け易く

餘りに乾燥せば曲り、或は不揃となり使用に適せざるに至る。殊に本邦品は此處多く、爲に取扱印度商は痛手を負ふと云へば此點は殊に本邦當業者として注意に値すべし。

ハンドルは木製の外竹、骨、セルロイド、ニッケル其他の金屬製のもの等種々ある處、ニッケル・ステッキ及ハンドルは獨逸品の輸入最も多く、セルロイド製にして形狀見事なるものには本邦よりの輸入品多し。

ロ、フレーム或リツグ(骨組)

洋傘の重要部分は此骨組にして、是等は主として獨逸及本邦品の輸入多し。就中獨逸品は品質堅牢且比較的値段安き點にて他國品を凌駕し、需要亦廣し。概して獨、英其他歐洲品は弱やかにして且堅く弾力性に富み溝狀のものなり。本邦品は弱やか且廉價なる點に強味あるも、耐久力に乏しく破損し易き怨あり。乍併比弱點は夙に本邦に於ても認むる處にて、近來は稍優良品が仕向けらるゝに至れりと雖、歐洲品に比すれば遜色ありと云へば此上共改善を要す。

ハ、洋傘用布

主として英國及伊太利品にして我國よりも仕向けらる。然るに當地にては伊太利品が最も耐久力に富み、品質値段共適當の地歩を保ち居る處より勢力あり。又マンチエスター製洋傘布は品質に於て伊太利品を凌駕し好評なるも、値段稍高く、本邦品に至つては安價なるも仕上げ不充分且持久力弱き爲、其需要活潑ならざるが如し。當市場に於て好評なるは伊太利品の 18 及 22 番本邦品の S/S 印等なり。

ニ、其他の材料

右の外鏡、ランナー、キャップ、スプリング其他部分的金具も亦獨逸及本邦よりの輸入品多きも、概して獨逸品は精鍊せる鐵を用ひ品質優るも、本邦品は眞鍮金具を以てするもの多き爲、纖弱なるを免れず。隨つて獨逸品の壓倒を受け需要大

上述の通り洋傘は既製品よりも外國製部分品を安値に仕入れ、印度の安き勞役と相俟て土地需要者の嗜好乃至要求の儘に製作供給さるゝ傾向あれば、洋傘材料輸入の將來は益々有望にて、此際本邦品の品質に充分改善を加へ當地に於ける從來の地盤を獨逸品等に蠶食せられざらんことを期せざるべからず。

第四十 婦人用絹靴下

婦人用純絹靴下輸入の年額は統計上明かならざるも、其主なる輸入先は米國、佛國、英國、獨逸及我國等なり。以下孟買市場に於ける婦人用絹靴下の需給狀況、各國品との比較其他賣込上に關する注意事項等につき記述せん。

一、取引狀況

當地に於ける絹靴下の取引は輸入者即ち小賣商の形式を採り、代理店として賣捌配給に力むる者は少し。其多くは絹物雜貨商として其支店或は出張所を日本又は支那に設け、或は年來密接なる取引關係を有する代理店を本國に有し、商標の如きも米國を除きては大體買人の私標による者多く、又賣捌人の名前を印刷し特殊品として賣捌く向もあり。而して絹靴下に於ける輸入價格と小賣値段の間には約倍額の利益ありと云へば、差當り賣捌量少しとするも今後販賣政策等改善の曉には取扱價格の増加難からざるべし。

二、本邦品の市評並一般市況

輸入絹靴下中最も好評且賣行よきは米國品の *Mars* 印にして、取扱者の利潤も多き由。此邊の品物が當市場の標準品となり居れり。佛國品は色合の點に於て他國品を凌駕し、値段も頗る高價なり。獨、伊、英國品の如き皆米國品に押され氣味なり。

次に本邦品に對する一般の評判を聞くに、編目の不同、色の剥げ易きこと、伸縮力充分ならざること、他國品に比し手觸り粗なる感じを懐かしむること等にして、兎角安物を仕入れ、或は二等品の買付が行はるゝ結果買人に於て疵物を摺むこと往々あり。動もすれば本邦品の聲價を誤解され居る傾あるは遺憾なり。乍併鐘紡製絹靴下の如きは當地市場に於ける本邦標準品として耻ぢざるべく、又其品質他國品に比し遜色なき模様なり。元來絹製靴下は特に製品の品質統一並價格の安定を要件とし又常に廣告を必要とするものなるが、本邦品は兎角此三點に注意を缺く嫌ありと云ふ。

尙最近の傾向としては石突は四吋以上ならざるを望み且シルケット綿絲を使用する外、人絹外裏綿のもの相當賣口あり。蓋し最近婦人衣服の短きもの流行する爲、純絹と綿との繼合せが外觀上餘り判然たらざる様石突に人絹を利用するもの寧ろ歡迎せらるゝ傾向あればなり。而して底は從來スクエーヤー・ヒールのもの多かりしも、最近はポインテッド・ヒールのもの需要多く、又踵を二重或は三重として破損を防げるもの最も流行し來れる有様なり。流行色合としては白、灰、黒、ムーン・ライト其他多樣あるも、概して肉色のものがポピュラーなるが如し。輒近人絹物が頻りに需要を煽り柄、色合等も大いに進化したる爲、安値純絹物は之に押さるゝの觀ありと雖、純高級品については消費者の眼識高く、自ら嗜好者を異にし居れば本邦品が前記諸點に意を注ぎ最善の取引方法に出でなば割込の餘地充分あり。

三、絹靴下の小賣相場

一概に斷じ難きも、米國品純絹婦人用靴下は一打二十五留比見當、佛蘭西品は一打四十留比以上なり。但し品質其他により多少の差異あり。

四、包装

三足一箱にして帶紙は體裁よきものを要す。

五、支拂 條件

普通一覽後三十日又は六十日拂D/Pにして、手形一覽後十日以内に支拂はれたる場合は二分五厘日歩戻付の條件多く信用状を出す向は殆どなし。事實上D/P 手形は荷物引換取立手形なれば、銀行は支拂を受けざる限り船荷證券引渡をなさざる爲、一面輸出商の利益が確保せらるゝ形となり居る譯なり。

要之將來靴下の輸入は好望なるを以て、前記諸點に留意し且見本等の輸送は成るべく多種送付するを可とす。而して前記ポイント・ヒールのもの多量製出さるゝに至らば米國品カイザー印との對抗も左迄難事に非ざるべし。尙鐘紡品より見て、同社が人絹及コットンライルス・マーセライズドものを製出して、當市場に向くるに至らば相當効果あらんと云ふ者あり。

第四十一 人 造 絹

一九二八―一九二九年人造絹絲布其他の英領印度總輸入額は實に四千七百七十八萬八千留比の巨額を示し居り、其割合は人造絹絲二割八分三厘、人造絹布六割九分三厘、其他二分四厘にして、夫等の輸入は印度人の生活向上と共に逐年増加の兆を示せり。

人造絹絲は前年に比し金額に於て大凡百三十九萬留比の減退を示し居るも、數量に於ては一萬七千封度を増加し居る處、之は價格の低下したるに因るものと見らる。如斯人絹絲の大量輸入を見るに至れるは僅に二、三年來のことにして、一九二五―二六年の頃に比し約二倍、一九二二―二三年頃の十倍に増加し居れり、然るに本邦絲は一九二四―二五年中に五萬二千留比の輸入を見たるも、其後漸減を辿り現在は殆ど輸入皆無の狀況なり。次に人造絹布最近の輸入高は三千三百〇四萬三千留比に上り、前年に比し五百六十萬留比を減じ居るも、最近三年間の

増加率は二倍以上に達す殊に我製品は一九二三―二四年頃以降輸入盛んとなり、現在は百萬留比以上を算するに至れり。各年別輸入狀況左の如し。

年 別	人造絹絲 (單位千留比)		人造絹布		其 他	
	總輸入額	内日本よりの輸入額	總輸入額	内日本よりの輸入額	總輸入額	内日本よりの輸入額
一九一九―二〇年	一、五一五	二二	六、二八四	一	(不詳)	(不詳)
一九二〇―二一年	六三六	四〇	一〇、六四六	一	(同)	(同)
一九二一―二二年	四五四	一	七五六	一	(同)	(同)
一九二二―二三年	一、三四〇	一	一、九七三	一	(同)	(同)
一九二三―二四年	一、九五五	三一	一〇、四〇九	二	(同)	(同)
一九二四―二五年	四、二四〇	五二	一七、六二三	八	九三二	五
一九二五―二六年	七、四七二	四七	一三、七八三	一一	六二一	三六
一九二六―二七年	一〇、二六四	一	三〇、八七四	三一	一、〇三五	一一六一
一九二七―二八年	一四、九二一	一	三八、六四三	一、〇二六	一、三一六	三二〇
一九二八―二九年	一三、五三〇	一	三三、〇四三	(不詳)	(不詳)	(不詳)

次に人絹絲の輸入を仕向國別に見るに、一九二七―二八年中の總輸入量七百五十一萬封度中其四割五分七厘を伊太利よ

第二章 日本より印度向輸出品

港別	種類	一九二二—二四年	一九二四—二五年	一九二五—二六年	一九二六—二七年	一九二七—二八年
共計		八,五五五	一七,〇一〇	一五,三三三	四一,九六六	五〇,〇〇九
其他		一	五	四	八	三〇
輸入先		一九二四—二五年	一九二五—二六年	一九二六—二七年	一九二七—二八年	
英		一八四	一四九	二四八	二七五	
獨逸		五〇六	一三三九	二四〇	四四九	
佛		四二	一八	四九	三一	
瑞		六	三四	二八	一三	
伊太		二二	四七	三九	二二	
致		四〇	二二	二六	三五	
日		五	三六	二一	三二〇	
米		四六	六七	一三七	一四〇	
其		八一	九	七	三四	
計		九三二	六二一	一,〇三五	一,三一九	
人絹各港別輸入額 (單位千留比)		三〇	四二	一六四	九七	三九五

布	二,七五一	五,二八三	二,九二七	六,八八五	八,八三〇
雜	(不詳)	一〇七	一四九	四二二	三七七
孟買	一,七三三	三,一九三	五,六一九	九,一二四	一二,二一三
布	六,六五七	一〇,一三二	八,五九四	一九,七二五	二二,一三八
雜	(不詳)	一八〇	二二三	四四〇	五一七
カラチ	一六〇	一六三	五九二	四八三	三四一
布	五七九	九六五	六〇二	一,九二九	二,六二八
雜	(不詳)	四八八	一一七	八〇	一三七
マドラス	三三二	八三八	九一三	五一七	一,八一二
布	二	二一	二二三	八二	一〇五
雜	(不詳)	一	一	五	二三
蘭	四二〇	一,二二二	一,四四七	二,二五三	四,九四二
布	一	四	一八四	四三	一六〇
雜	(不詳)	一五六	一三二	八八	二六五
合計	一,九五五	四,二四〇	七,四七二	一〇,二六四	一四,九二一
布	一〇,四〇九	一七,六二三	一三,七八三	三〇,八七四	三八,六四三
雜	(不詳)	九三二	六二一	一,〇三五	一,三一九

第二章 日本より印度向輸出品

印度市場に於ける人造絹絲は總て輸入品にして、國産品なし。用途は云ふ迄もなく織物用なるが其消費量の如き素より確たる統計を得ざる爲詳知し難きも、當方面へ輸入せらるゝものは大凡一箇月二十萬乃至三十萬封度ならんと云ふ。人絹布は安値サリイ或は衣服用として廣く用ひらるゝも、多くは中流階級の回教徒間又は一部ヒンヅー教徒間に需要せられ、上流階級殊にパーシー族間には依然純絹物を好み着用する風あれば、人絹物を使用するもの比較的少しと云ふ。現在人絹絲値段は、

特等品	一 封度につき	二 留比
上等品	同	一 留比十安
中等品	同	一 留比七安乃至一 留比五安
下等品	同	十四安

見當と見て大差なし。

人造絹布は洗濯は勿論一箇月以上も貯藏するに於ては著しく品質を毀損し易き爲、當該取扱商は可及的ストックを少からしむる傾向あり。本年初以來當地市場へ輸入されたる本邦人絹布類は毎月大凡六百箱乃至一千箱見當ならんと當地有力商は云ひ居れり。

尙本邦品は最近著しく品質向上し、且値段も頗る低下し來りたれば各方面に好需あるものゝ如く、尙品質は獨逸其他歐洲品に遜色なしと云ふ。純絹布との値段の比較割合は純絹二十圓(Ton in Ichibu)に對し十圓見當なりと、而して最近値下り著しく本年一、二月頃十九圓にて取引したるもの七月に至りては殆ど半値の十圓見當まで下れりと云ふ。因に人造絹絲印度輸入關稅稅率は從價七分五厘、人絹布は從價一割五分なり。

第四十二 絹 物

一、輸 出 入 狀 況

生絲及絹物の輸入狀況に關しては、生絲は支那(全輸入額の八割五分)、絹絲、紬絲は伊太利(同三割四分)及支那(同二割七分)、交織絹布は本邦(同三割八分)、純絹布は本邦(同五割一分)及支那(同三割八分)が主要輸入國たり。詳細左記の如し。

輸 入 先	生 絲 輸 入 額 (單位千留比, 封度)	
	數 量	金 額
英 國	一九二六—二七年 七三,六七〇	一九二七—二八年 一,七三四,六三一
伊 太 利	一	四一,七〇七
暹 羅	一二,八三八	六五,一三四
支 那	一,六六四,八〇〇	一〇,五二七,三〇〇
日 本	一九,六五〇	一二,三七八,三二六
計(其他諸國を含む)	一,七八三,二六〇	一一,三二五,二五五

絹絲、紬絲輸入額 (單位留比, 封度)

輸 入 先	數 量		金 額	
	一九二六—二七年	一九二七—二八年	一九二六—二七年	一九二七—二八年
英 國	一一三,三七五	一一,一五〇	八四,六七二	一四,五九八

輸 入 先	一九二六—二七年		一九二七—二八年	
	數	量	數	量
佛 國	一四八、一四六	一二〇、二五八	四八八、九三八	一二三二、一一五
瑞 西	一八一、四八六	一九九、四三二	一、二九六、七三六	一、〇五三、〇四〇
伊 太 利	三九八、四八一	四〇六、一六〇	二、一三二、二五六	二、〇一三、三八二
支 那	二四八、九二八	三八二、四六三	一、四四八、六一一	一、六〇四、〇五四
日 本	一六二、〇二一	一二六、四六九	七四〇、六四八	九九四、五三二
計(其他の諸國を含む)	一、二一六、八九九	一、三五八、一七〇	六、三一三、九七六	五、九四五、二五〇
交織絹布輸入額 (單位留比、碼)				
輸 入 先	一九二六—二七年		一九二七—二八年	
英 國	二一四、〇八四	二九八、三六四	三六六、八四八	四三四、二二九
獨 逸	四〇一、六〇五	三八一、八三八	七五五、〇〇二	六六二、八三六
佛 國	二二二、四七〇	三一一、二八〇	三三〇、四七四	五七八、三一
伊 太 利	二三四、六八五	二六一、二七五	二六一、三二二	二九八、〇七二
支 那	一二六、九六九	七八、六八四	一四七、二七六	一〇四、三一六
日 本	八六七、三五二	一、〇五四、七八八	一、一〇一、〇七九	一、三四七、〇六八
計(其他の諸國を含む)	一、三三六、二五一	二、四四九、二七〇	三、〇八九、七五九	三、五二一、一九〇
純絹布輸入額 (單位留比、碼)				

輸 入 先

輸 入 先	一九二六—二七年		一九二七—二八年	
	數	量	數	量
英 國	八〇六、三七〇	一、四三三、〇七七	一、一五三、八〇九	一、四三三、三六二
白 耳 義	一三、七六九	一四三、〇七六	一三、五九二	五二二、五四五
佛 國	八一、六九〇	九一、五二一	三八〇、一八四	一六一、一四五
瑞 西	二八、一九〇	三六、六七六	一〇二、六四八	九、九三五、二四九
支 那	八、四五四、六二七	八、一三〇、四五五	一〇、七四九、九八三	一三、二六二、四一六
日 本	九、四八七、三三四	一一、三八二、九八八	一一、七九四、六七三	一三、二六二、四一六
計(其他諸國を含む)	一八、九一二、〇九一	二二、二九一、四一六	二四、二九六、九九一	二五、八〇六、七八三

他の四港の十一倍にも上る多量の輸入をなし居れり。
次に生絲の輸出は暹羅向のもの相當數あるも、大部分は歐洲向なり。而してシンドよりの移出量最も多く年約十萬封度見當なり。

生絲の輸入は孟買最も多く、總輸入の八割を占め、又マドラスは孟買の三割乃至五割、カルカッタは孟買の一割位の輸入額なり。

二、本邦絹と支那製品

日本絹に對する強敵は申す迄もなく人造絹なるが、其意匠、柄合、色合等の進化及安値と相俟て殊に中産以下の印度人の

好奇心を唆り、上下階級の別なく益々人造絹に傾く現況なり。

人造絹製品に對しても我國は之が先驅者たる獨逸、伊太利、埃地利、佛國及英國等と競争の立場に置かれ居る處、幸現在本邦に於ける人造絹業は着々發展の歩調を示し居るを以て、絹製品に經驗を有する本邦は最も得意とする紋織を巧みに人造絹に應用すべきなり。人造絹の印度輸入品は伊太利の縞、獨逸の無地、佛國及英國の高級品等夫々特徴を有し居る關係上日本が紋織を狙ふは最も當を得たるものにて飽く迄他國に乗ぜられざらんことを期せざるべからず。

四、本邦品の取引難

本邦品取引上に於ける當業者の悩みは、兎角く投機的値段を示す結果、近來日本絹取扱者の利潤薄く、爲に扱者は舊來の行懸上之を放棄することも能はず、單に將來を夢みつゝ營業を續け居る状態なるが、歐洲品の如きは製品値段は或一定の限度を維持し大なる亂高下なしと云ふ。然かも先物契約には又的確に戻口錢を附し柄、色合等常に新規のものを供給し居るを以て、取引上の定安及興味ありと當業者は語り居る處、日本商品に對しては輸入検査嚴格なりとは云へ未だ粗悪品輸入の事實往々あり、是等を買取れる消費者は時々優秀なる他の本邦品に比し甚大なる不満を感ずることありと。右は強ち本邦製造家の責と云ふよりも寧ろ輸出商の常用手段の致す處に依るものならんも、是等の諸點は本邦絹輸出上注意を要する點なりと云はれ居れり。

五、絹物輸入關稅

現行絹物輸入稅について見るに、外國品が内地品より安きは夫れ自身何等保護關稅の意味合をなし居るに非ず。絹物輸入稅は當初五分なりしが現在は從價三割迄となれり。茲に注意すべきは日本、支那、香港よりの輸入絹物以外の絹物には、確定せる關稅を課せらるゝことにして、極東より來

る絹物は毎年課稅價格變動の爲勢ひ輸入稅の變動あり。

現在日本絹に對する關稅は毎年時價により評價額を定め、之に三割の輸入稅を課するを以て、絹物として相當高値となる次第なり。印度の當業者より見れば少くとも一割五分迄に引下の要あり、斯くすれば印度内絹物の値下りとなり從て需要も遙かに増加せんと。

六、其他の事項

孟買市場に於ける絹物の現状概ね以上の通りなるが、印度市場向としては何品に限らず安値品の需要多きを常とするも絹に關しては然らず。購買者は耐久力に乏しき安物よりも寧ろ高級品を高價を惜まず求め居り、殊に結婚時季に際しては自己の財力不相應に種々贅澤品を多く求むるの習慣あれば、茲にも高級品の販路を見出し得る理由あり。

次に絹物取引の機關としては組合の如きもの諸所に在るも殆ど有名無實にして、平時は組合としての能力作用を示し居らず、偶々輸出國等に於て彼等に不利の事情等の發生せる場合に當り、急遽組合名義を以て諸方に策動するに過ぎずして平常は其存在すら疑はれ居る位なり。乍併本邦に在る印度絹商組合の如きは相當結束を固め、彼等の在印商店の輩は寧ろ各自激烈なる競争をなし、團體的共同動作は稀に必要時に起るに過ぎざるなり。

絹物相場につき一言せんに、近來人造絹が純絹相場市場に侵入しつゝある爲、卸小賣共從來の様には利潤なく、場合によりては全く無口錢の商内すら餘儀なくさるゝことありと云ふ。又絹物取扱商中には小資本の者相當多きを爲、相場下押の際は之を支え得ず賣急ぎをなす傾向ある爲、益々競争激甚を加へ、普通は卸小賣との間の儲は一碼に付一安乃至二安、反賣となれば四安乃至一留比の利益はあれど、是等は在荷の關係や新柄等により一概には言ひ難しと云ふ。

印度は北緯三十七度より七度に亘り面積百八十萬餘方哩の大陸にて各地により氣候の差異甚だしく、且三億二千萬の住民は其種族多様に岐れ、各々風俗習慣を異にする爲、被服の種類如き頗る多く全く統一なし。古來肌着には綿布を使用し來りしが一般婦人向を除き漸次莫大小にと移り來れり。莫大小は肌着として皮膚の感觸柔かにして且値段安く、容易に之を買求めらるゝ爲一般の需要増加し、國內に於ても莫大小肌着の製造勃興を來し、輸入品の數も逐年多きを加ふるに至れり。以下項を追て少しく記述すべし。

イ、輸入概況

一九二八―二九年中に於ける莫大小製品の印度輸入總額は一千四百五十萬留比にして、之を其前年に比較せば七十四萬一千留比の増加を示せり。而して之を品種別に見れば大凡八割二分の千九十六萬一千留比が襯衣、約一割四分の二百〇二萬八千留比が靴下類、其他の四分が雜製品なり。

又更に之を仕向國別に輸入高を見れば、本邦品を以て冠となし其輸入額は總額の八割六分三厘即ち千二百五十一萬九千留比を占め居れば、他國品は殆ど問題外なり。乍併最近獨逸、伊太利及米國の諸國は相當の増加率を示し、然かも是等諸國の製品中には人絹混編等の比較的高級品多く、而して其賣込方法は獨、伊は何れも從來行はれたる本邦の賣込方法を模倣し輸入商の私標により賣廣め居り、米國は全く製造家の商標により邁進を圖り居れり。

本邦品は値段安きこと、大量輸出をなすこと等總ての點に超越し居れば他國品に侵さるゝ虞なきも、曾て當市場にて全盛を極めたる本邦靴下が僅々數年の間に香港製靴下の侵入により端なく市場の勢力を殺がれたる事例もあることなれば、將來支那製莫大小は勿論他國製莫大小の活躍如何によりては本邦品に對する脅威ともなるを保し難きを以

て本邦當業者に於ても相當の注意を怠らぬやふ心掛くべし。

ロ、莫大小取引上の紛議と其防止策

取引紛議は日印取引上の一大難物にして殊に莫大小の取引には此クレームを起すこと殊に多きやうなり。其原因又は注意事項等に関しては屢々報告したるを以て本邦當業者は既に心得居らるゝことと信するも、茲に二、三の點を挙げ見れば、

(一) 印度商の掛引に乗ぜられざること

獨り印度商に限らず一般に販路廣き商品を成るべく安値を以て仕入れんことに焦る結果、茲に掛引が起り印度人の常として所謂 *Ty no harm* 式の掛引を恬然行ふ風あることは最も注意すべきことなり。例之一打三圓八十錢の品に對し不取敢三圓位に註文を出し置き此値段にて引受くる相手商人を得れば幸ひ、然らざる場合は註文値段を少し宛上げ行くが如き之なり。斯かる場合日本側の商人は賣焦りの苦境より遁るゝ爲、正直に之を引受け爲に市場相場を崩し、本邦側當業者間には自由競争を惹起し、印度商側は値段の亂高下の祟りを受け、茲に取引上の不安を醸し延ては本邦品の信頼を傷くるの結果ともなるなり。故に斯かる註文に接したる場合は充分値段を練り、最も適當の値段を申出で、決して先方の註文に惹かされざるやう注意すること肝要なり。斯かる弊風は獨り莫大小のみに限らず一般雜貨についても同様なり。本邦商品が世界何れの市場に於ても値段の不安定、取引上の不安に關する譏りあるは甚だ遺憾なるを以て、品質や値段の統一に就ては國內的に何等か良策を講ずるに非ざれば此弊は益々増長するとも除去の途なからん。

(二) 安値註文の引受に伴ふ品質の低下

國內競争や資金の不圓滑の結果、賣焦りをなし延ては安値註文にも甘んじて引掛り、茲に製造上又取引上の無理を生じ品質の下落を招致し、畢竟本邦品全體の不評を買ふことなるは云ふ迄もなし。素より賣と云ひ買と云ひ全然掛引なしにては出來ずとするも、當地の輸入商は既に述べたる通り買方にして又同時に賣方なる關係上、殊に從來の如く私標を以て取引さるゝ莫大小に於て品質上に間違の起りし場合、假令賠償を相當徴するも、其商標の信用を傷くることもなれば、現實の損害以外に此信用毀損の點迄も考慮に容れる爲、可なり不當の賠償金を要求するの風あるが如し。

(三) 品質上の苦情が最も多きこと

即ち見本と現送品の相違等より起るもの多し。元來莫大小製品は古き見本と全然同一のものを製出することは絶對不可能とも云ふべき程のものなるが故に、事實製造家とても随分面倒なれど、之を口實に買方は市價の低落したる場合等に於て金の遣繰算段に窮し荷受を延期したき場合、殊に荷爲替D/Pの條件なれば荷受人は何等か苦情の口實を設けたがるものなるを以て、實際問題としては苦情を免除することは難事なるべし。要するに本邦製造家並中間商人等の徳義に訴へ、他面夫等の監督、製品の検査厳行及前記無謀なる安値註文の引受等を警むる等、先づ國內的の統一が肝要なり。

ハ、本邦品に對する市評

一般に本邦品は仕上げ巧妙然かも光澤を有する爲、極く格安品にても紙箱入にするを可とす。安値品中には往々裁方、仕上げ方に粗漏のもの又二、三回洗濯すれば弗々縫目が糺れ、鈕がとれ易く又壞れ易きものありと云ふ。本邦品には又苦情の原因となる種々の手落あり。結局は利益薄なる爲、獨逸品の如き一般氣受けよき柄や形體、品質

等をも具ふるものに惹かされ勝ちにて、殊に靴下やスエーターに於て然りと云ふ。

當市場に好評なるは半袖二重胸鹿の子並前卸のものにして、色合はボルブリガンが主にて、次は晒なり。色物及綿物に至りては數量的には殆ど問題とならざる位なり。大さは二十二吋ものより四十吋迄あれど先づ三十吋乃至三十六吋所迄のものが需要多き模様なり。此種の品物も孟買州に於ける二、三小工場にて本邦品を模倣製出され居る由なるも、品質は原絲等の關係にて光澤なく、少からず見劣りするを以て全く競争とならざる趣なり。

右當業者の云ふ處を綜合考案するに、夫等品質上の改善と相俟て値段の統一を行ひ、値崩し等の弊をなからしむるを急務とするを以て、本邦當業者としては安値註文に對する考慮、苦情の種となるべき前記諸項に注意を怠らざること肝要なり。

二、各港別輸入状況

輸入莫大小の港別輸入割合を見るに、一九二七―二八年の統計によればカルカッタ港約七百三十萬留比、孟買港三百八十萬留比、蘭貢港二百四十萬留比、カラチ港二十萬留比、マドラス港九萬留比即ちカルカッタ五割三分、孟買二割七分五厘、蘭貢一割九分六厘其他をカラチ及マドラスの兩港よりの輸入とす。

試みに既往五年間に於ける港別輸入状況を示せば左表の如し。

各港別輸入額 (單位千留比)

輸入港	品種別	一九二三―二四年	一九二四―二五年	一九二五―二六年	一九二六―二七年	一九二七―二八年
カルカッタ	靴 下	五三二二	七〇五	一、〇四五	九〇九	九二〇
	襪 衣	三、七二六	五、三二六	六、六〇八	七、三四五	五、九九四

輸入先	一九三一—二四	一九二四—二五	一九二五—二六	一九二六—二七	一九二七—二八	一九二八—二九	一九二九—三〇	一九三〇—三一	一九三一—三二	一九三二—三三	一九三三—三四	一九三四—三五	一九三五—三六	一九三六—三七	一九三七—三八	一九三八—三九	一九三九—四〇
獨逸	四八三				六四一				七三四					九八八			七四一
白耳義					六				一					一			一
佛國					一				八					二			四
瑞西					二四				四					一四			一〇
伊太利					八				一六					二六			六三
支那					二二〇				二三四					一七八			一四二
日本					七、四九〇				八、五五五					一一、一三八			一一、三五四
米國					三二四				四一三					五六五			三三八
其他					一				二					四			三
計	九、三九四				一一、一九二				一四、〇四六					一四、七二二			一三、七六三

右莫大小製品中主なるものは靴下 襪衣なるが、其中靴下の輸入状況を表について見れば、其最大輸入先は英領香港にして之は量及價格共我製品を凌駕し居れり。然かも其五年前の輸入量より見れば増加率は二倍以上となり、我國よりの輸入量は全體五年前と異らざるも、金高より見れば五割四分方の増加を來し居れり。

靴下類の即往五年間に於ける國別輸入状況左表の如し。

靴下國別輸入高 (單位千打、千留比)

輸入先	一九三一—二四	一九二四—二五	一九二五—二六	一九二六—二七	一九二七—二八	一九二八—二九	一九二九—三〇	一九三〇—三一	一九三一—三二	一九三二—三三	一九三三—三四	一九三四—三五	一九三五—三六	一九三六—三七	一九三七—三八	一九三八—三九	一九三九—四〇
獨逸	四八三				六四一				七三四					九八八			七四一
白耳義					六				一					一			一
佛國					一				八					二			四
瑞西					二四				四					一四			一〇
伊太利					八				一六					二六			六三
支那					二二〇				二三四					一七八			一四二
日本					七、四九〇				八、五五五					一一、一三八			一一、三五四
米國					三二四				四一三					五六五			三三八
其他					一				二					四			三
計	九、三九四				一一、一九二				一四、〇四六					一四、七二二			一三、七六三

輸入先

數量

金額

英國 二五〇 四三八 五二五 五一五 五一四 六四二、〇八六 一、〇八二 九六六 九三九

英本國 二二二 四九 五四 五六 一三 一五五 一八五 一三九 一六七 六〇

香港 二二四 三六三 四七〇 四五六 四九六 四八〇 八六一 九四一 七九三 八五九

其他の英領 四 二六 一 三 五 七 四〇 二 六 二〇

獨逸 二五 二六 二八 三四 三六 一八八 一九九 一七八 一八七 二二一

伊太利 一 一 四 六 一三 一 一 一 一六 二三 四〇

支那 六八 七四 八二 八八 七三 一六六 一七八 二〇〇 一五八 一三二

日本 三四五 一七三 三三一 三八四 三八一 五二九 四一五 六三六 六七一 八三九

米國 一六 三〇 五四 五〇 三七 一八七 二九二 三七四 三九六 二四四

其他 一 六 一 一 一 一 一 一 二 一 四

計 七〇五 七四七、〇二五 一、〇七七、〇五五 一、七二二、一八三 三、四八八、四〇二 三、四一九

輸入莫大小製品中の大宗は肌衣、襪衣にして、當地市場の輸入品は殆ど本邦品の獨占なり、獨逸品も少量の輸入あれど我製品に比すれば五分にも當らざれば殆ど問題とならず。

一九二七—二八年中に於ける本邦品の輸入高二百三十二萬四千打、一千〇十四萬一千留比に達し、實に總輸入高に對し量に於ては九割六分七厘、金額に於て九割三分五厘を示せり。

既往五年間に於ける襪衣の國別輸入状況左表の如し。

綿莫大小襪衣國別輸入額 (單位千打、千留比)

輸入先	數量			金額		
	一九二一—二六	一九二七—三〇	一九三一—三四	一九四一—四五	一九四五—五〇	一九六一—七〇
英國	一三	一九	一六	一〇九	一四四	一五〇
英本國	六	九	一一	七九	一〇五	九二
香港	五	四	三	一九	二八	四七
其他の英領	二	六	二	一一	一一	一一
獨逸	四五	八一	五三	二三五	四〇三	五一〇
瑞西	一	一	一	一	一一	四
伊太利	一	一	三	四	一	一
日本	二、〇九四	二、四六九	二、三三四	六、七〇三	七、八九〇	一〇、一五七
日	一	一	一	一	一	一
米	五	九	四	五二	三七	五二
其他	一	四	二	三	六	四
計	一一、一五八	一一、五八三	一一、四〇三	七、一〇六	八、四九二	一一、〇八七

右の外莫大小雑品の輸入は年五十四萬三千留比位に過ぎざれども之亦本邦品最も多く年三十七萬三千留比即ち約六割八分七厘なり。過去五年間の國別輸入狀況左表の如し。

莫大小雑製品國別輸入額 (單位千留比)

輸入先	一九二一—二四年	一九二四—二五年	一九二五—二六年	一九二六—二七年	一九二七—二八年
英國	一三六	五九	四六	四二	三九
獨逸	五九	三九	四六	四二	三九
伊太利	四	一	一	一	四
支那	四四	五六	三〇	七	八
日本	二五八	二五〇	三四五	三五五	三七三
日	七四	八四	一三九	七〇	四七
米	一	二	六	二	二
其他	一	二	六	二	二
計	五七六	五一七	六八〇	五四一	五四三

一九二八—二九年度に對する輸入狀況の詳細は同年度貿易年報未だ發刊なき爲之を知り難きも、同年月報の累計により過去三年の輸入額と比較して各國別に取調見れば左の如くにして、總輸入額千四百五十萬四千留比に對し、品種別に見れば襪衣を、國別に見れば本邦品を代表的のものとす。即ち左の如し。

一九二八—二九年中莫大小輸入額 (單位千打、千留比)

種別、國別	數量	金額
靴	一、一〇四	二、〇二八
襪衣	二、九四一	一一、九六一
其他	(不詳)	五一五
計	(不詳)	一四、五〇四

5
1

磅は英國品にして四割一分を占め、其他は本邦品の輸入は三割二分五厘見當なり。本邦品は一九二七年九月二十二日より實施の綿絲新關稅の適用を受けし以來、激減著しく四年前の約半分に減ぜり。之に反し支那絲は著しく増加を來し一九二七―二八年にては本邦品と大差なきに至れり。

乍併一九二八―二九年以後は本邦絲も漸次輸入増加を見るに至りたれば、實際上當初杞憂せられし程には非ざる情勢に在り。

既往四年間に於ける綿絲各國別及港別輸入量左の如し。

綿絲國別輸入額 (單位千封度、千留比)

輸入先	數量				金額			
	一九二五	一九二六	一九二七	一九二八	一九二五	一九二六	一九二七	一九二八
英國	10,955	16,041	10,237	3,555	4,622	3,444	30,859	3,300
獨逸	4	3	3	15	7	40	5	19
和蘭	51	47	46	56	1,39	64	67	90
白耳義	90	3	元	3	180	7	8	90
瑞西	1,07	89	91	44	2,21	1,53	93	33
伊太利	25	40	34	45	405	696	45	55
埃地利	28	24	22	3	55	35	6	5
支那	59	5	90	11,05	49	5	8	11,54
日本	3,35	3,55	2,69	1,675	45,97	42,80	31,011	33,00
其他	10	17	6	34	35	24	6	30
計	55,907	51,668	49,435	51,345	66,631	77,667	66,244	67,898

綿絲港別輸入高 (單位千封度、千留比)

輸入港	數量				金額			
	一九二五	一九二六	一九二七	一九二八	一九二五	一九二六	一九二七	一九二八
カルカッタ	26,244	33,699	9,633	33,842	25,855	19,239	3,266	25,899
孟買	27,335	26,656	26,266	26,67	47,40	58,956	7,011	7,011
カラチ	1,331	89	74	69	2,110	1,14	85	85
マドラス	8,622	7,690	8,622	7,696	18,266	14,73	13,67	13,33
蘭貢	2,235	2,67	2,231	1,531	4,000	4,043	2,555	1,231
第四十五	綿	布						

印度輸入綿布總輸入年額は大凡十八、九億碼、五億五千萬留比の巨額に達せる處、試に一九二七―二八年中の輸入數量により各國別輸入割合を見るに、同年中の總輸入十九億七千三百萬碼中英國は十五億四千八百萬碼即ち七割八分五厘を占め、本邦品之に次ぎ三億二千三百萬碼即ち一割六分四厘を仕向け居れり。以下各種別に從ひ今少しく記述し見んに、

イ、綿 布 生 地 物

一九二七―二八年中に於ける生地綿布總輸入量は八億七千五百萬碼、二億一千二百萬留比なる處、其中六億五千二百萬碼、一億五千五百萬留比は英國より、又二億一千五百萬碼、五千四百六十萬留比を本邦より輸入し居れば、數量より見たる兩國の輸入割合は英國七割四分四厘、我國二割四分五厘見當なり。

ロ、綿 布 晒

總輸入額五億五千六百萬碼、一億五千四百萬留比中、五億二千七百萬碼、一億四千二百萬留比即ち數量より見て九割四

分八厘は英國品之を占むるを以て他は物の數に非ず。

ハ、加工品

捺染物最も多く、同年中の輸入總數二億三千五百萬碼中一億九千三百萬碼は英國品にして、他は本邦品及伊太利品を擧げ得るも、輸入量には大なる逕庭あり。

色染は一億五千八百萬碼中一億一千八百萬碼は英國之を占め、色物は一億一千百萬碼中五千百萬碼は我製品にして、四千五百七十萬碼は英製國品とす。

以上記載のもの外、雜綿布三千六百五十四萬碼、九百四十三萬二千留比の輸入あるも、其中本邦品の輸入は頗る少量なり。各種綿布類輸入國別統計左の如し。

綿布國別輸入高 (單位千碼、千留比)

輸入先	數量	金額
英國	一、九四一、三五	一、九五一、一七
獨逸	一、六〇〇、四六	一、四七〇、七五
和蘭	一、六三三	一、四七〇、七五
白耳義	一、一七〇	一、一六六
瑞西	七、三九〇	六、九九二
伊太利	一〇、二六八	一、〇七四
日本	一、五、三〇三	一、〇七四
米國	九、三三七	四、一八四
其他	一、八三三、四〇〇	一、一八四
計	六、三三三	一、〇七四

綿布 (生地) (單位千碼、千留比)

輸入先	數量	金額
英國	一、九四一、三五	一、九五一、一七
獨逸	一、六〇〇、四六	一、四七〇、七五
和蘭	一、六三三	一、四七〇、七五
白耳義	一、一七〇	一、一六六
瑞西	七、三九〇	六、九九二
伊太利	一〇、二六八	一、〇七四
日本	一、五、三〇三	一、〇七四
米國	九、三三七	四、一八四
其他	一、八三三、四〇〇	一、一八四
計	六、三三三	一、〇七四

綿布 (晒) (單位千碼、千留比)

輸入先	數量	金額
英國	一、九四一、三五	一、九五一、一七
獨逸	一、六〇〇、四六	一、四七〇、七五
和蘭	一、六三三	一、四七〇、七五
白耳義	一、一七〇	一、一六六
瑞西	七、三九〇	六、九九二
伊太利	一〇、二六八	一、〇七四
日本	一、五、三〇三	一、〇七四
米國	九、三三七	四、一八四
其他	一、八三三、四〇〇	一、一八四
計	六、三三三	一、〇七四

述する處あらん。

一、銀塊輸出入状況

英領印度へ輸出入銀塊の數量幾許なりやは左に示す既往十一年間の統計により明かなり。

年次	年別銀輸出入量 (單位千「オンス」)		純輸入量
	輸入量	輸出量	
一九一六—一七年	一一六、九五九	二四、七六五	九二、一九四
一九一七—一八年	八八、八一四	一四、二八三	七四、五三一
一九一八—一九年	二四一、七四八	四、七一九	二六七、〇二九
一九一九—二〇年	一〇一、〇五二	四、一一〇	九六、九四二
一九二〇—二一年	四三、二二一	二〇、九八二	二二、二三九
一九二一—二二年	七三、八三八	九、七〇四	六四、一三四
一九二二—二三年	九六、五〇〇	一〇、四四三	八六、〇五七
一九二三—二四年	一〇七、八三七	一四、五七八	九三、二五九
一九二四—二五年	一一三、三二九	一九、九七五	一〇二、三五四
一九二五—二六年	一〇八、三四七	一四、九八三	九三、三六四
一九二六—二七年	一三四、〇〇六	九、七六三	一二四、二四三

即ち一九一八年の二億六千萬「オンス」と云ふ破天荒の數字を別とするも、約九千萬「オンス」平均の純輸入量を示し、世界年産額を二億五千萬「オンス」と見れば約五分の二を吸収する勘定なり。

尙前表により明かなる如く印度は銀の輸入國にして輸出國には非ざるも、特殊の事情により年々多少の輸出あり。其最大輸出先は上海にして一九二七年中に於ては全量の六割六分強を同地へ輸出したり。波斯、アラビア方面へ輸出せらるゝ銀は概して留比銀貨にして、眞珠其他の産物の對價として輸出せらる。銀の主なる輸出入先を一九二七年中について見れば左の如し。

銀國別輸出入額 (單位千留比)

輸入先	輸入額	輸出先	輸出額
英國	七九、五八四	支那	一九、七三七
米國	六三、二二一	波斯	八、〇三六
濠洲	一一、六五〇	アラビア	一、一八五
佛國	九、三四八		
支那	三、一六三		
伊太利	二、一五一		
其他	一三、六九四	其他	六五六
計	一八二、八一	計	二九、六一四

二、銀の消費

印度は世界銀産額の内其三割乃至四割を吸収する市場なることは世人周知の事實にして、其額一箇年「億」オンス以上にと稱せらる。而して輸入は地理的關係より大部分孟買にて行はれ、奥地の需要として多き月は一日平均四、五百本(約四、五十萬「オンス」)少き月には百本即ち十萬「オンス」に近き大量を送りつゝある有様なり。然らば是等の消費方

面如何と云ふに(一)貨幣用(二)Off take(印度民間需要の總稱)(三)死藏の三方面より觀察するを得べし。

(一) 貨幣用

印度に於ける留比貨鑄造は一九一六年より漸増、一九一八年の五億臺を最高とし、爾來造幣所閉鎖の聲高まり遂に一九二四年以降其鑄造を停止せり。現在鑄造するは半留比銀貨にて其高も著しく減ぜり。

(X) Off take

之前述の通り民間銀需要の總稱にて、孟買又はカルカッタ銀市場より奥地へ運搬し去らるゝ銀を意味す。其用途は千差萬別にてシヨールの刺繡、足環飾、耳環、鼻環、指環、腕環其他婚儀用品等印度の風習に従ひ種々の銀細工物に變るものあり、或は Cur ban(銀條を二つに切りたるものにて受渡品とならざるもの) たりて市場より運び去られ田舎茅舎の床下に埋れ行くものもあるべし。

(三) 死藏

印度に於ては金融機關の發達遅れ、富の蓄積方法として貨幣の死藏をなすの習慣は古來より依然繼續せられ居れり。一九二五年貨幣制度調査委員の示す數字よれば既發留比貨は三十五億乃至四十億留比と註せられ居るも、普通流通し居る貨幣は其中約十五億留比に過ぎずと。尙死藏は留比貨の外地銀、地金或は金貨等をも數え得べし。乍併經過的に見て留比貨の死藏は漸次減少しつゝあるは事實なり。

三、銀塊取引當事者

孟買地金銀取引所は資本金百萬留比の株式會社にして、現在會員約三百餘名に上り居れるが、之を中心に孟買銀市場を構成する銀取引從業者は頗る多數に上れり。其他橫濱正金、住友、三井、臺灣各銀行の外、外國銀行としてはナシヨナル・バンク・オブ・インディア、チャータード・バンク、オーストラリア・アンド・チャイナ、香港上海バンキング・コーポレーション

ヨン、アメリカン・エクスチェンジ等及印度政府とす。

右の外取引に關しても記述し度きこと少からざるも餘り煩雜に亘るを以て茲には省略するに付、詳細必要の向は昭和四年二月七日附發行海外經濟事情(臨時増刊)第四十九號を参照せられたし。

日印貿易便覽 終

附 錄

第 一	印 度 略 圖
第 二	孟 買 市 略 圖
第 三	在孟買主要輸出入品取扱商名簿
第 四	印度輸入關稅稅率一覽表



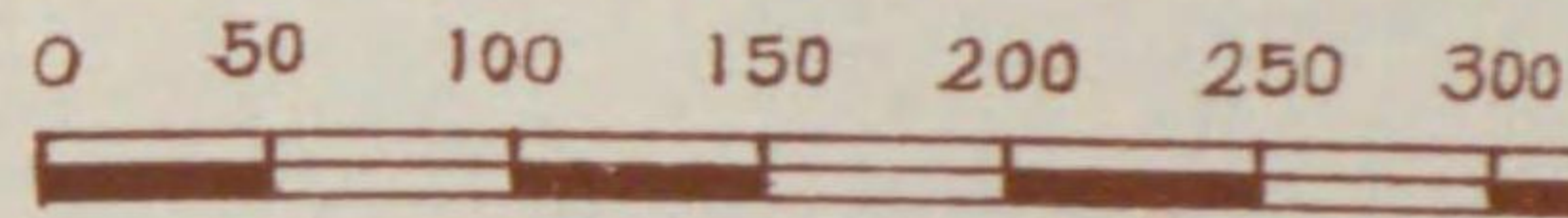
州

縣

一
二
三
四
五
六
七
八
九
十

印度略圖

壹千分の一



- 國境 -----
- 省州土侯境 -----
- 航路 -----
- 主要鐵道 -----
- 都邑 ◎
- 日本領事館所在地 □



運四六四一間ンデアチラカ

四八三 點

{ 運〇五六一 間ンデア買孟
運七四〇三 間トイサト一ポ買孟 }

孟買

葡領ポア

ハ八三 運

カリカ

チェー
コリン

古倫母

マニラ

マニラ 古倫母 間五八。運

運〇一五三 間トイサト一ポ 母倫古

運七七五 一 間母倫古 坡嘉新

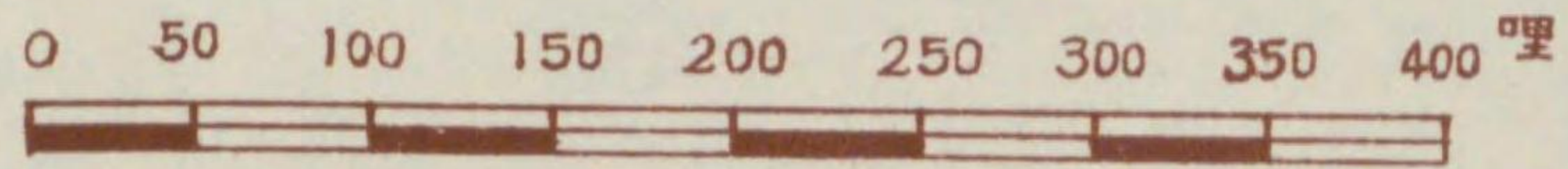
運九七五

運二五七



印度略圖

壹千分の一

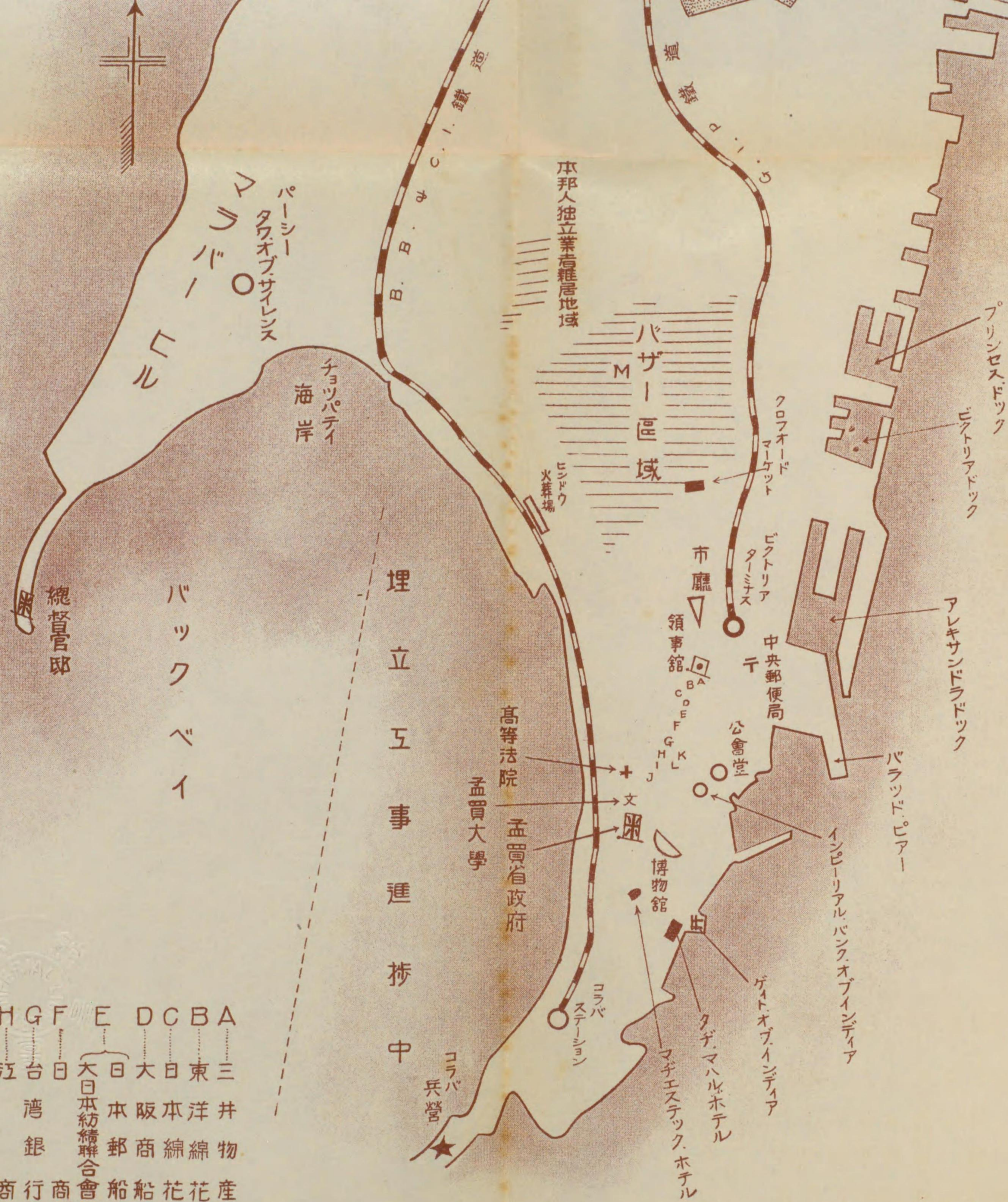


- 國境 ————
- 省州土侯境 ————
- 航路 ————
- 主要鐵道 ————
- 都邑 ◎
- 日本領事館所在地 ◻



附録第一

孟買港

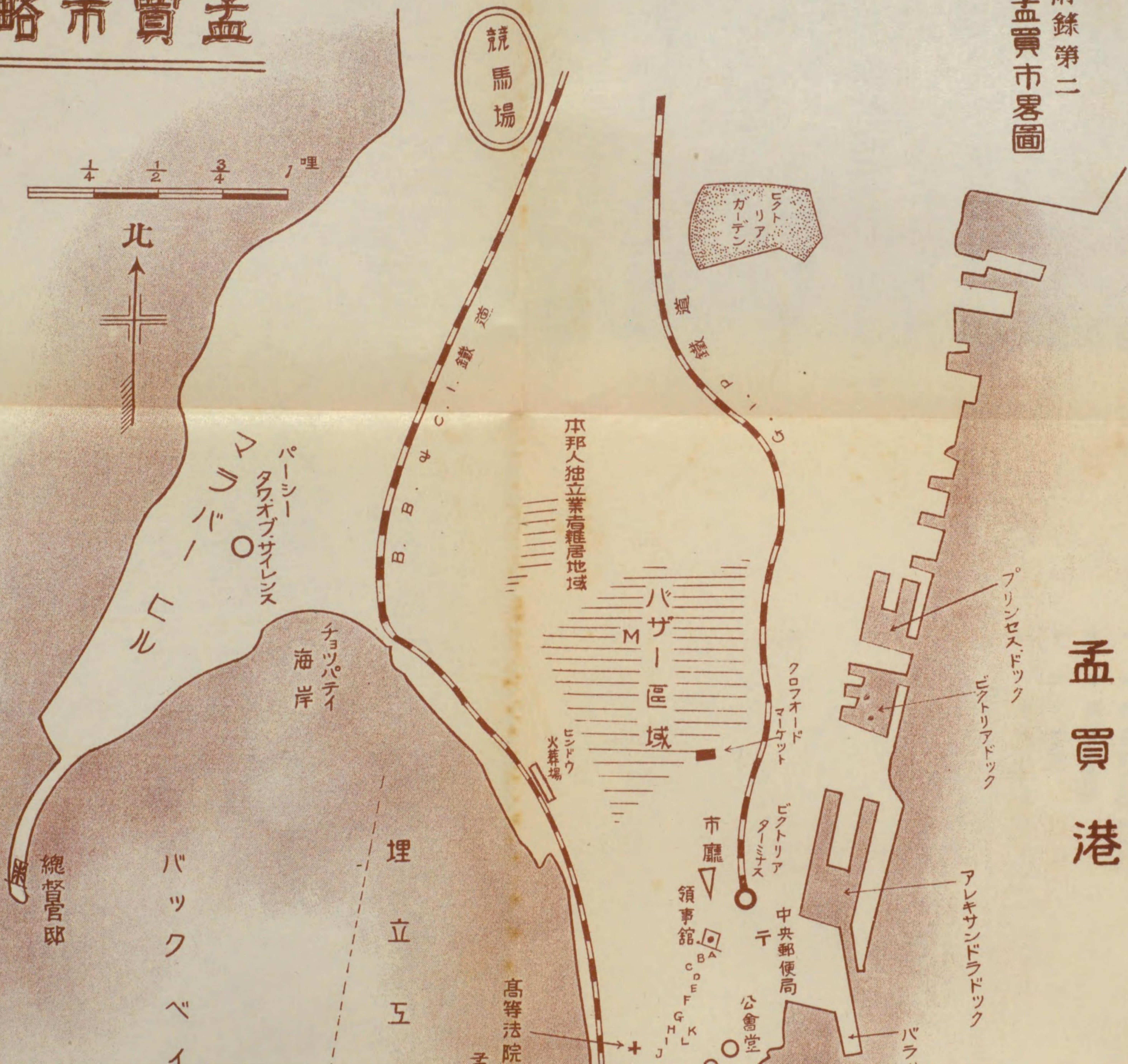


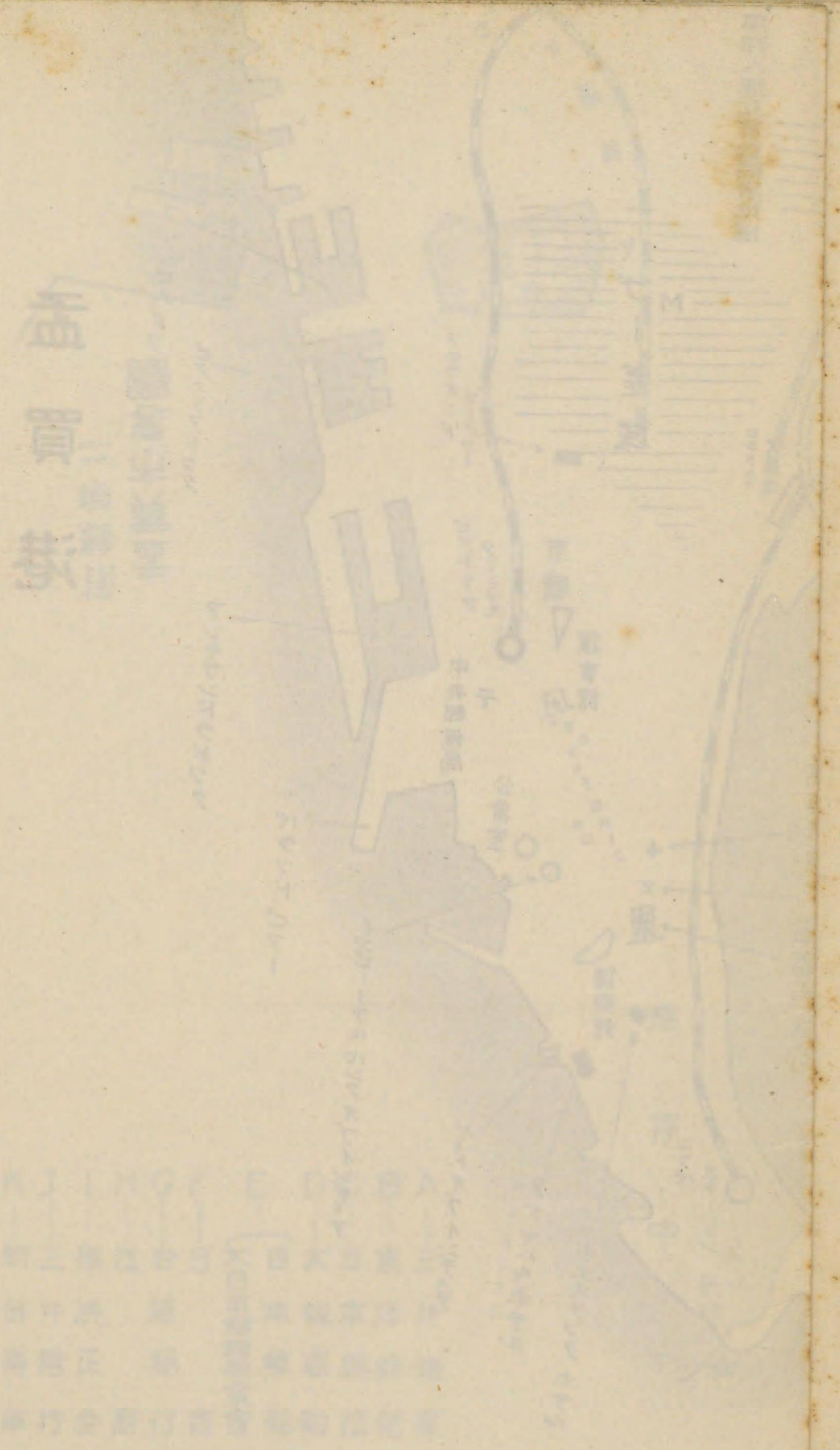
埋立工事進捗中

M	L	K	J	I	H	G	F	E	D	C	B	A
御木本眞珠店	住友銀行	新田銀行	三井銀行	横濱正金	日商銀行	大日本紡績聯合會	日本郵船	大日本商船	日商銀行	東洋綿花	三井物産	

孟買市略圖

附録第二
孟買市略圖





甲 輸出品取扱商社名錄

I POTATOS, ONIONS & FRUTTS (馬鈴薯玉葱及果物類)

- 1 R. E. Dadacharji & Co., Tank St., Byculla, Bombay.
 - 2 N. M. Pohowala, Bazar Gate Street, Fort, "
 - 3 B. K. Irani, Sitaram Bldg., Hornby Road, "
 - 4 Virchand Parachand & Co., 196, Samuel Street, "
 - 5 Dhanjibhoj Pestonji, Crawford Market, "
 - 6 Dadbaj Sorabji Pastakia, " "
- II BUTTON SHELL (鈕卸用貝類)
- 1 M. Mohamed Tacki Afshar, No. 26, Kompa St., Frere Road, Fort, Bombay.
 - 2 M. H. Dehdashti, Ash Lane, Off Meadows St., Fort, "
 - 3 H. A. Nabi & S. A. Shiraze & Co., 222/223, Frere Road, Fort, "
- III GUM TRAGACANTH (「トランガカント」護謨)
- 1 H. A. Nabi & S. A. Shiraze & Co., 222/223, Frere Road, Fort, Bombay.
 - 2 M. Mohame l Tacki Afshar, No. 26, Kompa Street, Frere Road, Fort "
 - 3 Esraail Veeji & Co., Khadak, Khoja Mohalla, Mandvi, "
 - 4 Narsee Moolji & Co., 151, Samuel Street, Mandvi, "
 - 5 N. C. Lodaya, 179, Samuel Street, Mandvi, "
 - 6 Tanboli & Co., Krishna Bldg., Fort "

- 7 Danjee Mawjee & Co.,
- 8 Mohamed Jaffer Mowla & Sons,
- 9 Padansee Cooverjee & Co.,

177, Khoja Mohalla, Mandvi, Bombay.
 Shaikh Buran Street, Mazagan, "
 Khadak, Mandavi "

☐

GRAINE, CEREALS, & OTHER LOCAL PRODUCT

(穀類及其他農產物)

- 1 Louis, Dreyfus & Co.,
- 2 Ralli Bros.,
- 3 Volkart Bros.,
- 4 E. D. Sassppn & Co., Ltd.,
- 5 Mancherji Ruttonji Tata & Co.,
- 6 Kilachand Dewchand & Co.,
- 7 Narandas Rajaram & Co.,
- 8 Napoo Nensey & Co.,
- 9 Jeyram Parmanand & Co.,
- 10 Tokarsee Devsee & Sons,
- 11 Tamboli & Co.,
- 12 Ilajee Tar Mahomed Ayooob,
- 13 B. Rajanna & Co.,
- 14 N. N. Ganapathy Sastry,
- 15 Krishna & Co.,

Nicol Road, Ballard Estate, Fort, Bombay.
 21, Ravelin Street, Fort, "
 19, Craham Road, Ballard Estate, Fort, "
 Ballard Estate, Fort, "
 310, Kharek Bazar, Mandvi, "
 55, Apoll Street, Fort, "
 2, Dean Lane, Fort, "
 Argyle Road, Dana Bunder, "
 177, Samuel Street, Mandvi, "
 New Chinch Bunder Road, "
 Krishna Bldg, Fort, Street. Fort, "
 9-10, Anderson Street, Madras.
 Cocanada.
 26, Andal Street, Tuticorin.
 127, North Car Street, "

- 16 A. T. V. Newton & Co.,

No. 19, French Chapel Road, "

☐

MEALS & MANURES

(穀類其他天產品及肥料)

- 1 S. Bannister & Co., Ltd.,
- 2 Dr. Jariwala Shah & Co.,
- 3 Fazalbai Ibrahim & Co.,
- 4 N. V. Vali Mahomed,
- 5 Croft, Mody & Co.,
- 6 David Sassoon & Co.,
- 7 S. Mahomeddin Haji Kaderbaksh,
- 8 Allarakhia Kanji,
- 8 Tahitram Tuijaram,
- 10 J. R. Joshi, (Ahemedabad.)
- 11 Minoram & Co.,
- 12 Bangaru, Checka & Co.,
- 13 Parry & Co.,
- 14 V. L. Boggavarapu Co.,
- 15 Sivani & Co.,

Hornby Road, Fort, Bombay.
 71-73, Apollo Street, Fort, "
 Hornby Road, Fort, "
 Khadak, Khoja Mohalla, "
 Esplanade Road, Fort, "
 do.
 Dharavi, "
 Khadak, "
 Katubund Lane, Hyderabad, Sind.
 Ahemedabad, Naroda.
 16-17, 2nd Line Beach, Madras.
 Cocanada.
 P. O. Pox No. 12, Madras.
 P. O. Box No. 39, Cocanada.
 P. O. Box No. 1217, Madras.

乙 輸入品取扱商社名錄

I PAPERS (紙類)

1	Shroff & Mistry,	17, Humman St., Fort, Bombay.
2	H. D. Nariman Bros.,	269, Lohar St., "
3	Abdul Husain Kikabhah,	Bombay Stritioney Depot, Parsi Bazar, "
4	Jamshedji Ratanji & Co.,	Humman Street, Fort, "
5	United Commercial Co.,	8, Parsee Bazar St., Fort, "
6	Bombay Continental Tdg. Co.,	87, Meadows Street, Fort, "
7	Star Trading Co.,	28, Apollo Street, Fort, "
8	K. Shapurji & Co.,	84, Parsee Bazar Street, Fort, "
9	Malcome & Co.,	115, Cowasji Patel St., Fort, "
10	Commercial Stationery Mart,	Gogha St., Fort, "
11	Vrajlal Dulabhadras,	204, Hornby Road, Fort, "
12	Western Stores,	108, Parsee Bazar, Fort, "
13	Arab Agency,	7, Parka Bldg., Bhandi Bazar, "
14	C. S. Menon,	Rahat Manzil, Santa Cruz, Bombay Dist.
15	Canal, Norton & Co.,	23, Meadows Street, Fort, Bombay.
16	Western Mercantile Co.,	704, Mangaldas Market Bldg., "

II CHEAP WALL MATS (安値ノ日除ノ莫草及花筵類)

1	H. Anbhai & Co.,	182, Near Panjrapole Gate, Bombay.
2	Malcome & Co.,	Cowasji Patel St., Fort, "
3	J. A. Karachiwalla,	Musjid Bunder Road, "
4	Manufacturers' Oriental Agency,	81, Cowasji Patel Street, Fort, "
5	R. T. Shah & Co.	Aga Khan Bldg., Dalal St., Fort "
6	Cooper Bros.	Old Sissooon Bldg., Bazar Gate S., "
7	K. Shapurji & Co.,	84, Parsee Bazar St., Fort, "
8	Eastern Mercantile Co.,	Mangaldas Market Bldg., "
9	J. Behramji & Co.,	112, Parsee Bazar, Fort, "
10	Jaffer Peernohomed & Co.,	No. 41, Humman Street, Fort, "
11	B. J. Divan & Co.	Whiteway Bldg., Hornby Road, Fort, "
12	S. D. Shroff & Co.,	Patel Mansion, Gowalia Tank Road, "
13	Br. dford & Co.,	Essak Bldg., Grant Road, "
14	Fazulbhoj Haji Kassun & Co.,	29, Congri St., "
15	E. F. Kavarana & Co.,	84, Bazar Gate Street, Fort, "
16	Impex Agency,	89, Princess Street, "
17	Sohrab P. Patel,	Kudiana Bldg., Wadala Road, Dardar, "
18	Union Trading Agency,	1, Kohhari Mansion, Fort, "
19	T. R. Rangrej,	Apollo Street, Fort, "
20	Japanese Museum,	Watson Annexe, Esplanade Road, "

III MATCHES IN BOMBAY (續十)

- | | | |
|----|--------------------------------|--|
| 1 | K. M. Abdulkayum, | 112, Nagdevi St., Bombay. |
| 2 | Dawood Ebrahim Parekh, | Nagdevi St., " |
| 3 | Abdoolali Ebrahim Matchewalla, | 121, Nagdevi St., |
| 4 | T. M. Vasi & Co. | Abdul Rehman St., " |
| 5 | Valli Mahomed Yakub Gazayani, | Nagdevi St., " |
| 6 | M. V. Steenivasikrupa & Co., | 15, Forbes St., Fort, " |
| 7 | N. Digamber & Co., | Bombay. |
| 8 | Ganesh & Co., | Wakefield House, Ballard Estate, Fort, Bombay. |
| 9 | Nassur Hajee Mowjee & Co., | 144, Samuel St., Mandvi, " |
| 10 | Eastern Mercantile Co., | 704, Mangaldas Market Bldg., " |
| 11 | Cooper Bros., | Opp. Town Hall, Sassoon Bldg., Fort, " |
| 12 | Majestic Trdg. Co., | 60, Fatma Manzil, Pallan Rd. |

IV SADDLERY GOODS (續十一)

- | | | |
|---|---------------------------|------------------------------------|
| 1 | Dunnett & Co., Ltd., | Rampart Row, Fort, Bombay. |
| 2 | Kamruddin Adanji & Co., | 449, Bhendi Bazar, " |
| 3 | Sulemanji Kadarhoy & Co., | Bhendi Bazar, " |
| 4 | E. S. Malla & Co., | " " |
| 5 | J. Muncheerji & Sons, | Kalbadevi Road, " |
| 6 | R. Pestonji & Sons, | Jambulwadi Lane, Kalbadevi Road, " |
| 7 | S. P. Mistry & Bros., | Lohar Street, Bombay. |

7 S. P. Mistry & Bros.,

- | | | |
|----|--------------------|--|
| 8 | Malcome & Co., | Cowasji Patel Street, Fort, " |
| 9 | K. Shapurji & Co., | 84, Parsee Bazar Street, Fort, " |
| 10 | Cooper Bros., | Old Sassoon Bldg., Old Custom House Rd., " |
| 11 | Pakhade Bros., | 24, Churchgate Street, Fort, " |
| 12 | J. A. Karachiwala, | Masjid Bunder Road, " |

V PORTLAND CEMENT (續十二)

- | | | |
|---|-------------------------|-----------------------------------|
| 1 | Shapurji Palonji & Co., | 70, Meadow Street, Bombay. |
| 2 | Gullamally Valliji, | 103, Katha Bazar, " |
| 3 | Karinji Esmalji, | 323, " " |
| 4 | J. C. Karaka & Co., | 127, Fort Street, " |
| 5 | Cooper & Co., | Abdul Rehman Street, " |
| 6 | M. Palonji & Co. | " " |
| 7 | Tata Sons & Co. Ltd., | Bombay House, Bruce Road, Fort, " |

VI PAINTS AND VARNISHES (續十三)

- | | | |
|---|---------------------------|----------------------------------|
| 1 | Ertuch D. Engineer & Co., | 95, Apollo Street, Fort, Bombay. |
| 2 | Kapadia Bros., | Abdul Rehman Street, " |
| 3 | Mugaseth & Sons, | 70, Apollo Street, Fort, " |
| 4 | Cooper Bros., | 55, Abdul Rehman Street, " |
| 5 | M. Palonji & Co., | Abdul Rehman Street, Fort, " |

6	Curseji & Co.,	56-58, Abdul Rehman Street, Bombay.
7	Keshval, Kamruddin & Co.,	Bhajiipalla Street, "
8	M. C. V. Thanawala & Co.,	" "
9	J. C. Karaka & Co.,	127, Fort Street, "
10	Jeevajee & Co.,	Linghe Chetty Street, Madras.
11	Ladsmi Ratans Ltd.,	316, Thambu Chetty Street, "
12	Munsie & Co.,	4, 1st Line Beach, "
13	Sabapathy Chetty & Sons,	46, Venkatchella Mudaly, Park Town, "

卍 RADIO (ラジオ装置)

1	Indian States & Eastern Agency,	Harawala Bldg, Witlet Road, Ballard Estate, Bombay.
2	Bombay Radio Co.,	Opp. Marine Lines Station, "
3	United Engineering Corporation,	15-16, Tamarind Lane, Fort, "
4	Eastern Electric Co.,	175, Hornby Road, Fort, "
5	Precious Electric Co.,	16, Humnum Street, Fort, "
6	Eastern Electric Light & Power Co.,	24-Bruce Street, Fort, "
7	Indian Radio Telegraph Co., Ltd.,	34-36-38, Apollo Bunder, "
8	F. M. Chinoy & Co.,	Radio House, Apollo Bunder, "
9	T. E. Bevan & Co, Ltd.,	Grosvenor House, Calcutta.
10	Radio Supply Stores,	9, Dalhousie Square, "
11	Hyland & Sons,	Lindsay Street, "

ㄤ ELECTRICAL GOODS (電氣器具)

1	T. G. Shah's Electrical Stores,	Harawala Bldg, Gol Pitha, Bombay,
2	Malome Co.,	Cawasji Patel Street, Fort, "
3	Jannadas Meghji,	Alice Bldg, Hornby Road, Fort, "
4	Eastern Electric & Trading Co.,	Hornby Road, Fort, "
5	J. Behramji & Co.,	121, Parsi Bazar Street, "
6	Manufacturers' Oriental Agency,	81, Cawasji Patel Street, Fort, "
7	Sohraji & Co.,	164/168, Bolarj Bazar Street, Fort, "
8	Eastern Mercantile Co.,	702, Mangaldas Market New Bldg., Princess Street, "
9	R. N. Marshall & Co.,	Raja Terrace, Lamington Road, "
10	M. Jagani & Co.,	Chakla Street, "
11	K. Shapurji & Co.,	84, Parsi Bazar Street, Fort, "
12	T. M. Thakore & Co.,	Church Gate Street, Fort, "
13	D. Bulsara & Co.,	Cawasji Patel Street, Fort, "
14	Sharma Trading Co.,	163, Lohar Street, "
15	Impex Agency,	89, Princess Street, "

九 BATTERY (蓄電池)

1	Turner Hare & Co., (Columbia)	Apollo Bunder, Fort, Bombay.
2	Greaves, Cotton & Co., (Vellard) (Refralight)	Forbes Street, Fort, "
3	The Bombay Battery Service. (Lucas)	Queen Road, "

- 4 F. & C. Osler & Co., (Exide) Hornby Road, Fort, Bombay.
 5 Chloride Electrical Storage Co., (Exide) Ballard Estate, Fort, "

|| O IMPORTERS & DEALERS OF METALS IN BOMBAY

(金屬輸入商
並取扱商)

- 1 Tata Iron & Steel Co., Ltd., Bruce lane, Fort, Bombay.
 2 Mithbhoj Nathoo & Co., Old Iron Market, Darockhana, "
 3 Hunnayan Bros., Imperial Bank Bldg, Mandvi, "
 4 Mohamedalli Trjbhoy, 4, Ripon Rd., Byculla. "
 5 Alliance Stores & Trading Co., Sandhurst Rd, " "
 6 Krishna Premji & Co., 45, Apollo St., Fort, " "
 7 Abdul Ajiij Ilaji Tyeb, 163, Kazi Syed St., Mandvi, "
 8 Hardware & Sundries Importing Agency, 19, Bank St., Fort, " "
 9 M. Goolamally Abdulhusein & Co., 66/68, Narayan Dhuru St., " "
 10 Gopaldas Ganeshdas, 2nd Bhoiwada St., Bhuleshwar. "
 11 Ebrahim Ilaji Aba, 21, Elphinston Circle, Fort, " "
 12 Lookmanji Ebrahimji, Mahalaxmi, " "

|| ALLUMINIUM (アルミニウム)

- 1 Abdul Karim & Co., 115, Janjekar Street, Bombay.
 2 Malcome & Co., Cawasji Patel Street, Fort, "
 3 Pakhade Bros., 24, Churchgate Street, Fort, "
 4 M. Jagani & Co., Nagdevi Street, " "

- 5 Gibbs Trading Co., Watson Annex, Esplanade Road, Bombay.

- 5 Khoja Mithbhoj Nathoo Tamba Kanta, "
 7 Dinuppella & Co., Goolawaji, Kalbadevi Road, "
 8 Gulam Husein Ali Mohamed, 406, Kansara Chowl, "
 9 H. H. Cassunnahoy & Co., Kalbadevi Road, " "
 10 Lallobhai Amba Ram, Kalbadevi Road, " "

|| ENAMELLED WARES (搪器類)

- 1 Manufacturers' Oriental Agency, 81, Cowasji Patel Street, Fort, Bombay.
 2 Sorabji Naoroji & Co, Bell Lane, Fort, "
 3 Franreze Bros.; Bhesania Bldg., Hornby Road, Fort, "
 4 Salemohomed Padamsey & Co., Chakla Street, " "
 5 Jagani & Co., Baria Mansion, Crawford Market, "
 6 Mithbhoj & Co., Rahim Building, 82-83, Princess St., "
 7 Cooper Bros., Old Sassoon Bldg., Hornby Road, Fort, "
 8 S. Pestonji & Co., Nawab Bldg., Hornby Road, Fort, "
 9 P. R. Patel & Co., 121, Esplanade Road, Fort, "
 10 D. Balsara & Co., Cowasji Patel Street, Fort, "
 11 J. Behramji & Co., 112, Parsee Bazar, Fort, " "

|| CYCLES & ACCESSORIES (自転車及回車用品)

- 1 Wellington Cycle & Motor Co., 313, Hornby Road, Fort, Bombay.

2	N. D. Patel & Co.,	Princess Street, Fort, Bombay.	111
3	Noble's Cycle & Motor Co.,	Hornby Road, Fort,	
4	Rapid Cycle & Motor Co.,	Kalbadevi Road,	
5	Gujrat Cycle & Motor Co.,	"	
6	S. Pestonji & Sons,	Nawab Bldg, Hornby Road, Fort,	
7	Cooper Bros.,	Bazar Gate Street, Fort,	
8	V. S. Bros.,	Kalbadevi Road, Fort,	
9	P. R. Patel & Co.,	121, Esplanade Road, Fort,	
10	J. Behramji & Co.,	120, Parsee Bazar Street, Fort,	
11	Gibbs Trading Co.,	Watson Annexe, Esplanade Road, Fort,	
12	Sohrab P. Patel,	Kudiana Bldg, Wadala Road, Dadar,	
13	Piroshaw & Sons,	Bomanji Master Lane, Bombay, 2.	
14	Impex Trading Co.,	Kothari Mansion, Fort, Bombay.	
15	Malcome & Co.,	115, Cowasji Patel St., Fort,	

■ 四 BANGLES, BEAD AND IMITATION PEARLS
(腕及足環「ビーズ」及模造真珠)

1	R. T. Shah & Co.	Dalal Street, Fort, Bombay,
2	Malcome & Co.,	115, Cowasji Patel Street, Fort,
3	K. Shapurji & Co.,	84, Parsee Bazar Street, Fort,
4	Vitaldas Jadwaji,	Navsari Bldg, Hornby Road, Fort

5	Majestic Trading Co.,	Fatma Bldg, Paltan Road, Bombay.
6	D. Bulsara & Co.,	Cowasji Patel Street, Fort,
7	Ardeshir Framji Davar & Co.,	Navsari Bldg, Hornby Road, Fort,
8	Khori, Noman & Co.,	Whiteway Bldg, Hornby Road, Fort
9	M. N. Mehta & Co.,	82, Bazar Gate Street, Fort,
10	B. J. Diwan & Co.,	Whiteway Bldg, Hornby Road, Fort,
11	Jagani & Co.,	Nagdevi Street,
12	Mirza Shakir & Co.,	Nagdevi Street, Fort,
13	Hardware & Sundries Importing Agency,	19, Bank Street, Fort,
14	N. M. Pohowala,	Bazar Gate Street, Fort,
15	S. Pestonji & Sons,	Nawab Bldg, Hornby Road, Fort,
16	H. Blaschsch & Co.,	Churchgate Street, Fort,
17	Cooper Bros.	Bazar Gate Street, Fort,
18	Tricundas & Co.,	Narotam Narandas Wadi, Kalbadevi,
19	E. F. Kavarana & Co.,	Bazar Gate Street, Fort,
20	Manufacturers' Oriental Agency,	81, Cowasji Patel Street, Fort,
21	J. Behramji & Co.	112, Parsee Bazar, Fort,
22	Sohrab P. Patel,	Kudiana Bldg, Wadala Road, Dadar,

■ 五 GLASS BOTTLES & TUMBLERS (硝子製瓶「コンブ」類)
1. David & Co., Ltd., 4, Queens Road, Bombay.

50
19

2	Nariman J. Patel,	139, Bohra Bazar Street, Bombay.
3	R. Manilal Parbhodas & Sons,	P. O. Box No. 1020, "
4	All India Glass Bottles Supplying Co.,	Chakla Street, "
5	K. Shapurji & Co.,	84, Parsee Bazar St., Fort, "
6	Habib Kara Bhinjji,	Dongri Street, Bombay, No. 9.
7	Sorabji Naoroji & Co.,	Cama Bldg., Bell Lane, Fort, Bombay.
8	Malwa Co.,	Meadows Street, Fort, "
9	Salemohomed Padamsey & Co.,	Chakla Street, "
10	Eastern Mercantile Co.,	704, Mangaldas Market Bldg., "
11	Curnally Jannohomed,	Samuel Street, "
12	P. R. Patel & Co.,	121, Esplanade Road, Fort, "
13	S. N. Majumdar,	Ropewalk Lane, Fort, "
14	B. J. Divan & Co.,	Whiteaway Bldg., Hornby Road, "

IK PORCELAIN WARES

(磁器)

1	Curnally Jannohomed,	160/2, Samuel Street, Bombay.
2	Abdulyeh Esmailji Maskati,	Nagdevi Street, "
3	Mirza Shakir & Co.,	Nagdevi Street, "
4	Joosub Feermohomed & Co.,	Shaik Memon Street, "
5	Salemohomed Padamsey & Co.	Chakla Street, "
6	Alladin Dhanji & Co.,	Lohar Street, "

7	Franroze Bros.,	Hornby Road, Fort, Bombay.
8	Cooper Bros.,	Bazar Gate Street, Fort, "
9	Malcome & Co.,	115, Cowasji Patel Street, Fort, "
10	Smatson,	Gowalia Tank Road, "
11	Habib Kara Bhinjji,	Dongri Street, "
12	Gibbs Trading Co.,	Watson Annexe, Esplanade Road, Fort, "
13	S. Abdulkarim & Co.,	115, Janjekar Street, "
14	B. J. Divan & Co.,	Whiteaway Bldg., Hornby Road, "
15	Majestic Trading Co.,	Fatma Building, Paltan Road, "
16	S. Pestonji & Co.,	Nawab Building, Hornby Road, "

II

CELLULOID TOYS AND GOODS

(セルロイド製品玩具)

1	N. S. Mistry & Co.,	Saraswati Mahal, Carnac Road, Bombay.
2	Sohrab P. Patel,	Kudiana Bldg., Wadala Road, Dadar, "
3	K. Shapurji & Co.,	84, Parsee Bazar Street, Fort, "
4	Gibbs Trading Co.,	Watson Annexe, Esplanade Road, Fort, "
5	Manufacturers' Oriental Agency.	81, Cowasji Patel Street, Fort, "
6	Malcome & Co.,	115, " " " " "
7	J. Behramji & Co.,	120, Parsee Bazar Street, Fort, "
8	S. Pestonji & Sons,	Nawab Bldg., Hornby Road, Fort, "

- 9 N. C. Gheewala & Co.,
- 10 Harsaware & Sundries Importing Agency,
- 11 Continental Business Bureau,
- 12 Triumdas & Co.,
- 13 Haji Jan Mohomed Latif,
- 14 R. T. Shah & Co.,
- 15 Impex Agency,
- 16 Cooper Bros.,
- 17 Pakhade Bros.,
- 18 Noman, Khori & Co.,

一九

BOOTS AND SHOES

- 1 S. Pestonji & Sons,
- 2 Karachiwala & Sons,
- 3 E. S. Mala,
- 4 Currimbhoy Dowdji,
- 5 Fine Art Footwear,
- 6 Cooper Bros.,
- 7 Manufacturers' Oriental Agency.
- 8 M. Franroze & Co.,
- 9 J. Behramji & Co.,

- 一六
- Parsee Bazar Street, Fort, Bombay.
- 19, Bank Street, Fort, "
- Khatau Mansion, Cirgaum Road, "
- Kalbadevi Road, "
- Abdul Rehman Street, "
- Aga Khan Bldg, Dalal Street, "
- Princess Street, "
- Sassoon Bldg, Bazar Gate Street, "
- 24, Church Gate Street, Fort, "
- Whiteway Bldg, Hornby Road, Fort, "
- (譯讀靴、子供靴其他靴類)
- Nawab Bldg, Hornby Road, Fort, Bombsy.
- Carnac Road, Bombay.
- " "
- " "
- " "
- Old Sassoon Bldg, Bazar Gate Street, Bombay.
- 81, Cowasji Patel Street, Fort, "
- Taj Bldg, Hornby Road, Fort, "
- 112, Parsee Bazar, Fort, "

- 10 Sohrab P. Patel,
- 11 Majestic Trading Co.,
- 12 C. P. Doshi & Co.,
- 13 B. J. Divan & Co.,
- 14 D. Bulasara & Co.,
- 15 Malcoma & Co.,

二〇

AUTO-ACCESSORIES

- 1 Wellington Cycle & Motor Co.,
- 2 P. R. Patel & Co.,
- 3 Gibbs Trading Co.,
- 4 S. Pestonji & Son,
- 5 Malcome & Co.,
- 6 J. Dehramji & Co.,
- 7 Manufacturers' Oriental Agency,
- 8 E. S. Malla & Co.,
- 9 Cooper Bros.,
- 10 Pakharde Bros.,
- 11 K. Shapurji & Co.,
- 12 Hardware & Sundries Imp'g. Agency,
- 13 Impex Trading Co.,

- Kudiana Bldg, Wadala Road, Dadar, Bombay.
- Falman Manzil, Paltan Road, "
- P. O. Box No. 126, "
- Whiteway Bldg, Hornby Road, Fort, "
- Cowasji Patel Street, Fort, "
- 115, Cowasji Patel Street, Fort, "
- (亞倫申密漢哈)
- 313, Hornby Road, Fort, Bombay.
- 121, Esplanade Road, Fort, "
- Waston Hotel Annexe, Esplanade Road, Fort, "
- Nawab Bldg, Hornby Road, Fort, "
- Cowasji Patel Street, Fort, "
- 112, Parsee Bazar Street, "
- 81, Cowasji Patel Street, Fort, "
- Bhendi Bazar, "
- Old Sassoon Bldg, Bazar Gate Street, "
- 24, Churchgate Street, Fort, "
- 84, Parsee Bazar, Fort, "
- 24, Bank Street, Fort, "
- Kothari Mansion, Fort Street, "

- 14 Majestic Trading Co , Fatma Manzil, Paltan Road, Bombay.
- 15 Khori, Nomman & Co., Whiteway Bldg, Hornby Road, Fort, "
- 16 Chhaganlal Bhagwanji & Co., 8/10, Bohra Bazar St., "

III BRUSHES (鬃 子)

- 1 A. H. Naser & Co., Peerbhoy Bldg, Princess Street, Bombay.
- 2 Malcome & Co., 115, Cowasji Patel Street, Fort, "
- 3 Framroze Bros., Bible House, Hornby Road, Fort, "
- 4 J. Behramji & Co., 112, Parsee Bazar, Fort, "
- 5 Gibbs Trading Co., Watson Annexe, Esplanade Road, Fort, "
- 6 Fazulbhoy Haji Cassum & Co., 29, Dongri Street, "
- 7 K. Shapurji & Co., 84, Parsee Bazar, Fort, "
- 8 Hardware & Sundries Imp'g Agency, 24, Bank Street, Fort, "
- 9 Cooper Bros., Old Sassoon Bldg, Bazar Gate, "
- 10 S. Pestonji & Sons, Nawab Bldg, Hornby Road, Fort, "
- 11 Cooper & Co., 55, Abdul Rehman Street, "
- 12 Khori, Noman & Co., Whiteway Bldg, Hornby Road, Fort, "
- 13 Smartson & Co., Patel Mansion, Cowalia Tank Road, "
- 14 S. Abdulkarim & Co., 115, Nawab House, Jankar Street, "
- 15 Janshedji Ratanji & Co., Apollo Street, Fort, "
- 16 P. R. Patel & Co., 121, Esplanade Road, Fort, "

17 Kapadia Bros,

81, Abdulrehman Street, Bombay.

IIII BLISTLES (靈 丹)

- 1 Begbie & Co, Ltd., York Bldg, Hornby Road, Fort, Bombay.
- 2 Dr.Jariwala Shah & Co, Ltd., 71/73, Apollo Street, Fort, "
- 3 Balmer Lawrie & Co., Ballard Estate, Fort, "
- 4 Cox & King's (Agents) Ltd., Cox Bldg, Hornby Road, Fort, "
- 5 N. V. Velmohomed & Co., 159/161, Khoja Mohilla, Mandvi, "
- 6 W. H. Brady & Co., Ltd., Churchgate Street, Fort, "
- 7 Esmail Veerji & Co., Samuel Street, "
- 8 Allen Bros., Ltd., Ballard Estate, Fort, "
- 9 Briskiy & Co., Dharavi Road, "
- 10 Grindlay & Co, Ltd., Ballard Estate, Fort, "
- 11 S. Bannister & Co., Navsari Bldg, Hornby Road, Fort, "

IIIIII PATENT MEDICINES AND DRUGS (膏 藥 類)

- 1 Wright & Co., Mint Kord, Fort, Bombay.
- 2 Malcome & Co., 115, Cowasji Patel Street, Fort, "
- 3 J. Behramji & Co., 112, Parsee Bazar, Fort, "
- 4 T. M. Thakore & Co., Readymony Mansion, Churchgate Street, Fort, "
- 5 S. N. Majumdar & Co., Kopewalk Lane, Off Meadows Street, Fort, "
- 6 R. N. Kustomji & Co., P. O. Box No. 884, Bombay.

- 7 Kemp & Co.,
Charni Road, Bombay.
- 8 Treacher & Co.,
Esplanade Road, Fort, "
- 9 Parry & Co.,
Grant Road, "
- 10 M. T. Madon & Co.,
Abdulrehman Street, "
- 11 F. C. Kavarana & Sons,
12, Princess Street, "
- 12 Belliram Bros.,
Princess Street, "
- 13 Sorabji Edulji Gandhi & Co.,
Shank Memon Street, "
- 14 I. C. Gajjar & Co.,
Princess Street, "
- 15 Powell & Co.,
Lamington Road, "

IIII INSECT POWDER, STICKS AND COILS (除蟲菊)

- 1 A. H. Naser & Co.,
Princess Street, Bombay.
- 2 M. T. Madon & Co.,
Crawford Market, "
- 3 J. Behramji & Co.,
112, Parsee Bazar, Fort, "
- 4 Abdullusein Tyeballi,
Bombay.
- 5 F. N. Rustomji & Co.,
Shimn Mansion, Sletter Road, Grant Road, Bombay.
- 6 T. M. Thakore & Co.,
Churchgate Street, Fort, "
- 7 Pandit & Co.,
15, Forbes Street, Fort, "
- 8 K. Shapurji & Co.,
84, Parsee Bazar Street, "
- 9 Malcome & Co.,
Cowasji Patel Street, Fort, "
- 10 Eastern Mercantile Co.,
Mangaldas Road, "

- 11 Cooper Brothers,
Old Sassoon Bldg., Buston House Road, Bombay.

IIII MENTHOL (薄荷)

- 1 Hassanali Kamroodin,
Chippisi Chawl, Abdul Rehman Street, Bombay.
- 2 N. C. Bhesania & Co.,
Vadgadi, Bombay.
- 3 E. S. Abdul Kayum,
Bombay.
- 4 H. Mohanlal & Co.,
Nagdevi Street, Bombay.

IIII CAMPHOR (樟腦)

- 1 Mitsui Bussan Kaisha, Ltd.,
192, Hornby Road, Fort, Bombay.
- 2 Ralli Bros.,
Raveline Street, Fort, "
- 3 P. R. Patel & Co.,
121, Esplanade Road, Fort, "
- 4 Gopalji Champsi,
Vadgadi, Mandvi "
- 5 Triunddas Damji,
- do -
- 6 Maganlal Deushankar,
- do -

IIII INKS (墨水)

- 1 Wise Brothers,
Mangaldas Road, Bombay,
- 2 P. F. Rele,
Kalbadevi Road, "
- 3 Commercial Stationery Mart,
Gogha Street, Fort, "
- 4 Noman & Bros.,
Narayan Dhuru Cross Street, "
- 5 J. V. Navlakhil & Co.,
Bomanji Master Lane, Bombay, 2.
- 6 V. M. Varma & Co.,
Khetwadi Main Road, Bombay.

7	Eastern Mercantile Agency,	Mangaldas Road, Bombay	1111
8	Shree Jagnathji & Co.,	P. O. Box No. 3535, "	
9	Malcome & Co.,	115, Cowasji Patel Street, Fort, "	
10	K. Shaourji & Co.,	84, Parsee Bazar, Fort, "	
11	J. Behramji & Co.,	112, Parsee Bazar, Fort, "	
12	Bombay Stationery Mart,	Parsee Bazar, Fort, "	
13	Vrajlal Dulbhadras & Co.,	204, Hornby Road, Fort, "	
14	United Commercial Co.,	No. 8, Parsee Bazar Street, Fort, "	
15	Bombay Continental Trading Co.,	87, Meadows Street, Fort, "	
16	M. Jagani & CO.,	191, Nagdevi Street, "	
17	Shroff & Mistry,	17, Humnum Street, Fort, "	
18	Liberty & Co.,	Dhobitala, "	
19	S. Pestonji & Co.,	Navab Bldg, Hornby Road, Fort, "	
20	P. R. Patel & Co.,	121, Esplanade Road, Fort, "	

112 PENCILS (鉛筆)

1	Bombay Stationery Mart,	Parsee Bazar, Fort, Bombay.
2	Bombay Stationery Depot,	" "
3	Kaderbhoy Mohomedally & Co.,	Sutar Chawl, Bombay.
4	Gunjawalla & Bros.,	Abdul Rehman Street, Bombay.
5	Manecklal Maganlal & Co.,	" "

6	M. Vadilal & Co.,	Abdul Rehman Street Bombay.
7	Shamsuddin Moolla Abdul Tyeb,	" "
8	S. Pestonji & Co.,	Navab Bldg, Hornby Road, Fort, Bombay.
9	Heman & Co.,	Opp. Tejpal Hospital, Carnac Road, "
10	P. R. Patel & Co.,	121, Esplanade Road, Fort, "
11	Cooper Bros.,	Old Sassoon Bldg, Old Custom House Road, "
12	Manilal Manecklal,	Abdul Rehman Street, "

119 SOAP (石鹼)

1	Sanghani & Co.	7, Shamsel Street, Bombay No. 2.
2	Malcome & Co.	115, Cowasji Patel Street, Fort, Bombay.
3	Chhaganlal Bhagwanji & Co.,	8/10, Bora Bazar Street, Fort, "
4	J. Behramji & Co.,	112, Parsee Bazar, Fort, "
5	Vannalli Virji,	Champsy Bldg, New Hanuman Lane, "
6	K. Shapurji & Co.,	84, Parsee Bazar Street, Fort, "
7	Smartson,	Patel Mansion, Gowalia Tank Road, "
8	Shorab P. Patel,	Kudiana Bldg, Vatala Road, Dadar, "
9	J. A. Karachiwara,	Masjid Bunder Road, Mandvi, "
10	The Majestic Trading Co.,	60, Fa'ima Manzil, Pallan Road, "
11	Pakhade Bros.,	24, Churchgate Street, Fort, "
12	T. M. Thakore & Co.,	Readymony Bldg, Churchgate Street, "